

594.7
089

手155

大東學校圖書

3385
昭和
東京 杉千代田區
大東學校圖書館

袋物講義 目次

第一章 緒言……(一)
第一節 用具と材料……(三)
第一 用具……(三)
第二 材料……(八)
第二節 各部分の名稱……(一〇)
第三節 製作上の心得……(一三)
第一 裁斷丁の使ひ方……(一三)
第二 型紙の裁ち方……(一四)
第三 糊のつけ方……(一六)
第四 貼り方……(一七)
第五 袋取りの仕方……(一八)
第六 用布の裁ち方……(一九)
第七 筋のつけ方……(二一)
第二章 皿刳名刺入……(二三)
第一節 用布の寸法割出し方……(二三)

第二節　製作の順序……（一三）
（一）裁ち方……（一三）
（二）貼り方……（一五）
（三）縫ひ方……（一六）
（四）仕上げの仕方……（一九）
（五）帶紙の仕方……（二〇）
第三章　日の出形銀貨入……（二一）
（一）用布……（二一）
（二）型紙裁方……（二二）
（三）日の出形接き合せ方……（二五）
（四）貼り方……（三九）
（五）縫ひ方……（四〇）
（六）付上げ……（四五）
第四章　小形バッグ……（四六）
（一）用布……（四六）
（二）型紙の裁方……（四七）
（三）裁ち方……（四七）
（四）縫ひ方……（四九）
（五）口金の附方……（五〇）
（一）材料……（五一）
第五章　朝日巻煙草入……（五一）

（二）型紙裁方……（五一）
（三）貼り方……（五四）
（四）貼合せ方……（五四）
第六章　九重形琴爪入……（五八）
（一）材料……（五八）
（二）型紙裁方及筋の入方……（五八）
（三）貼り方……（六一）
（四）縫ひ方……（六二）
第七章　鏡付打粉入れ……（六六）
（一）材料……（六七）
（二）型紙裁方……（六七）
（三）貼り方……（七〇）
（四）貼り合せ方……（七一）
第八章　常盤バッグ……（七六）
（一）材料……（七六）
（二）型紙裁方……（七六）
（三）貼り方……（七八）
（四）縫ひ方……（七八）
第九章　紙ばさみ……（八一）

(一) 材料……(八一)
(二) 裁ち方……(八二)
(三) 貼り方……(一〇五)
(四) 縫ひ方……(一〇六)

第十章　被せ附雨縢り紙入……(一〇九)

(一) 材料……(一〇九)
(二) 型紙裁方……(一一〇)
(三) 貼り方……(一一三)
(四) 縫ひ方……(一一四)

第十一章　記念バツグ……(一二二)

(一) 材料……(一二二)
(二) 型紙裁方……(一二二)
(三) 貼り方……(一二五)
(四) 縫ひ方……(一二五)

第十二章　二つ折鏡入……(一二七)

(一) 材料……(一二七)
(二) 型紙裁方……(一二七)
(三) 貼り方……(一三一)
(四) 縫ひ方……(一三二)

第十三章　ノート付紙入……(一三五)

(一) 材料……(一三五)
(二) 型紙裁方……(一三六)
(三) 貼り方……(一三九)
(四) 縫ひ方……(一四一)

第十四章　利久形煙草入……(一四五)

(一) 材料……(一四五)
(二) 型紙裁方……(一四六)
(三) 貼り方……(一四九)
(四) 縫ひ方……(一五〇)

第十五章　扇襠附紙入(婦人持)……(一五八)

(一) 材料……(一五八)
(二) 型紙裁方……(一五八)
(三) 貼り方……(一六二)
(四) 縫ひ方……(一六五)

第十六章　三つ巻財布……(一七一)

(一) 材料……(一七一)
(二) 型紙作り方……(一七一)
(三) 貼り方……(一七四)
(四) 縫ひ方……(一七五)

第十七章　アンテラバッグ……（一八〇）
（一）材料……（一八〇）
（二）型紙作り方……（一八一）
（三）貼り方……（一八一）
（四）縫ひ方……（一八五）
第十八章　男持紙入……（一九一）
（一）材料……（一九一）
（二）型紙裁方……（一九二）
（三）貼り方……（一九六）
（四）縫ひ方……（一九九）
第十九章　折襠附大人持箱迫……（二〇六）
（一）材料……（二〇七）
（二）裁方……（二〇七）
（三）貼り方……（二一四）
（四）縫方……（二一八）

裁縫袋物講義　目次（終り）

袋物科

大妻一惠

緒言

袋物はその種類甚だ多く、且つ年々争つて新形を工夫し、案出致しますので一々數へ上げるのは困難でございます。而して其の用途も、小さい子供の腰に下げる巾着の類を初めとして、紙幣や銀貨を入れる金入墓口類、及び散歩又は旅行する時に欲く事の出來ない手提類など、幼老男女の別なく、等しく用ゐられて居るのでございます。

では之を製作するのは六ケ敷いのかと申しますに、各その法則に從つて致しますなら何人にも容易に出來る、興味多き手藝でありまして、一般家庭に於て僅かの間に布片を應用して美しい袋物を作ることが自由に出來るやうになるのでございますから、廢物利用法としても此上ない趣味あるものと存じます。

一　用具と材料

袋物の製作上について必要なる用具と材料とを列擧致しますと、凡そ左の通りでございます。

用具

一　裁ち板　その大さは各自の随意でございますが、從來私が用ゐて尤も便利だと感じて居りますのは、幅九寸、丈一尺三寸、厚さ一寸三分の朴の木で作つたものでございます。その用途は、袋物を製作するに當つて裁ち方、貼り方、仕上げ等をすべて此の板の上で致しますのでございます。

二　裁ち庖丁　これは一名角庖丁ともいひ、型紙及び用布、その他すべての物を裁つ場合に用ひるものでございます。

三　尺度　これは五厘目附の曲尺一尺のものを用ひ、目盛りをした方のなるべく地薄いものが都合がよろしいのでございます。

四　長定木　これは赤樫で作りました幅一寸三分、長さ一尺三寸、厚さ二

分位の細長いもので、物を裁つ時に定木に致しますのでございます。

五　正直定木　これは張子紙やその他の心紙に用ひる厚紙を正確に裁たうとする時に使用し、赤樫で作つた曲の手に曲つたものでございます。製圖用の三角定木を用ひましても差支ございません。何れにしても正確なものを撰ばなくてはなりませんのでございます。

六　糊板　これは朴の木で作りました幅三寸、丈六寸、厚さ六分の板であつて、糊を溶る臺に用ひますのでございます。

七　糊筒　これは糊を練つたり、用布や型紙その他のものに糊をつける時に用ひるもので、枯竹で作つたものが宜しうございます。

八　鑢　これは型紙を用布に貼りつけた時や、縫ひ目を折つた時又は用布の小皺や布目を正す時等に用ひまして、鋼鑢の兩磨が尤も宜うございます。

九　筋鑢　これは用布或は型紙に筋を入れるのに用ひまして、鑢と同じ質の金で作るのでございます。

十　仕上げ篦　これは一名返し篦ともいひ、貼り込み、折り返し、引き返

し、出來上りの物の形を正しくする時や仕上げ等に使用致します。そして長さ一尺許りの枯竹や煤竹の枯れたので作つたもので、その末端は裏の方を圓く肉を持たせて削り、表の方を薄く削つて全體に磨きをかけて滑に致したものでございます。

十一　目打錐　これは大小二種ございますが、何れも末端まで丸く尖つた細い錐で、線を引く時、折り返しの時、角を正す時、縫ひ目を揃へて仕上げをする時、また型紙に穴を明ける時、小鎚を打つ時、用布に穴を明ける時などに使用致しますのでございます。

十二　叩き刷毛　これは型紙又は用布にベタに糊をつけて貼る時、塵を拂ふ時などに用ひるのであつて、形の小さい、柄のついた物を使用致します。

十三　大黒槌　これは檜の木で作つた小さい槌でございまして、縫ひ目の折りをしつかりと附ける時やホックを打つ時に用ひるのでございます。

十四　金槌　これは一名とんかちともいひ、鐵で作つた小さい槌でございまして、主として小鎚その他の金具を打つて平にする時に使用致します。

十五　筒返し棒　これは櫻の木で作つた直徑四分、丈七寸の丸の棒でございまして、煙草入等の筒を返し、又仕上げをする時に用ひます。なほ附屬として、直徑二分、丈七寸位の竹の細い棒がございます。

十六　返し竹　これは直徑四分、丈七八寸の丸竹で作り一方の末端を四寸ばかり四つに割つて末端に丸味をつけて磨きをかけたもので、箸入又は煙草入の筒を返す時に用ひるのでございます。

十七　丸み型　これは、幅一寸、丈一寸五分位の眞鍮で作つた極く薄い板で恰度裁縫用の袂形の様なものでございます。これは被せその他の丸みの所に、形よく丸みをつけるのに使用致します。

十八　喰切り　これは小さい釘抜きに刃をつけた様な形のもので、小鎚の足などの金を切る時に用ひるのでございます。

十九　やつとこ　これは一寸喰切りの様な形をしてゐて、その尖端が細く長く伸びて刃のつかない物でございます。これは小鎚の足の曲りを直したり、或はホックの凸が大きすぎてその壺へ這入らぬ時に、その凸を挟み縮めたりな

どするに使用致します。

二十　輕便ホック打　これは、赤樫で作つた丸棒の尖端を、丸く凹めた物でございまして、その棒の長さは三寸五分、丸さは直徑が六分で凹の形は、皿形に凹んだものと、直徑二分、深さ三分位に凹んだものとの二種あります。之はホックを打ちつける時に、そのホックが潰されぬ樣にこの凹みの穴を上から當てゝ槌で叩くのに用ひるのでございます。

二十一　鳩目拔　これは尖端の方に至るほど細くなつた卷煎餅に柄をつけた樣な格好の鋼鐵で作つたもので、その穴の尖端の緣に及がつけてございます。而してこれは大小の二種ありまして、大の鳩目拔の方は、その丸穴の直徑が一分五厘で、小の方は五厘であつて、何れも用布に穴を明ける時用ひるのでございます。

二十二　鉛臺　これは鉛で作つた幅一寸、丈一寸五分、厚さ五分のもので、鳩目拔で用布に穴を明ける時に、用布の下に敷く臺に致します。

二十三　鐵臺　これは、幅一寸、丈一寸二分、厚さ二分の鐵で作つたもの

で、ホックや小鳩を打ちつける時に用ひるのでございます。

二十四　口金入　これは鋼鐵で作つたもので、その尖端が大きく丸く平に開き、それに丸い木の柄がついてゐます。蟇口やバッグの口金を附ける時に使ふのでございます。

二十五　木型　これはいろ〳〵の種類がありまして、製作するものによつてそれ〳〵寸法が異ひます。そしてこの木形は袋物の製作中に使用し、大抵朴や櫻の木で作るのでございます。

二十六　膳り板　これは朴の木や櫻の木で作つた、幅二寸、丈六寸、その厚さは製作する箱の寸法に合はせて、二分、二分五厘、三分、三分五厘と數種がございます。これは箱迫、紙挿などの千鳥がけその他兩方の側へ糸をかけて膳り合はせるに當つて使用致します。

二十七　仕上げ布　これはよく洗つて糊氣や垢を落し去つた綺麗な手拭か半巾で、仕上げをする時にそれを少し濡らして用ひるのでございます。

その他、針、針刺、指貫なども要りますけれど、それ等は普通裁縫に使用す

るものと同様でございますから、此處には省くことに致します。唯針箱は用具に長い物が澤山ありますので、私は、高さ一尺、幅は裁ち板の這入る位の大さ長さは長定木を自由に入れられる程の物で、中に上げ底を一つ附け、上げ底の下に用布を納める様にしたものを工夫して用ひて居ります。

材料

一　用布　用布の品質はその人の好みによつて何樣な布地を用ひても宜しいのでございますが、鍛をかけた時又は僅かな濡りのために縮んだりするものは避けねばなりません。

二　皮　皮にもいろ〳〵の種類がございますけれど、なめし皮、鹿皮、銀付のへがし皮等を用ひるのでございます。

三　縫ひ糸　縫ひ糸は主として絹糸を用ひます。木綿糸や人造絹などは絹糸と違つて縮めが弱く、直ぐに切れ勝ちでございますから、能ふ限り用ひないが宜しいと思ひます。

四　型紙　型紙は用布に貼るものと、心紙用のものとの二種を要します。

即ち、

（イ）**生半紙**　生漉きの日本紙で、少しも西洋紙氣のないものをすべて用布に貼る型紙に用ひます。

（ロ）**張子紙**　漉き返し（浅草紙）のやうな紙で、地の厚いものと地の薄いものと凡そ十五種ばかりありまして、一々番號で區別され、一番張子紙より二番張子紙が厚く三番張子紙よりも四番張子紙が厚いといふやうに、その番號の順に、次第に厚くなります。これは主として心紙に使用し、普通三番張子紙から八番張子紙までの間を用ひます。然し場合によつては用布に貼る型紙とすることもあるのでございます。

（ハ）**大半紙**　張子紙に似た稍々地の薄い質の脆い紙でございまして、これは場合によつて心紙又は型紙に用ひます。

（ニ）**板目紙**　これは半紙の板目紙で帳簿の表紙のやうな厚紙でございまして、五枚張り以上、十枚張り位までの物を心紙にする事がございます。

五　竹紙　これは竹の皮を薄く漉いて製し、その裏に紙を貼つたもので

濡れ物を入れる袋をこしらへる場合に張ります。

一、經木　これは木を極めて薄く板に削つた物で、襖等の心に用ひます。

七、糊　盤石糊と姫糊の二種を用ひます。而して盤石糊は、紙入、煙草入その他の口を貼る時や蟇口或はバッグ等の口金を附ける場合に用ひ、姫糊は主として型紙を用布に貼りつける時に使用するのでございます。

その他、蟇口用やバッグの口金、ホツク、小馳、護謨テツプ、打ち紐、底鉄などが要りますが、それ等は使用する時に説明することに致します。

二　各部分の名稱

着物や羽織の各部分に特殊の名稱がついて居る様に、袋物にも各々の部分に次ぎの様な名稱があるのでございます。

一、胴　表用布全體を胴と申します。

一、脊　袋の所を脊といひ、又袋とも申します。

一、前　胴の用布が前の方に折り返つた所、主として小馳かけの糸のつい

てゐる邊を申します。

一、被せ　小馳及びホークのつく所で、脊の上の方を前の上に折り被せた所を申します。而して大被せ小被せ、前被せなどの種類がございます。

一、襠　紙入などの兩方の横に付いて厚みを作り、物が多く這入るやうに工夫したものでございます。

一、前口　單に口ともいひ、袋の前の所につける口を申します。

一、段口　前口の下につく口を申します。

一、上口　前口の上に付く口全體を申します。

一、深口　位置は上口と同じでございますが、その口の丈が袋の底まで届いてゐるのを申します。

一、金留　深口や上口などの上に五分ばかり用布を下向きに附けた物をいひ、これは紙入などを這様にした時、中から小錢の轉がり出るのを受留る爲めにつけた物でございます。

一、鳥乘　口の所の右の方、又は兩脇を少し明けて縫ひ合せない所を申し

きます。

一　**腰り**　袋の横或は口などを打ち紐又は縢り糸で縢つたのを申します。

一　**山丈**　出來上りの袋の丈を、二つなり三つなりに折つた所の、その高さを申します。

一　**幅**　型紙や用布、又縫ひ上げた後の横の寸法を申します。

一　**丈**　すべて型紙や用布などの縦のことを申します。

一　**裏**　外裏、口裏、中裏、奥裏、深口裏、被せ裏等の名がございます。

一　**繰り**　半月形その他さま〴〵の形に繰り込んである所を申します。

一　**並の縫ひ代と折り返し**　並の縫ひ代とは一分五厘に標をつけ、その内を縫から一分の深さで縫ふことをいひ、折り返しとはその標の通りに一分五厘の深さで、裏の方へ折ることを申します。

一　**包み**　折り返しと略同じでございますけれど、その寸法が折り返しの凡そ二倍（三分）位であります。これは心紙を包んで貼る時に致します。

一　**型紙の名稱**　型紙を大別すると、表型紙、裏型紙及び心紙の三種がご

ざいます。そして時に同種類のもの、例へば表型紙ばかりが二枚以上もあることがございますから、説明の便宜上、私はそれに被せ表の型紙とか、縢り表の型紙とかと、その部分の名稱を以て呼ぶことに致します。

また心紙には縫ひ合せない前に型紙の上に貼りつけるものと、縫ひ上つてからこれを差し込むものとの二種がございます。而してその貼りつけるものを増紙といひ、後から差し込むのを差し込み心紙と申します。而して差し込み心紙には多く張子紙（五番より八番まで）を用ひますので、又差し張子の名がございます。増紙には大半紙や張子紙を用ひ、張子紙の場合には六番以下の地の薄いものを使用致します。

この他、袋物の種類によりて種々の名稱がございますけれど、今は特に必要なものゝみに止めて、他は省くことに致します。

三　製作上の心得

裁ち庖丁の使ひ方

裁ち庖丁で物を裁たうとする時は、右の手で裁庖丁を輕く握り、左の手で定木を押へてゐながら、裁ち庖丁を定木の縁に添はせて向ふの方から手前の方へ靜かに引き、定木の線を削らないやうに注意して裁ち落します。

型紙の裁ち方

型紙は極めて地質の厚い紙と、普通の厚さの紙との二種ございまして、各々その裁ち方が異います。しかし何れの型紙も定木と裁ち庖丁とを用ひて裁ちます。そして裁つに當つて考へねばならないことは、尤も正確に、少しの狂ひもない様に裁つと云ふ事でございます。

普通の厚さの型紙の裁ち方

(イ) 型紙に裁たうと思ふ紙を裁ち板の上に縦にのせ、紙の右の端に長定木を當てゝ耳を裁ち落し、その裁ち落した端から尺度を當てゝ幅の寸法を定め、又定木によつて正しく裁ち落します、すると幅は必要な寸法通りで、縦の方は紙の丈だけのものになります。

(ロ) 次にその裁ち切つた紙を中表にして幅を二つに折りますと、裁ち目と裁

ち目と重なつた細長いものになります。この裁ち目を向ふに、輪の方を手前にして平に置きますと、左右の端はまだ裁つてございませんから、不揃になつて居ります。次にその右の端から一二分這入つた所を裁ち目の方で切り込みを入れまして、それを又元の通りに開いて切り込みと切り込みとに定木を當てゝ正しく裁ちます。これで右の端は正しい角になつたわけでございます。

(ハ) 次に再び幅を正しく二つに折り、製作しやうとする物の寸法通りに右の端から裁ち庖丁で切り込みを入れ、殘りの紙は再び開いて最後の丈を定木によつて正しく裁ち落します。すると必要な寸法通りのものが裁ち切れたことになります。

尚ほ被せの丸味又は丈の終りの刳りになつてゐる場合には、いつも幅を二つに折つて裁たねばなりません。又場合によつては最初に丈をきめて裁ち、そして後に各々の標の切込みを入れても差支ございませんが、この場合には丈の寸法を正確に裁つて置きませんと、丈が狂ひ易うございますから充分の注意を要します。

厚い型紙の裁ち方

厚い紙を正しく裁ちますには先づ紙の一方の角から一二分の處に正直定木、又は三角定木を當てゝその定木の通りに標をつけますと角が一つ出來ますからこの角から寸法を定めて裁ちます。そして斯うした厚い紙は主として心紙や差張子などに用ひますから、若し其の形が正確に裁たれて居りませんと、如何程恰好よく縫ひ上がつてゐる袋でも、心紙通りに歪んだりなど致しまして餘程見苦しくなりますから、十分注意を拂つて裁たねばなりません。

糊のつけ方

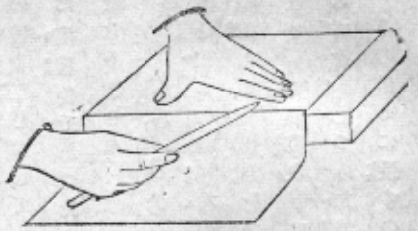
一　型紙に糊の附け方　型紙に糊をつける場合には、大抵その糊代は五厘以下でございまして、多くは縁に一寸つけて置きます。そして糊のつけ方は裁ち板の向つて右の小端に型紙の表の縁を糊代だけ出し、左手で型紙の糊代に近い方をしつかりと抑へ、糊筥の尖端に糊をつけて右手に持ち、型紙の手前から向ふの方へ、糊筥の皮の方で輕くつけて行きます。すべて糊はボテ〳〵と澤山つけすに、うつすらと平につけ、用布に貼つた時に用布の表に膨み出ないやうにしなければなりません。若し糊がむらにつきました時は筥の先きで扱くやうにして平に致します。

二　留糊の仕方　用布と型紙とがすれないやうに、特に留糊といふものを施すことがございます。留糊の仕方は、留糊を施さうと思ふ所を裁ち板の小端に圖のやうにあて、前の糊づけと同樣の方法で、一直線に幅五厘位に糊をつけ、而して用布に貼るのでございます。

その他用布や型紙の面にベタに糊をつけることがございますが、それは製作する時にその方法を說明する事に致します。但し用布にベタに糊をつけることを引き糊といひ、型紙にベタに糊をつけることをベタ糊と申します。

第一圖

留糊の仕方



貼り方

型紙を用布に貼りつけますには、まづ型紙の周圍の縁に糊をつけ（特殊の場合

はこの限りに非ず。用布の上へ平に載せ、周圍を平に貼る場合には掌でそつと平に抑へて鏝を當てゝ貼りつけます。また袋取りを施す時は、最初に兩横を鏝で貼り附け、然る後丈の方へ袋取りをして鏝で貼りつけます。

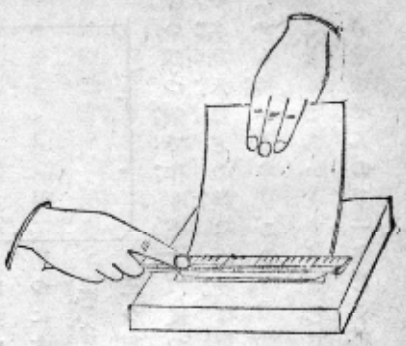
この型紙を用布に貼る時に注意せねばならない事は、用布が正しくなつてゐるか何うかを改める事でございます。即ち、最初用布に鏝をあてゝ絲を伸し用布の地の目を正しくしておき、其用布の地が縞物である時はその縞目が曲らぬ様にまた模様物であつたら出來上つてからその模様が逆様にならぬ様に、注意致さねばなりません。

袋取りの仕方

袋取りと云ふのは用布の丈の端を型紙よりも弛ませたり、つらせたりする事で、その弛ませる仕方を表の袋取りと云ひ、用布をつらせる仕方を裏の袋取りと申します。この袋取りは表用布と合はせて袋を拵へる時表の方を弛み加減にし、裏の方を少しつり加減にして縫ひ合せますと、その袋の格好がよく出來上るから、その爲めに致すのでございます。

第二圖

袋取りの仕方



一　表の袋取りの仕方　表の袋取りは型紙に用布の兩横を平に貼つておき、袋取りをしやうと思ふ所から五厘位型紙より先の處、用布に一寸目標をつけ、而して型紙の方を見て、袋取りをしない方の丈を左の手で持ち、右の手で尺度か仕上げ篦かを持ち、左の手を上にあげ乍ら右の手の尺度で型紙を先刻の目標に向つて左から右に數回圍のやうに扱き型紙の縁が目標の所迄屆く様にして其所を貼りつけます。

二　裏の袋取りの仕方　裏の袋取りは表の時と反對に、用布の方を見て表の時と同じ仕方で用布を扱きます。すると用布が少しつり加減になつて型紙が弛みますから其儘貼りつけます。

用布の裁ち方

一　用布の巾の割り方　袋物に用ひる用布は、錦巾といつて、大抵曲尺二尺二寸五分幅の物を普通と致します。そしてこれを片つ端から入用なだけ裁ち切るとか又は仕立てる物によつて最初に相當にその幅を割りつけて裁ちます。その割りつけ工合によつて、三つ割、四つ割、五つ割、六つ割、七つ割、の名稱がございます。而して三つ割といふのは、曲尺二尺二寸三分の布の幅を三つに割つたものをいひ、四つ割は四つに五つ割は五つに六つ割は六つに七つ割は七つに割つたものを各申します。手提袋、煙草入及び箱迫などは多く三つ割を用ひ、男持ちの懐中物などはそれより少し幅の狭い四つ割で作ります。五つ割は多く女持ちの懐中物にあて、六つ割は銀貨入や名刺入などの様な小物に用ひます。七つ割は楊子入などの様な最も小さい物ばかり拵へます。この他、製作しやうとする種類によつて適宜に幅を割り附けることもございます。而して其長さは仕立てる品物によつて長短様々に致さねばなりませんので一定して居ません。

第三圖
用布の裁殘し方



二　用布の裁ち方　型紙を貼りつけた用布を裁つには、その型紙から外に餘つて居る用布を裁ち目が曲らぬやうに型紙通りに定木を當てゝ裁庖丁で正しく裁ち落します。而して何れも用布は型紙の形と同様に裁たねばなりませんが小さい切り込みや、丈の両端の深い切込みの所は正直にこれを裁たずに圖に示してあるやうに其處だけ特に用布を殘して置きます。この圖中の黒い所は用布を裁ち殘した部分を現したものでございます。

三　縁糊の仕方　用布を裁ちましたらばその裁目がほつれたり、毛立つたりしないやうに、用布の方を見て普通の糊づけの時と同じやうに致しその裁目へ糊をつけて置くのでございます。これを縁糊と申します。

筋のつけ方

型紙の面に筋をつけるには、遺花用の筋鏝又は目打か鏝を用ゐます。筋のつけ方は筋をつけ様とする部分に定木をあて、左の手で動かぬ様にしつかりとそれを抑へ、定木の縁に添はせて向ふから手前の方へ引いて附けます。尚ほ縦方に属する事は實習に望んで説明して行く事に致します。

皿刳名刺入

皿刳名刺入は、名刺を横にして入れる幅の廣い袋で前を皿形に刳つたものであります。

用布の寸法割出し方

名刺入れは總て中に入れる名刺の大きさによつて、丈の寸法も、幅の寸法も、それ〴〵自由に割り出す樣になつて居ります。其方法は次に記す如くで有ます。

一、表用布、幅は名刺の丈より六分廣く、丈は名刺の幅の二倍に八分加ふ。

一、裏用布、幅は表用布と同寸法に裁つ丈は表用布より一分五厘程短くす。今此處でお話致しますものは、幅一寸五分、丈二寸七分の、名刺を入れる名刺入を製作することゝ致します。これに要する材料は次の通りであります。

用布、表、幅六つ割長さ三寸八分。裏、幅六つ割長さ三寸六分五厘。

他に七番張子紙と生半紙を少しづゝ要します。

製作の順序

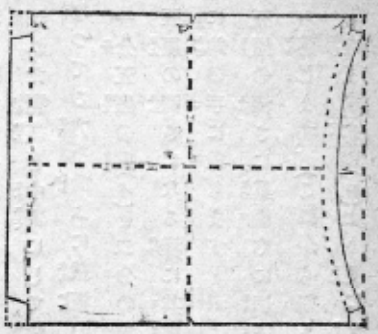
（一）裁方

一、先づ表型紙から裁つことに致します。總て表型紙は、表用布に貼り附ける型紙のことを申します。その裁方は豫て用意してある生半紙を、前にお話したる型紙裁方法により、丈三寸八分、幅三寸三分に正しく裁ち、それをまた縦ふ時の便利を計つて要所々々に切込みを入れて置きます。

即ち裁切れた型紙を申表にして幅を正しく二つに折り輪を手前に兩横の裁目の二枚重なつてる方を向ふに裁板の上に置き、向ふ側の裁目の方にて丈の右の端から、一分五厘の處(イ)を二分の深さに眞直に切込みを入れ、更に丈の右の端から二分五厘の深さになる樣に其處を鋤の手に裁ち落します。（これからはこの仕方を單に鋤の手に裁ちますと云ふことに致します）次に(イ)より一寸七分と即ち(ロ)の所に五厘の深さに眞直ぐに切込みを入れ、それを右の方に五厘斜に曲げて三角に裁ち落します。（これから斯うして三角に切込みを入れることを單に切込を入れると申します）次に(ロ)より更に又一寸七分と(ハ)にも切込みを入れさすと左の

端に二分五厘殘りますから、それは始めの一分五厘の奥(イ)と同樣鋲の手に裁ちます。次に皿刳の處を裁つのでありますが、それは(イ)の處で反對の側の輪の方にて裁目より三分と即ち(ニ)の處に標を附け表の如く少し丸みを附けて皿型になるやう格好よく刳ります。これを擴げますと第五圖と同樣な表型紙が出來上ります。

第五圖
表型殘



二、次に裏用布に貼る裏型紙を裁ちますには、幅三寸丈一寸に生半紙を裁ち、側の如く幅を二つに折り丈の右端から二分と切込みを入れて鋲の手に裁ちます。

第六圖
裏型殘



而してこれを擴げますと第六圖に示す如くになります。

三、次は七番張子紙を、幅三寸、丈一寸六分五厘の寸法で心紙を一枚裁つて

置きます。心紙の裁方は製作上の心得のところに示す如く致します。

(二)　貼り方

一、表型紙の周圍に絲糊をつけ、表用布の裏の上に載せて兩横を平に貼りて型紙の方から鏝をかけ、丈の兩端は表に袋取つて貼り附けます。

二、裏型紙にも表型紙と同樣に糊をつけ、第七圖の樣に周圍を平に貼ります。其時裏型紙は裏用布より幅が三分狹くしてありますから、其三分を二分して、兩横へ各一分五厘づゝ用布を殘して置きます。

第七圖
裏用布に型紙を貼り込む



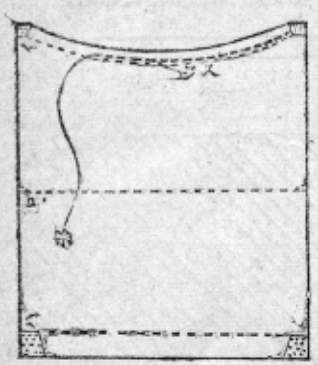
三、裏表共に貼り終りましたらば、表用布を表型通りに裁ち（但し鋲の手及び切り込みの處は其儘に用布を殘して置きます）。表裏共、裁ち目がほつれない樣に絲糊を施して置きます。

(三)縫ひ方

一、表型の(イ)(ロ)(ハ)の切込みの所裏より、即ち第五圖の點線の所に定木をあて、鑿で筋を入れます。

二、次に皿形に刳つてある表型の(イ)の處に表側に糊を附け裏用布の表型を貼らない方の丈の端を重ねて中表に貼り合せますと、第八圖の樣に皿刳りの上の所で裏用布は眞直になつてゐますから、これを表に合せて裁ち捨てます。而して第九圖のごとく一分の縫代に、一針ぬきに縫ひ、縫つた糸を切らない程度の深さで、第十圖の樣に一分おきに眞直ぐに切込みを入れ、一分五厘の折り代で(丁)度筋の

第八圖
皿刳りを表と裏貼り合す



第九圖
皿刳を表裏縫合す

所になります）表型の方へ貼り附け第十一圖の樣に返して表を出し、表用布を五厘ふかせて裏用布の方から鑢を掛けます。（此は後に袋の口になる所で御座います）

三、次に表布を下に裏布を上に皿刳りの所を向ふにし、(イ)より(ロ)の筋迄の兩橫の紙に糊を附け、表布を少し弛み加減に兩側の表と裏を貼り合せます。

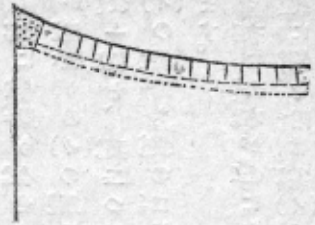
四、次に今貼り合せました裏布の兩側に各々糊を附けて中表に、裏型紙の(イ)の筋が皿刳りの(イ)の所に合ふやうに二つに折り、平に貼ります。そうするとつまり表一枚と、裏二つ折り即ち二枚と合せて三枚重なつてをります。次に裏型紙の(イ)の端即ち袋の口になる所に型紙の方に糊をつけ筋通りに裏へ折りて貼り附けます。

五、次に表布が上になる樣に裁ち板の上に置きかへ、兩端の(イ)の筋から(ロ)の筋の間に糊を附け其(イ)の筋と(ハ)の筋とが合ふ樣に(ロ)の筋から中表に折り返して平に貼りますと、裏の(イ)の筋と表の(イ)(ハ)の筋とが正しく重なつてゐます。

六、以上で袋の大體の形に貼りましたから、其兩橫を一分の縫代で、一針拔きに或はミシンで縫ひます。（本科では一分の縫代を並縫代と云ひ、一針拔き或

はミシンで縫ふのは唯縫ひますと云ふことに致します。）而して裏用布の方から縫目の直ぐ内側に定木を當てゝ眞直に筋を入れ其筋通りに縫代を裏用布の方へ折つて叩いてよく折り癖を附け、そして表に返します。

第十圖
縫代に切込みを入れる



第十一圖
同上を表に返し裏布より見る



七　その表に返した袋を、兩横がキチンと同じ寸法になる様に仕上げ篦で正しそして前に裁つて置きました心紙の兩横に各一分位の巾で糊を附け其糊の附きしを方が兩横の縫目にむく様に表用布と兩横の縫目の間へ入れ縫込みと心紙の端とを貼り合すのであります。（以下同法故單に心をさし込むと略します）

八　次ぎに表用布の（ハ）の筋より端の二分五厘の用布でその心紙と兩横の縫目

とを包んで目打錐の尖端で折り、そして表用布を三厘ふかせて裏用布と貼り合せ、裏用布の方から鏝をかけます。而して心紙をさし込みました時に心紙が裏用布の丈よりも伸び出しますと出來上りが見苦しくなりますから伸び出ない様に注意を要します。（以下同様でございます）

仕上げの仕方

縫上りました袋物を最初霧を吹いた位の生温りの仕上布に凡そ十五分間位包んで置き、濕り氣が自然に袋物に移り縫目などの糊で堅く成つて居るのが柔やかに成つた頃を見計らひ、取り出して角々を目打錐で引出し、仕上篦で形を正し殊に縫目の縁の凸凹に成つてる所などは目打錐の尖端で直し、裏せの附いてるものなどは裏せの所を裏用布の方から仕上げ篦でよく扱いて被さり易い様に癖をつけ、すつかり形が調つた所で必ず生半紙を一枚間に敷いて鏝をかけますと、ピカピカと光つたり汚したりする事なく、小皺やよく〳〵は何處へ行つたか分らない様に直ります。

總て縫上つたばかりの袋物は、此處彼處に凸凹が出來てゐたり、小皺がよつ

てゐたり、ぶく〳〵に膨れたりしてゐて到底その儘では不手際で使用に堪へませんから、角々を引出したり、小皺を伸しぶく〳〵を取つたり致します。此様なにする事を仕上げをすると申します。すべて袋物は正しく縫ふばかりでなく仕上げが最も大切でございますから、出來上つた際には充分念を入れて必ず致さなくてはなりません。

帶紙の仕方

帶紙は出來上つた袋物の體裁を作る爲に、袋物の幅の中央に細く切つた紙を巻いて置くのであります。其仕方は、生半紙を四分の巾に裁ち其端を袋の中央の口、或は被せの間にはさみ後をくるりと一まわりまわして巻き、終りは袋の後の中央にて紙を切り端に糊を附て貼つて置きます。これを帶紙と申すのであります。

第三章　日の出形銀貨入

日の出形銀貨入は、二段に口のある四角の袋でありまして、深い方の口を深口と云ひ淺い方の口を前段と申します。胴即ち表用布は接ぎ合せて、出來上り圖の如く、日の出形に成つてゐるのであります。

第十二圖
銀貨入出來上り



（一）用布

表、赤、白、各幅六ツ割、長さ四寸五分
前段表、幅三寸六分五厘、長さ二寸一分五厘
深口表、幅三寸六分五厘、長さ五寸五分
金留表、幅三寸六分五厘、長さ七分五厘
深口裏、幅三寸六分、長さ七寸五分

以上の内、表に成る赤白の布の地質は主に塩瀬羽二重、琥珀、縮緬等を用ゐ、成るべく赤白共、同じ地質の物が宜しう

妻大圖

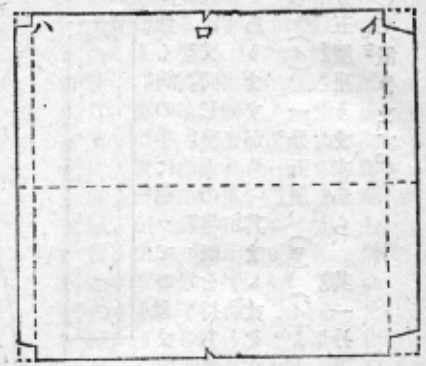
御座います。深口表、金留表、前段表、は同じ布を用ゐますから、總尺は正確に八寸二分五厘要しますが五六分位は長めに用意致す方がよろしく、そして始めから一ッ〳〵裁ち放しません。それ〳〵型紙を端から貼ッて後裁切り又貼ッては切るのであります。地質は主に羽二重類を用ゐ、色は赤に致しますが夏向きなぞには白を用ゐましても可成さッぱりしてよろしう御座います。深口裏の用布は銀貨を入れますから、瓦斯甲斐絹か或は金巾のやうな丈夫な物で、色は深口表と同様に致さなければ成りません。

其他、型紙に生半紙を少し要します。

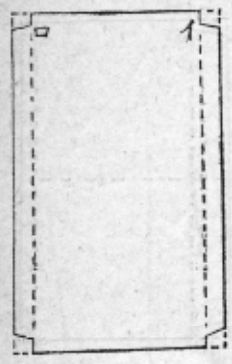
（二）型紙裁方

一、先づ表型紙から裁つことに致します、用意してある生半紙を例に依りまして幅三寸七分、丈四寸二分に正しく裁ち、それを中表に縦に二ッに折り輪を手前に兩横の二枚重なッてる方を向ふ側にして裁板の上に置き、第十三圖の如く向ふ側の裁目の方にて右の端から、（イ×ロ×ハ）の順によりて切込みを入れて置きます。（イ）、端より三分、（ロ）、（イ）より一寸九分、（ハ）、（ロ）より一寸八分五厘、以上

第十三圖
表型紙裁方



第十四圖
前段表型紙裁方

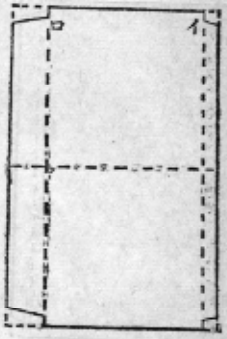


の切込みが入りましたなれば始めの三分と、終りの一分五厘とを圖の如く稍斜めの鈎の手に裁ち落します、此れを廣げますと第十三圖に示す表型紙と同様に成ります。

二、次に前段表の型紙を裁ちますにはやはり生半紙を幅三寸六分五厘、丈二寸一分五厘と正しく裁ちて、中表に幅を二ッ折りにして、表型紙を同様裁板の上に載せ、右の端から前と同じく裁込みを入れて始めと終りは鈎の手に裁ち落します（イ）、端より二分、（ロ）、（イ）より一寸八分、此れを廣げますと、第十四圖の前段表型紙と成るのであります。

三、次に深口表型紙を裁ちますが、幅は前段表と同じでありますから、前段表の型紙を取つた殘りの半紙を、丈二寸三分と正しく裁ち、前と同じ仕方にて切込を入れます、(イ)、端より一分五厘、(ロ)、(イ)より一寸六分五厘これだけ、切込みを入れますと終りに五分殘りますから始めの一分五厘と、終りの五分とはやはり、

第十五圖
深口表型紙裁方



第十六圖
金留表



圖に示す如く鈎の手に裁つておきます。

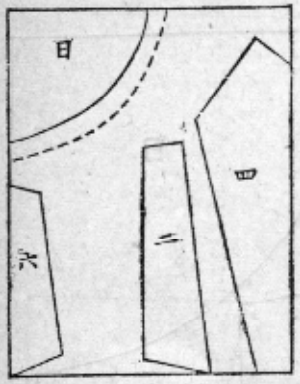
四、次に又同じ殘りの半紙を持ちまして、金留表の型紙を裁ちます、幅は前と同寸でありますから、其まゝ丈を六分五厘と裁ち、二ッに折つて、やはり右の端から、(イ)、一分五厘、(ロ)、(イ)より三分五厘と、切り込みを入れますと終りに又一分五厘殘りますから、其一分五厘と始めの一分五厘とはやはり鈎の手に裁ち落して置きます。

以上にて型紙は全部裁ち切れましたから、中央の折り目の山に薄糊を極く薄ッすり附けて、折山の上から鍛をかけ折り目を平に直して置きます。

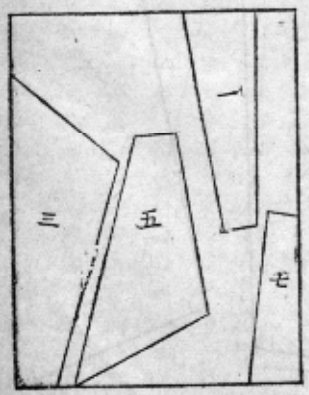
(三) 日の出形の接ぎ合せ方

表用布を、出來上り圖に示す如く、日の出形に接ぎ合せるのでありますが其れに要する型紙は、赤白共、以下に元型を現はして置きますから、其形を敷き寫して裁切り、圖の表面が出來上りの表に成るやうに、つまり、圖の表面に當ッてゐる方のまはりに五厘位ゐの深さに糊を附けて貼り合せます。

第十七圖
赤の表用布に型紙を貼る

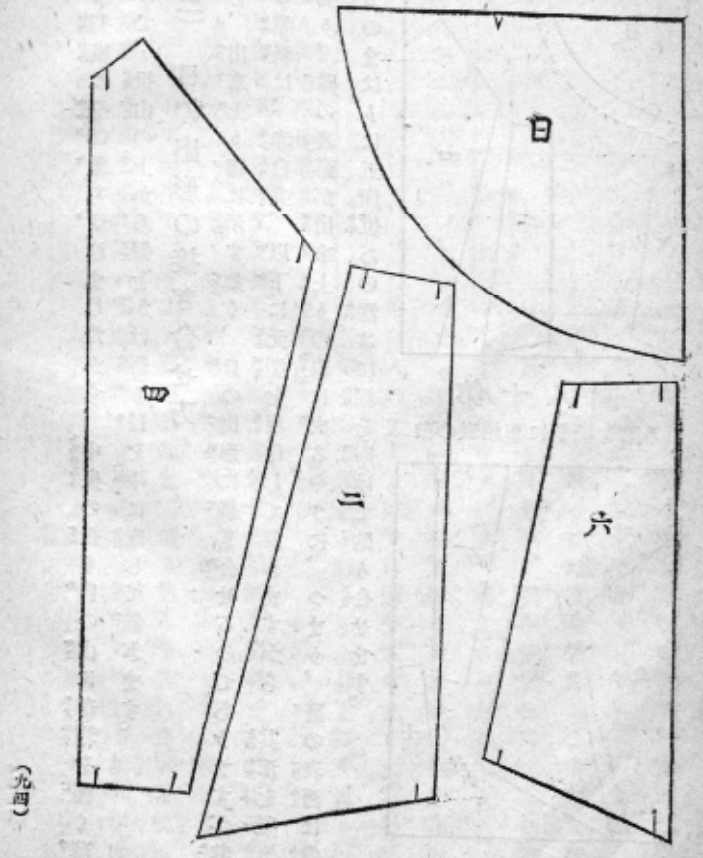


第十八圖
白の表用布に型紙を貼る



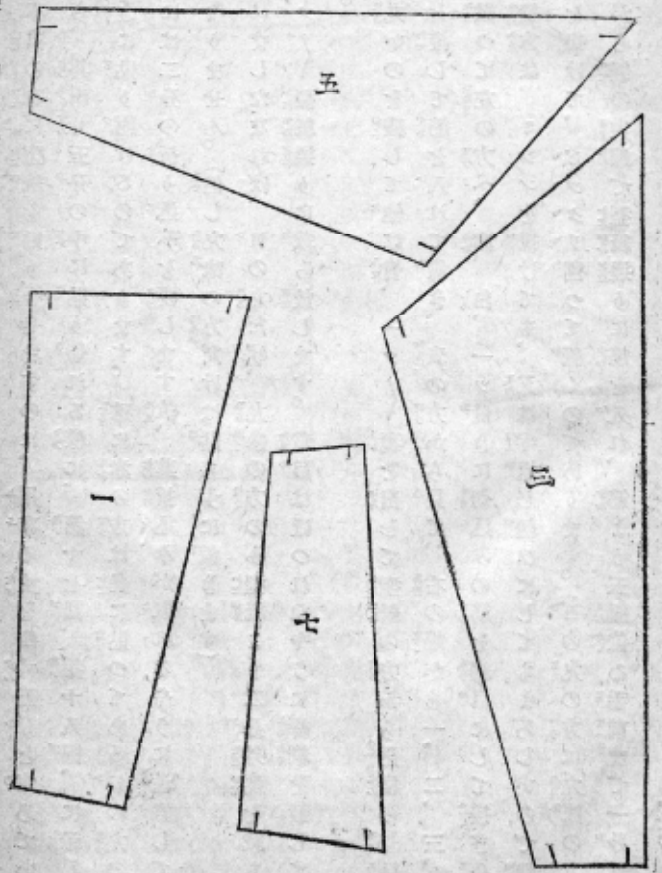
第十九圖

赤の元型



第二十圖

白の元型



それて赤白の布に型紙を貼り合せますのに、用布の丈を四寸五分と定めてありますから、其四寸五分の中に貼り切れる様に、第十七圖、第十八圖、に示してある向きに貼り附けるのであります。殊に赤の方は角に貼つてある日の丸の丸味の方には二分の折り込みを要します故、其折込みが取れるやうに注意して貼らねばなりません。（但し丸味の方だけは貼らずに置きます）

全部貼れましたなれば、日の丸だけ、丸味の方のみ型紙より二分外側を裁ち其他は一ッ〳〵型紙通りに裁ち放します。裁目はほつれぬやうに縁糊を致して置きます。

次に、丸いのを殘して他は皆、一ッ〳〵裏を出して型紙の方から兩横の切込みに定木を渡して筋を入れて置き、表の方から見て、右の端から一、二、三、の番號に做つて左の方へ、赤、白、一ッ置きに切込みの筋を縫目にして接き合せます。縫方は、ミシンを掛けても、又は半返し縫ひにしてもよろしいので縫目は割鍛を掛けて、ピッタリ倒つて置くのであります。日の丸の方は丸味の方だけ裏側から鍛の尖端て型紙通りに筋を入れ、筋より五厘位ゐ手前まて一分五

厘位、置きに丸味全體に切込みを入れて折り込みは裏側へ、丸味に角なぞ立たぬやう筋通りに折りて貼り附けて置き、其丸味の處へ裏側から磐石糊を附けて前に接き合せし布の上に、角の處に、右の横の裁目や、上部の裁目が眞直に揃ふやうに重ねて、貼り附けるのであります。

（四）貼り方

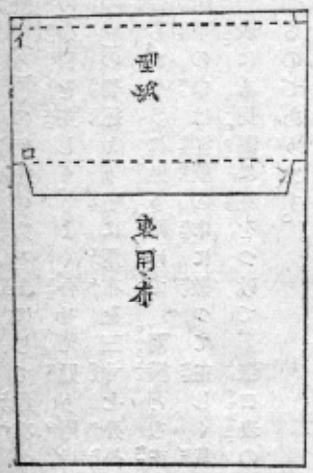
一、表型紙の周圍に糊をつけ、型紙の（イ）の部分が、日の丸の角になるやうに表用布の裏側に載せて兩横を貼り、丈の兩端は表に袋取ッて貼り附けます。

二、前段表の型紙もやはり周圍に糊をつけ、用布の裏側に、横縫の布目が曲らぬやうにはりつけて、型紙通りに裁つて置きます。

三、深口表の型紙にも糊をつけて、用布を自分の前に縫

第二十一圖

深口表に型紙を貼る



に置き型紙の(イ)、の切込の方を上にして用布の上に載せ型紙の上の裁目と布の上の切口の布目を正しく、よく合せて貼り附け、第二十一圖に示し置きしやうに、紙型の(ロ)の切込より下に用布を三寸七分長くして裁切ります。この際成可く布目が曲らぬやうに貼り附けて、雨横とも正しく三寸七分長く致さねばなりません。鈎下の巾は型紙の巾に倣つて正しく裁つておきます。

四、金留表にも周圍に糊をつけて、深口表の殘りの布に貼り附け、型紙と同じく裁ち切るのであります。

何時でも型紙を用布に貼り附けたならば周圍に鋏をかけて平に致し、次に周圍を裁切つたならば、裁目がほつれぬやうに縁糊をなすことは一々此處に述べませんでも必ず致さなければなりません。

(五) 縫方

一、表型の(イ)と(ハ)の切込みの處裏より、表型紙裁方圖の點線の所に定木を當して鋏の尖端で筋を入れて置きます。

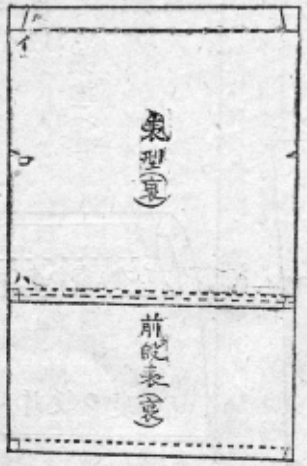
二、次に前段表型の(イ)、(ロ)、にも表型と同樣、裏より筋を入れて、表型の、

(ハ)、の筋の附いてる方の表に縁糊をつけて、夫と前段表の(ロ)の筋の附いてる方とを中表にして貼り合せ、一分の縫代に一針抜に縫ひ、平鋏をかけて縫目の處を延し、前段表の方より更に、縫目より五厘離れし(ロ)の筋をもう一度、筋を入れ直して其筋より前段表の方に縫込みを折り、縫込みの緣に糊を附けて貼り附けて叩いて置きます、即ち第二十二圖に示す如くであります。

三、次に前段表の、(イ)、の筋の附いてゐる處の表に縁糊を附けて、深口表の型紙を貼らぬ方（前段表の裏になるべき處の）端に中表に貼り合せて一分の縫代に縫ひ、前と同樣に平鋏をかけて(イ)、の筋より前段表の方に折りやはり縫込に糊を附けて貼り、第二十三圖の如く表を出して、裏を五厘控へ、裏より鋏を掛けて置きます。此處は後に前段の口になる處であります。

第二十二圖

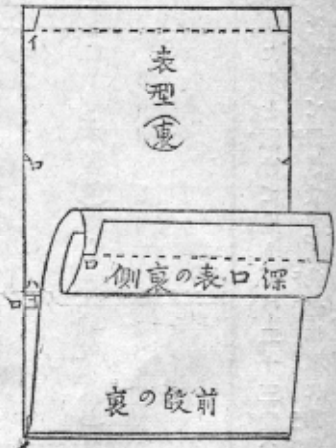
表型と前段表と縫合せ



四、次に今縫ひしものを第二十三圖と同じ向きに裁板の上に置き、前段表の、(イ)から(ロ)までの間に兩横とも型紙に糊を附け表の巾を少し弛み加減にして、表と裏を貼り合せ、更に裏の、兩横の端に、やはり今貼ッた、(イ)より(ロ)までの間に糊を附けて、第二十四圖の如く深口表の(ロ)の切込みの處まで、前段表が上になるやうに二ッに折り、前段表の方の巾が又少し弛み加減になるやうに

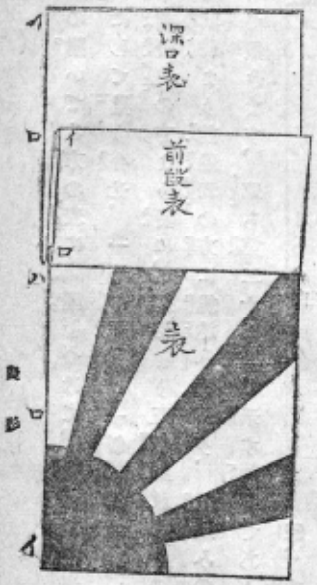
第二十三圖

前段口の縫ひ上り



第二十四圖

前段表を深口表に折り重ね



兩横とも貼り合せて上から鏝て押して置きます。

五、次に深口表の(イ)の筋の處に端の表の方へ糊を附け、裏用布三寸五分の丈の端と、裏を少しつり加減に貼り合せて縫ひ、前段の口と同じ仕方に、縫込みを深口表の裏側に貼り附け、表を出して、裏を五厘控へて裏の方より鏝を掛けて置きます。（此れは後に深口の口になるのであります。）

六、次に金留表型の裏側より、(イ)の切込みも、(ロ)の切込も定木を渡して筋を入れ、(イ)の筋の裏側に糊を附け縫込みは筋より裏へ折り曲げて貼り附け、(ロ)の方にも、こんどは表の端に糊を附け、裏用布の、深口表と縫ひ合はさッてる反對の端と中表に、やはり裏をつり加減に貼り合せて、縫ひ、縫込みは(ロ)の筋より、金留表の方に折り糊を附けて貼り附、表を出して縫目を毛抜に合せ、金留表の兩横の裏に、端に一寸糊を附けて、金留表と、裏との兩横を貼り合せ更に第二十五圖に示すやうに金留表の(イ)の折り山より裏を五厘控へて、(ロ)の方に折り、兩横とも一寸糊を附けて、(ロ)の縫目まで裏を貼り合せて鏝て押して置きます。

七、深口表の兩横に(イ)より袋の底に當る角の處まで糊を附け、深口の裏の巾を少しつゝ加減にして兩横共、表と裏を貼り合せ、更に裏の兩横に糊を附けて、深口の口即ち(イ)の處を、金留表の(ロ)に突合せになるやうに折り、深口表を、金留表と同じく弛めて、兩横共貼り合せますと第二十五圖と同様になります。

第二十五圖

深口の口を折り合せ方



八、次に表型の兩横に表側より、(イ)と(ロ)の切込みの處に一寸極く淺く糊を附けて、前段表と、表型との接ぎ目の處より中表に折り、金留表の(イ)と、表型の(イ)の切込みと合ふ樣に重ねて、兩横の糊の附いてゐる處だけ貼つて確乎と鏝で押して置き、兩側とも(イ)の處より縫ひ始めて行きます、袋の兩横が縫ひ上りま

したなれば、表型の方から縫目に平鏝を掛けて縫目の皺を延ばし、次に裏側を上に出して裁板の上に載せ、縫目のすぐ内側へ、定木を當てゝ鏝の尖端で筋を入れ、其筋より縫込みを裏側の方へ折り、よく叩いて折癖を附けて表に返します。

九、表に返した袋を、兩横ともキチンと同じ寸法になるやうに仕上篦の尖で正しく直し、表の(イ)の筋より端の三分の用布で兩横の縫込み及び金留裏を包んで目打錐の尖端で折り、表布を三厘ふかせて金留表の(イ)の筋と貼り合せ金留表の方から鏝をかけて置きます。

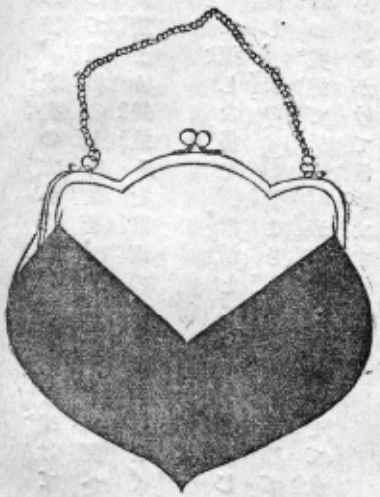
(二八) 仕上

仕上の仕方は、皿形名刺入と同樣であります。日の出形銀貨入は、使用致します時に、中央の、前段の口の處より二ツに折るのでありますが、仕上の時はたゞ平らに致して置けばよろしいのであります。此仕上ッたものを箱なぞに入れる場合も二ツ折にせずに、出來上り圖の如く其儘口の出形の方を上に出して入れるのであります。以上で日の出型銀貨入は出來上りました。

第四章　小型バッグ

小型バッグは、出來上り圖に示す如く、口金の附いてゐる、俗に手下げと申す袋で御座いまして、出來上りの中央の三角の筋で上下が赤白に接ぎ合はさつてをります、此れは兩側とも同じく上は赤、下は白、と云ふやうに致しても宜しいのでありますが、其れよりは、布の經濟上から云つても、又は色の配合から云つても片面に上を赤にして下を白にしたなれば、一方の片側は其れと反對に、上を白にして下を赤に致す方が宜しう御座います。今御話し致しますのも兩側が反對に接ぎ合はせてある物であります。

第二十六圖　出來上り



（一）用布

表、赤、白、共幅四寸五分、丈四寸五分、裏、幅四寸五分、丈九寸、地質は表も裏も日の出型銀貨入と同樣なもので宜しう御座います。

（二）型紙の裁方

銀貨入の樣に型紙を寸法から割り出して裁ちませんて、元型圖を其まゝ全型を、現はして置くことに致しますから、半紙を二ツ折にして半型を兩側に寫して開き更に半紙を其下にもう一枚重ね、上、下、二個所に針を刺し、先づ二枚一緒に型の周圍を切り取り、次に中央の三角の筋を切り放しますと兩側の型が上下一緒に裁てるのであります。

（三）裁方

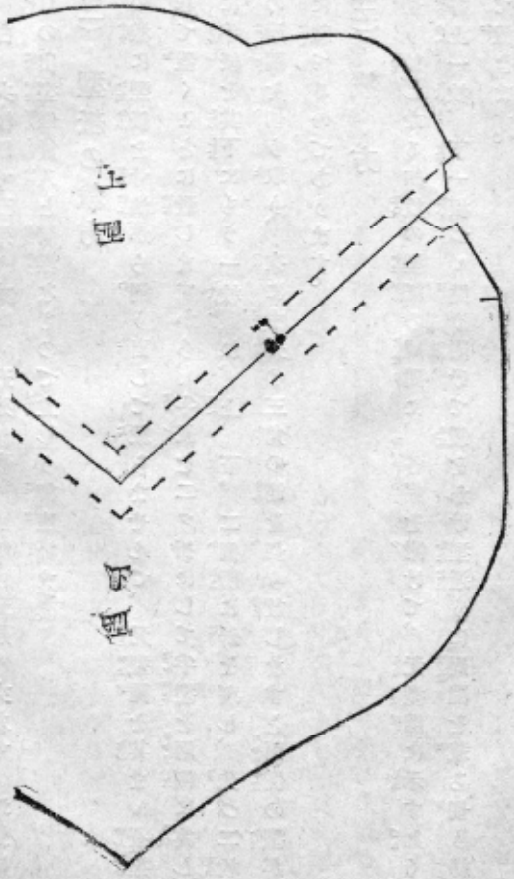
先づ今切り放したる四枚の型紙の周圍に、各糊を附けて、元型圖に示す如く赤白とも各上一枚、下一枚づゝ貼り附けて鍛をかけ型通りに周圍を裁ち切り縁糊を致して置きます。

裏用布は、表用布を、赤白接ぎ合せて後、表に倣つて裁つのであります。そして、表も裏も、兩横に口金を附ける切込みが元型圖に示してありますから其

處に極く小さく切込みを入れて置くのであります。

第二十七圖

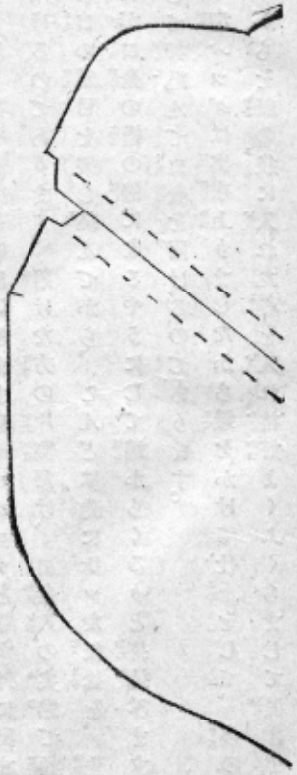
小型バッグ元型



（一〇分の一）

（四）縫方

今裁ち切りました型を、片側は白を上に、赤を下に、もう片側は赤を上に白を下に成るやう中央の接ぎ合すべき兩横に、鉤の手に切込みが入ッてをります其切込みを、縫代と致して、ミシン或は細かく半返し縫ひになし、下の型の中央の三角の處に糸に掛らぬやうに切込みを入れて劃鑢をかけて、ピッタリ劃ッて置きます。次に、兩側を二枚中表に重ねて口明の切込みから下をくるりッとやはり半返しに縫ひ、平鑢をかけて、縫目のすぐそばへ鑢にて筋を入れ、其筋



（一〇分の一）

から片側の方へ縫込みを折り、丸みの處にはギザ〳〵に切込みを入れて、糊を附けて貼り附て表に返します。

次に裏も同じく縫ひ、折込みは表と反對の方に行くやうに折り、表の袋の中に差し込み、表の裏側より口の周圍に糊を附け、裏と貼り合せて置きます。

(五)　口金の附方

始めに半紙を一寸巾に二枚切り固く紙捻を捻って置きます。次に口金の溝の中に平に磐石糊をつけ、（磐石糊を附けます時は片側づゝ致すのであまり附き過きますと、布や紙捻を押し込みます時、ビショッと糊が外に出ますから加減して附けるのであります。附けた方の片側だけ、口金入の実際て始めにすッかり袋の口の裁目を押し込んでから、こんどは先に捻った紙捻を、先を少し切ッて其れが口金の横の端になるやうにして端からくるりと押込みます。兩側とも斯うして押込んで口金を附けるのであります。

これて小型バッグは出來上りましたから鑢をかけて仕上をして、袋の中に綿か或はもみがらを紙の袋に入れた心を入れ格好よくふくらまして置きます。

（以下次號）

第五章　朝日巻煙草入

朝日巻煙草入は、丁度朝日の巻煙草が這入る位の大きさの長方形の袋でございまして、上に紐の附いたもので、和服の時には腰に下げられ、洋服の折にはポケットに入れられる極めて實用的な、且つ綺麗なものでございます。

(一)　材料

第二十八圖
出來上り



表布、幅六寸二分、丈四寸八分のもの一枚
裏布、幅五寸九分、丈三寸八分のもの一枚
裏布、幅二寸、丈一寸八分のもの一枚。
打紐、直徑一分五厘位の太さのもの九寸。
木型、長さ四寸、巾一寸六分、高さ一寸二分のもの一個
生判紙、二枚
七番張子、少々

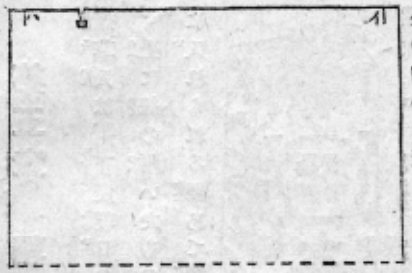
(二)　型紙裁方

一、先づ表型紙から裁つことに致します、用意してある生判紙を幅六寸二分丈四寸七分に裁ち、それを中表に幅を二ツに折り、輪を手前に裁目を向ふ側にして裁板の上に置き、第二十九圖の如く、右の端から(イ)×(ロ)×(ハ)の順に切り込みを入れて置きます、その寸法は(イ)は端から一分五厘、(ロ)は(イ)から三寸八分、(ハ)は(ロ)から六分の割合に致しますと、(ハ)より左に一分五厘殘ります。

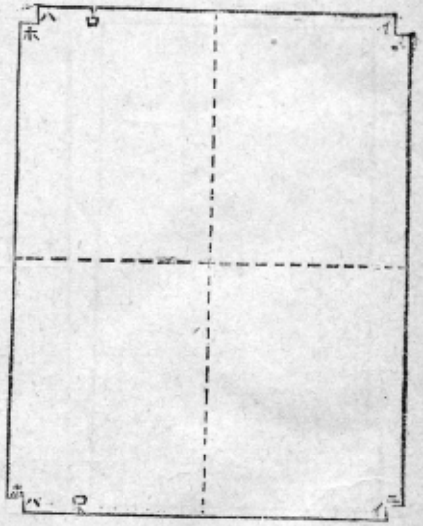
次ぎに今切込を入れた型紙を更に横に二ツに折りますと、左の方には輪が一ツ出來、右の横と向ふ側とは裁目が四枚になり、手前の方には輪が二ツ重なることゝなります、この右の向ふの角から手前に向ッて一分五厘の所即ち(ニ)×(ホ)を重ねたまゝ四枚一緒にそぐりと、(イ)の切込と正方形になる樣に切込みを入れます、これを擴げますと第二十九圖(2)の樣になります。

二、次ぎに裏の型紙を裁ちます。裁方は表型

第二十九圖
(1) 表型紙裁方



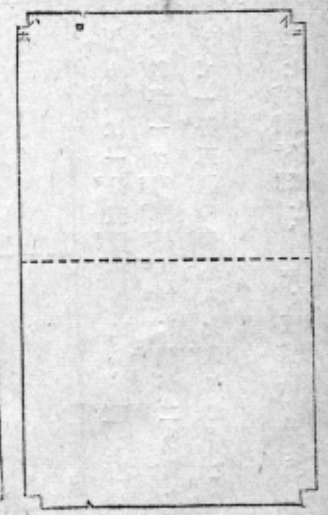
(2) 表型紙裁方



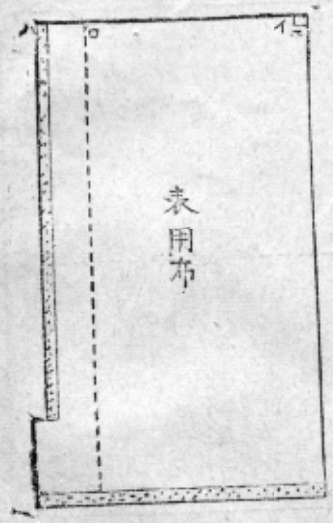
と同樣で、生判紙を巾五寸九分、丈三寸八分に裁ち中表に縱に二ツ折りにして、輪を手前に裁板の上に置き丈の右の端から(イ)×(ロ)×(ハ)の順に切込みを入れます、その寸法は(イ)は端から一分五厘(ロ)は(イ)から二寸八分、(ハ)は(ロ)から三分五厘の割合に致しますと第三十圖の樣になります。

三、心紙は七番張子紙を、幅六寸丈四寸に裁ちます。

第三十圖
裏型紙裁方



第三十一圖
表貼り合せ方



（三）貼り方

一、表型の周圍に糊をつけて平に貼ります

二、裏型も同樣

（四）貼り合せ方

一、表型の(イ)及び(ニ)(ハ)(ロ)(ハ)(ニ)の切込みの所で、裏より即ち第三十一圖に示す點線の所に定木を渡して、鑿の尖端で筋を入れて置きます。

二、次ぎに(ニ)の筋を裏に折って貼ります、而して(イ)の筋を裏に折り(ニ)の角から五分殘した所までを同じく

第三十一圖の樣に貼ります。

三、裏布も、表と同じく貼り、イよりハ迄折り曲ッて居る方に緣糊をつけて置き、裏用布の表を上にして裁板の上に置き、其上に木型を載せ第三十二圖の樣に木型の角に(ニ)の端とを揃へて、木型を包む樣にして而して(ニ)の端に緣糊をし(ホ)の端を其上に載せ木型をすッかり包んで箱型に貼ります。この時に先きに五分殘して置きました(イ)の角で第三十三圖の如く他の一方の端を包んで貼ります。

四、次ぎに底の裏用布の周圍に糊をつけて、同じく第三十三圖の樣に木型を用布の上に載せて周圍を貼り付けます。而うすると用布の殘りが角で三角形になりますから、これを五厘程殘して裁ち切り、これを木型通りに貼りつけます。

第三十二圖
裏箱形に貼り方

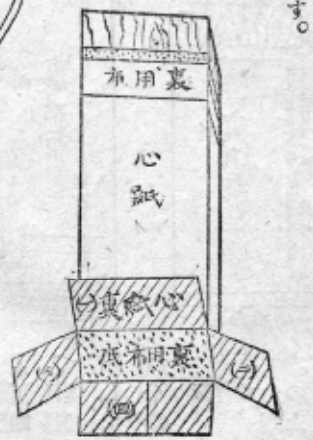


第三十三圖
裏底の附方

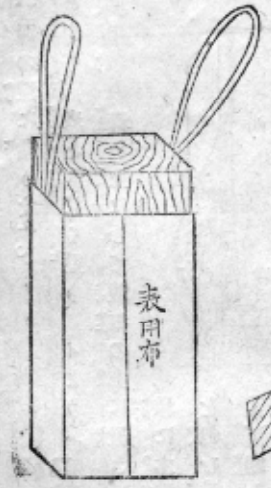


六、次ぎに心紙にベタ糊をつけて、裏型の(ロ)の筋に心紙の端の重なる様に包んで貼りつけます。而して第三十四圖の様に切り込みを入れ(一)(二)(三)(四)の順に貼り附けます。

第三十四圖
心紙の貼り方



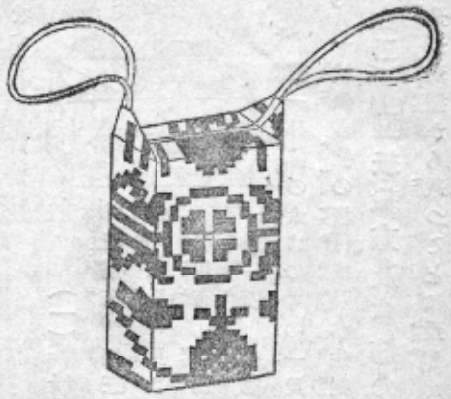
第三十五圖
表の貼り方



七、次ぎに用意してあります九寸の紐を二ッに切り、一本の紐を二ッに折ッて、五分四方位の生刺紙に糊を附けて其の兩端を包んで貼ります。この貼りました紙の所へ裏に糊をつけ、木型の幅の一寸二分の方の中央につけます。

八、次ぎに表型の貼ッてあります(イ)と(ニ)との間へ緣糊をして置きます。

第三十六圖
出來上り仕上方



九、表用布の裏を上にして裁板の上に置き其の上に裏型を貼ッてございます、木型を載せて(ニ)の筋が木型の一寸六分の中央になる様に貼り合せます、この時に先きに五分殘して置きました(イ)の角て第三十五圖の如く他の一方を包んで貼ります、底に殘ッて居ります用布の(ニ)の兩角に一分五厘の切込みを入れ、この切込みと切込みとの間に筋を入れて裏に折ッて貼ります、而して(一)の端に糊を附けて底に貼り附けます、次ぎに(二)の端に糊をつけて貼りますと(三)と(四)とが三角形になりますから、これを順に折りて貼りつけます。

十　次ぎに木型を取りまして同じく第三十五圖の如く形を直して、よく折りをつけて置きます。これて朝日巻煙草入は出來上ッたのであります。

第六章　九重形琴爪入

九重形琴爪入は長方形の可愛いゝ箱でございまして、その周圍の端を口のところで面白く折り疊み、それを房のついた打紐で止めました床しい琴爪入でございます。

第三十七圖

出來上り



（一）材料

表用布、幅三ッ割、長さ二寸六分、別に同じ用布を幅一寸五分、長さ二寸七分

裏用布、幅三ッ割、長さ二寸五分、別に同じ用布を幅一寸一分、長さ二寸三分

打紐　直徑一分位の太さのもの一尺

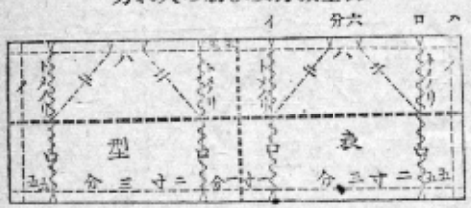
其他。一枚張り位の板目紙及び生剛紙各一枚と鋏を一個

（二）型紙裁方及び筋の入れ方

一、先づ表型から裁つことに致します、用意してある生剛紙を例によりまして

第三十八圖

表型裁方及び筋の入れ方



て幅七寸二分、丈二寸五分五厘に正しく裁ち、これを中表に縦に二ッに折り輪を手前に、兩横の二枚重なッてる方を向ふ側にして更に横に二ッに折り、輪の方を右にして裁板の上に置き、右の端から（イ）（ロ）（ハ）の順によッて切込みを入れます、（イ）、端より五分五厘、（ロ）（イ）より二寸三分、（ハ）、（ロ）より五分五厘、以上の切込みが入りましたならばこれを擴げ、更に横に二ッに折り輪を手前にし右の端から、（ニ）（ホ）（ヘ）の順に切込みを入れます、（ニ）、端より二分、（ホ）、（ニ）より一寸一分、（ヘ）、（ホ）より一分五厘、以上の切込みが這入りましたならば、始めの二分と殘りの二分とを稍斜の鉤の手に致しますこれを更に置き換へ輪が左になる樣にして（イ）と（ロ）との間の中央から、左右三分づゝの所に切込みを入れこれを擴げますと第三十八圖に示す表型紙と同樣になります

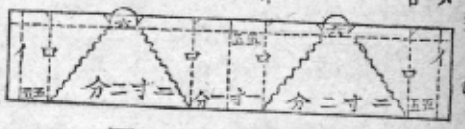
二、次ぎに口裏紙を裁ちますには矢張り生剛紙を幅

七寸、丈一寸四分に裁ち表型と同様にして四ッに折り、輪の方から(イ)、端より五分五厘、(ロ)(イ)より二寸二分、(ハ)、(ロ)より五分五厘、以上の切り込みが這入りましたならば殘りの二分を鈎の手に裁します、更にこれを擴げまして横に二ッに折り、二寸二分の中央から左右三分づゝの所に切り込みを入れて置きます、これを擴げますと第三十九圖と同樣な口裏型に成ります。

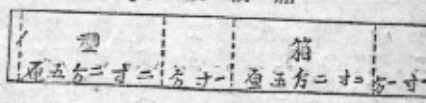
三、次ぎに前裏として用意してありました、板目紙を幅六寸九分、丈一寸一分に裁ちてこれを(イ)、幅の一方の端から一寸一分、(ロ)(イ)より二寸五分五厘、(ロ)より一寸一分、(ニ)(ハ)より二寸二分五厘、第四十圖の如く、以上の順に筋を入れて置きます。

口、次ぎに底型及び心紙として、板目紙にて幅二寸二分五厘、丈一寸一分のもの五枚裁ちます、外に幅一寸八分、丈八分のもの二枚を裁ちます、これを第四十一圖の如く裁ち落します。而して箱の底に貼るために生刺紙を幅一寸三分、丈二寸七分にして一枚裁ッて置きます。

第三十九圖
口裏型筋入方



第四十圖
箱紙裁方



第四十一圖
底紙裁方



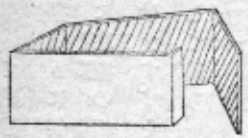
(三)　貼り方

一、表型の周圍に糊をつけ、且つ第三十八圖の波線の所に留糊を施し(四本)、幅三ッ割、丈二寸六分の表用布の上に載せて、手に貼ッて鏝をかけます。

二、次ぎに幅三ッ割、丈二寸五分の裏用布を、丈一寸四分と、一寸一分との二ッに裁ッて置きます。そして口裏型の周圍に糊を附け第三十九圖の如く留糊を四本施して、丈一寸四分の裏用布の上に載せ平に貼ッて鏝をかけます。

三、次ぎに箱裏の板目紙の筋を入れた方の面にベタ糊をつけ、糊むらがない樣に糊をふき取ッて、丈一寸一分の裏用布の上に載せ、用布が上になる樣に置き替へて、型紙の筋を用布の方に折りながら、弛んだり、折り目の角に用布が不足したりしない樣に、よく仕上篦でしごいて、第四十二圖の樣に箱型に致します、これに鏝をかけますと糊が白

第四十二圖
箱の作り方



く用布に浮いて見苦るしくなりますから、鏝を掛けないで自然に乾かしそれから用布を型通りに切り、型紙の(1)と(1)との筋を重ねて箱に貼り上げます。

四、次に底型の板目紙にヘタ糊をつけ、一枚は表用布に、一枚は裏用布に平に貼りつけます。そして裏用布は型紙通りに、表用布は型紙の周圍を二分づゝ用布を殘して裁ち、各縁糊を施しておきます、

(四)縫方

一、表型紙に第三十八圖の樣に縦に六本、横に三本の筋を入れて置き、口裏にも、縦に六本横に一本筋を入れて置きます。

二、次に表型紙の(イ)の筋と(イ)の筋とを中表に合せて二分の縫ひ代に半返し縫をなし、其縫目を兩方に割ッて鏝を掛けて置きます。

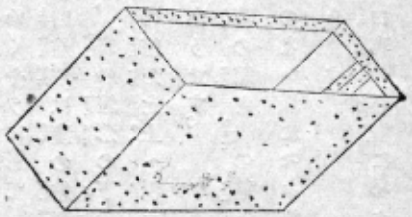
三、次に下の端に糊を附け、二分の筋から裏に折りて貼り附鏝を掛け、そして更に外側に返しまして、各々(ロ)の筋を外に折ッて、確乎りと折り目を附けますと表用布が箱型になッた譯であります。

四、裏の兩横の(イ)と(イ)との筋を中表に合はせて、二分の縫代に半返し縫ひに

妻大圖

第四十三圖

箱形の作り方



致し表と同じく割ッて鏝をかけ、上の端に糊を附け、裏に折ッて貼りつけ、次に中表のまゝ各々の(ロ)筋を外に折り、能く折り目を附けますと裏も箱型になッたので御座います。

五、次に前に裁ッて御座います、巾一寸五分丈二寸六分五厘の生判紙を裁板の上に置き、その上に裏底の型紙の方をヘタ糊で貼りますこの時半紙が周圍に二分出るやうになります、其二分の半紙に糊を附けて其上に箱型を載せますと底型の裏用布が箱の底になッてゐまして、二分巾の半紙が外側にありますから木型(一寸一分角長さ五寸)を入れて、角に押し當て箱が動かぬ樣に左で抑へてゐながら、仕上鏡の尖でその半紙を箱の周圍に貼り附けますと、裏底と箱とは貼り合さりまして底のある箱となつたのであります、そして角々に生半紙が六角形に殘ッてゐますからこの三角を切り捨てるのであります。

六、次に表底の型紙の面にベタ糊を附て今貼り上げました裏底を正しく其上に載せ、裏底の生判紙を貼ッたと同樣の仕方て、型紙の周圍の二分の表用布を箱形に貼り附、四隅の角々に三角形に殘ッてゐる用布を前のやうにして裁ち切りてしまひます。

七、これて箱の大體の形は出來上りましたから、(イ)の箱の縫目を箱の一方の横の中央にゆくやうにして、表用布て出來てゐる箱形のものをその上から被せます、この時箱形は裏の箱形と正確に寸法が合ッて居りますので容易に被さりませんから、表の箱形の下の緣を、目打錐の尖端て徐々に引き下げながら、一方の手て裏の箱形を上へ引ッ張ッて、表の下の緣が裏の箱の底と平になるやうにするのであります。

八、次に裏の箱と表の箱との間に、糊筆に糊を附けて差し込み、裏の箱の周圍に糊むらのない樣にベタ糊をつけて表の箱と貼り合せ、表用布の上から刷毛て叩いて置きます。

九、次に口裏の心紙にベタ糊をつけ、心紙の(ハ)と表型の(ハ)とを合せて、(ニ)の

の筋の間に貼ります、（第三十八圖表型參照）そして表の上の端に二分巾に糊を附け、上の端の筋から折ッて心紙を包んて裏の方に貼ります。

十、次に口裏型にベタ糊をつけ、(イ)の筋の縫ひ目が表の(イ)の筋の縫ひ目と反對の横の中央になるやうにして表の箱の中に入れ、表の上が口裏の上よりも五厘ふく樣に貼りつけます、すると口裏の裁ち目の端が裏の箱の中途に貼られる樣になッて居ります。そして後て口の所の糊が剝がれても表と裏の用布が離れぬやうに小さい針目て新けて置き、次に第三十八圖の表型の(2)の筋を外に(ロ)の筋を中に折りますと、第四十四圖の樣になるのであります。

第四十四圖

出來上りを折る

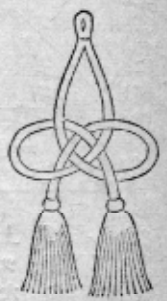


十一、これて全く箱の形は出來上りましたから、正面に致さそうと思ふ箱の縫の中央て、底から五分上ッた所に目打錐て穴をあけ、其穴に鋲を差し込んて鋲の尖端を箱の中て兩方に開き、拔けない樣に致しておきます。

十二、次ぎに用意してある打ち紐の兩端に其色の絹糸て房をつけ、打ち紐の

丈を正しく二ツに折ッて輪の方から五分の處を其色の糸で堅く結び、その兩端で第四十五圖の様に飾結びを作ります。

第四十五圖
飾結び



而して箱形の上に今結んだ打ち紐を載せ、房が格好よく兩横に垂れるやうにし、且つ五分の丈に結んである輪の方を正面にして、針目を裏に出さないやうに注意して、其糸で縫ひつけますと、九重形琴爪入は全く出來上ッた事になるのでございます。

第七章　鏡付き打粉入れ

鏡付き打粉入れは、外出用として白粉の粉を入れ置くたゝと鏡のついて居るものでありまして、即ち出來上り圖に示すが如き形狀のものであります。たゝとうの裏は木綿を貼ッて置く場合もあり、或は竹の皮か又はなめし革を用ふる場合もあります。以下に講述する打粉入れには簡單に木綿を貼る事と致します。

（以下次號）

第四十六圖
打粉入出來上り



（一）材料

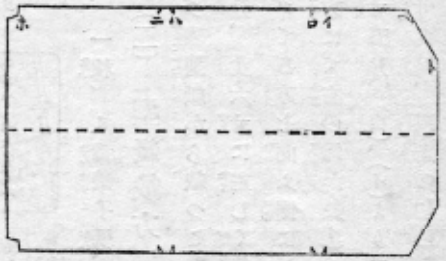
表用布、巾六ッ割、長さ六寸一分、一枚。
裏用布、巾六ッ割、長さ六寸一分、一枚。
裏用布、巾五ッ割、長さ四寸三分、一枚。
キヤラコ、巾四寸六分、長さ四寸五分。
笹爪、一ッ。打紐、一尺（凡そ一寸位のもの）。
生半紙、一枚。八番張子紙、少許。

（二）型紙裁方

一、先づ表型紙から裁つことに致します。用意してある生半紙を例に依り、幅三寸三分、丈六寸に正しく裁ち、それを中表に二ツに折り輪を手前に兩横の二枚重なッてる方を向ふ側にして裁板に載せ、第四十七圖に示す如く、向ふ側の裁目の方にて右の端から（イ）（ロ）（ハ）の順により切込みを入れて置きます。即ち（イ）端より一寸五分、（ロ）、（イ）より二分、（ハ）、（ロ）より一寸九分、（ニ）、（ハ）より二分、（ホ）（ニ）より一寸九分、以上の切込みが這入りましたならば殘りの三分を鉤の手に截

ち落します。次に向ふ側の右の端から輪の方へ即ち手前の方へ、九分と標を附け、更に向ふ側の右の角から(イ)の方へ四分五厘と標を附けて、その標と前の標との間を斜めに裁ち落します。これを擴げますと第四十七圖と同樣になります。

第四十七圖
表型紙裁方



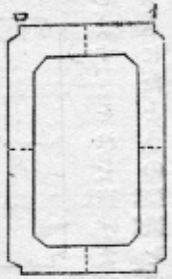
第四十八圖
被裏裁方



二、次に被せ裏の型紙を裁ちますには生地紙を幅三寸二分五厘、丈一寸八分五厘と正しく裁ちて、中表に二ッ折りにして表型紙と同樣に、(イ)、端より一寸四分、(ロ)、(イ)より三分、以上の切込みが這入りましたならば殘りの一分五厘を鉤の手に裁ち落します。次に向ふ側の右の端から九分と、二枚重なッてゐる方へ四分五厘の處に標を附け、その標と前の標の間を斜に裁ち落します。これを擴げますと第四十八圖の被せ裏型紙と同樣であります。

三、次に鏡表型紙を裁ちますが幅は被せ裏と同じでありますから、被せ裏の型紙をとつた殘りの生地紙を丈二寸一分五厘に正しく裁ち、前と同方法にて切り込みを入れます。(イ)、端より一分五厘、(ロ)、(イ)より一寸八分五厘、以上の切り込みを入れますと終りに一分五厘殘りますから、この一分五厘と始めの一分五厘とを鉤の手に裁ちます。次に幅を二ッ折にしたまゝ更に一寸八分五厘の丈を正しく二ッに折つて輪の方を右にし、輪の二ッ重なッてゐる方を手前にして、手前の右の角から向ふ側の方へ一寸一分五厘の所に標をつけてその標から左の方五分の處へ標をつけます。更に手前の右の角から左の方に六分五厘と標を附け、その標から上の方へ一寸の處に標を附け、その標から標までの間を斜に裁ち落します。これを擴げますと第四十九圖鏡表型紙と同樣になります。

第四十九圖
鏡表型紙



四、次にまた同じ殘りの生地紙を持ちまして鏡裏中型を裁ちます。幅は前と

第五十圖
鏡裏中型紙



同寸法でありますから。其のまゝ丈を二寸二分に裁ち、二ッに折ってやはり右の端から、(イ)、端より一分五厘。(ロ)、(イ)より二分五厘に切込みを入れます。而して始めの一分五厘を鉤の手に裁ち落します、それを擴げますと第五十圖に示す鏡裏中型紙と同様になります。

五、次ぎにたとうの型紙を巾四寸三分、丈四寸二分に裁ちます。

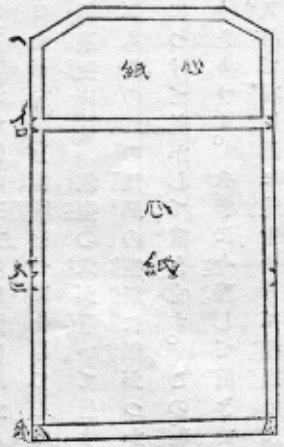
六、次ぎに心紙を裁ちます。被せの心紙は巾三寸、丈一寸二分五厘に裁ち、一方の端を表型紙に合せて裁ちます。胴の心紙は巾三寸、丈四寸五厘に裁ッて置きます。以上で型紙は全部裁ち終りました。

(三) 貼り方

一、表型紙の周圍に糊をつけ表用布の裏側に載せ、被せの一方だけ表に袋取ッて他の三方を平に貼りつけます。

二、被せ裏型紙の周圍に糊をつけ用布の裏側に縦横の曲らぬやうに貼ッて置きます。

第五十一圖
表型に心紙を貼る



三、鏡裏型紙の周圍に糊をつけ用布の裏側に前と同様に貼ッて置きます。

四、鏡裏型紙の周圍に糊をつけ全く前と同様に致して置きます。

五、前に用意して置きました巾五ッ卸、丈四寸三分の裏用布にベタ糊をつけてたとうの型紙を貼りよく刷毛で叩いて置きます。以上で全部貼り終りましたから型紙通りに裁ちまして、その型紙に縁糊をかけて置きます。

(四) 貼り合せ方

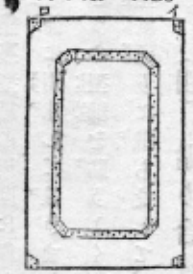
一、被せ裏の心紙及び胴の心紙の周圍に糊をつけて第五十一圖のやうに貼り今貼りました周圍に筋を入れて置きます。次ぎに前に筋を入れて置きました(ホ)から(ホ)の間を除いた他の三方に縁糊をつけ裏型通りに貼ります。

二、次ぎに被裏の(ロ)の切

込みの一方の端を除いた他の三方の周圍に端から一分五厘這入つた所へ筋を入れ、今筋を入れました所を縁糊をつけましてその筋通りに貼ります。

三、次ぎに鏡裏型には、鏡型の穴が覗いて居りますので、そこへ裏用布が覗いて居りますからその穴の周圍の型紙に糊がつかないやうに、覗いてゐる用布に薄糊を一面につけて乾かして置きます。この乾かしました鏡裏の型紙より二分廻り廣く切りとります。次ぎに今殘して置きました用布に第五十三圖のやうに切り込みを入れて其周圍に糊をつけて型通りに貼ります。而して(イ)から(イ)、(ロ)から(ロ)へ筋を入れまして(イ)から(イ)の間を縁糊をして筋通りに貼ります。

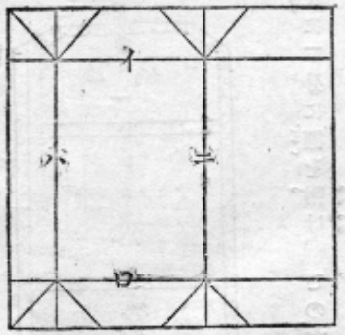
第五十二圖
鏡表の貼り方



四、次ぎに鏡表中型の(イ)の間に筋を入れまして鏡裏の(イ)から(ロ)の間に縁糊をつけ、鏡裏中型の(ロ)の切り込みと、鏡裏の(イ)の切り込みとが合ふやうに兩横を貼ります、而して(ロ)から(ロ)の端に糊をつけて筋通りに貼りつけます。次ぎに(イ)から(ロ)の間を端から一分五厘這入つたところで兩横に筋を入れて置きます、今筋を入れました端に縁糊をして筋通りに貼ります。

四寸三分

第五十三圖
(1)　たとうにの筋の入方
四寸二分



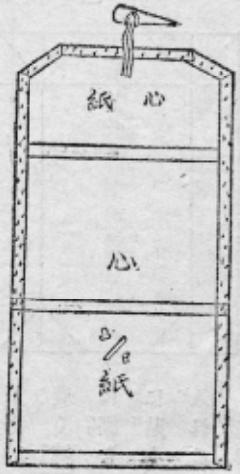
五、次に前に用意してありましたキヤラコにベタ糊を附けて、たとう型を周圍一分廣くなる樣に貼り附、その貼りましたたとう型よりも、七厘周圍を廣く綺麗に裁ち、次に今裁ちし裏の方に糊をつけて、たとう型の一方型通りに貼り、而して第五十二圖の如く筋を入れるのであります。

筋の入れ方、は始めに四寸二分と、四寸三分の方が圖の如き向きになるやうにそしてキヤラコの貼つてある方を上にして下に置き、向ふ側の端より七分と即ち(イ)線を入れ、次に手前の端より又七分と(ロ)線を入れ、それから左横の端からも七分と(ハ)線を入れ、次に其(ハ)線よ

も一寸八分五厘と即ち(ニ)線を入れ、次に(ハ)線及び(ニ)線の兩端に各線を中央に左右に七分づゝ標を附け、其標より(イ)(ロ)(ハ)(ニ)の四ツの交叉點へと各斜めに定木を渡して筋を入れるのであります。

第五十四圖

表型に爪及び爪掛の附方

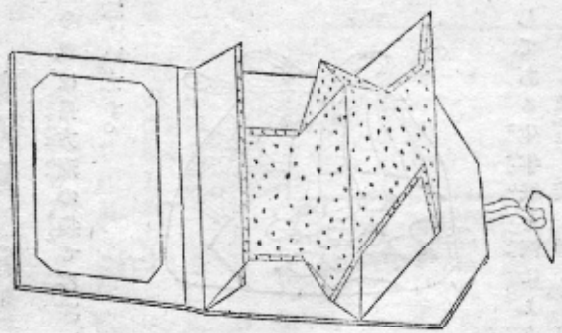


六、 次に前に用意して置きました打紐を二寸切り、それを笹爪に第五十三圖の樣に附けて置きます。

次に表型を被せを上にして下から一寸三分、左から一寸四分に標をつけ、その標から上に二分、左に二分に標を附け、この左へ附けた標から更に上に一分五厘に標を附けて置きます。そして笹爪に附けた殘りの紐で同五十三圖の樣に廻り、前に笹爪に附けた打紐の先に糊をつけ被せの眞中に打紐が二分見えるやうに貼り附けて置きます。

第五十五圖

打紛入貼り上りの圖



七 次に被せ裏の周圍に糊を附けて、表型の被せに合せて貼ります。そして鏡裏の周圍に糊を附けて鏡裏の(ロ)の切り込みと表型の(ホ)の切り込みと合ふやうにして貼ります。

次に表型の(ホ)から(ホ)の間の端に糊を附けて鏡裏の(ロ)の貼り代を包んで表の裏に貼ります。而して裏型の(ロ)から(ロ)の間に糊をつけて表型の(ホ)から(ホ)の間を貼り合せます。

八 次にたとうの底の周圍に糊を附けて表型の(ロ)より(ハ)の間に合せて貼りつけますこれで全く第五十四圖のやうに出來上りましたから、例の通り形を整へて仕上を致すのであります。

第八章　常盤バッグ

常盤バックは長方形の袋でございまして口の所を打紐で縢りました輕便な手提袋でございます。

第五十六圖

常盤バック出來上り



(一)　材料

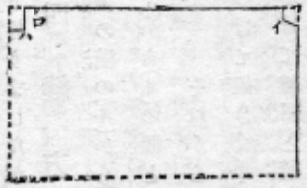
表用布、幅七寸五分、丈一尺一寸六分。
裏用布、幅七寸五分、丈一尺一寸四分。
打紐、直徑一分五厘位の太さ、四尺五寸
別に直徑一分位の太さのもの、四尺。生
判紙、三枚。

(二)　型紙裁方

一、先づ表型紙から裁つことに致します。用意してある生半紙を例により半して幅七寸五分、丈一尺一寸五分に正しく裁ち、それを中表に縦に二ツに折り、更に横に二ツに折りまして輪の方が左に、輪が二ツ重なつてる方を手前にして、裁板の上に置き、第五十七圖の如く向ふ側の裁目の方にて右の端から(イ)(ロ)(ハ)の順によつて切り込みを入れて置きます、(イ)端から二分、(ロ)、(イ)より五寸一分五厘、(ハ)(ロ)より一分五厘、以上て切り込みが這入りましたならば始めの二分を鉤の手に裁ち落して置きます。次に(ハ)の切り込みを三分の深さに眞直ぐに切り込みを入れて、終りの輪の方も、裁目から三分と、二分の深さに切り込みを入れますと三分と二分との四角がとれる樣に裁ち落したことになります。

第五十七圖

表型紙の裁方



二、次ぎに裏の型紙を裁ちますにはやはり生判紙を幅七寸五分、丈一尺一寸二分に正しく裁ち、それを中表に横に二ツに折り、更に縦に二ツに折りまして輪の方が左に、輪の二ツ重なつた方を手前にして裁板の上に置き向ふ側の裁目の方にて右の端から(イ)(ロ)(ハ)の順によつて切り込みを入れて置きます。(イ)、端より二分、(ロ)(イ)より四寸九分五厘、(ハ)、(ロ)より一分五厘、以上の切り込みが這入

りましたならば、始めの二分を鈎の手に裁ち落して置き、終りの(ハ)の切り込みの處も表型と同じやうに、(ハ)の切込みを三分五厘の深さにして、終りの輪の處を裁目より三分五厘として、二分五厘の深さに切込みますと、三分五厘と二分五厘の四角が切り落されたことになります。

(三) 貼り方

一、表型紙の周圍に糊をつけ、表用布の裏に平に貼ります。

二、裏型の周圍に糊をつけ裏用布の裏に平に貼ります。

之て貼り終りましたから、型通りに表裏共裁落して縁糊をかけて置きます

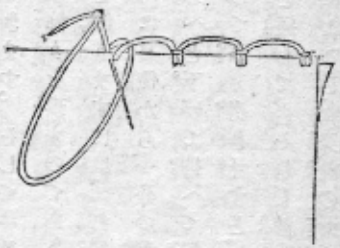
(四) 縫方

一、表型の横の(イ)から(イ)の間と、他の一方は中央を三寸明けて糊をつけ、裏型の横の(イ)から(イ)の間と合ふやうに貼ります。今貼り合せました所を一分の縫代て縫ひます。それから横の(イ)から(イ)の間を裏の方から筋を引き、其筋通り折りくせをつけて置きます。次ぎに表型の(イ)から(ハ)の間と、裏型の(イ)から(ハ)の間とに糊をつけて縫目と縫目と合ふやうに貼りつけます。而して裏型の(イ)から(ハ)の間に糊をつけ、表の(ハ)と貼り合せまして、これを一分の縫代て縫ひ、筋を入れて裏の方に折りくせをつけて置きます。次ぎに表の底の輪と縫目と合せて折りますと自然に三角形になります。裏も同様に一分の縫代て縫ひ、表の方へ筋を入れよく折りくせをつけて、前に明けて置きました三寸の明から外表に返へし、よく角を出して形を直し、返し口をくけて置きます。

これて袋は出來上りましたから、次に袋の口の片側を八等分して兩側とも標をつけて置きます。そして一分の太さの打紐を以て第五十八圖の樣に、紐を通すべき口の飾りを致すのであります。

先づ口を飾りますには、打紐を太き針に通し、袋の横の縫目の處より一分離れしところに裏側から一分の深さに針を入れて表に出し、其の出た糸を左の親指て下の方へと下げて抑へて置いて、更に同じ針目を取って、もう一度裏側から表に出して糸を引きますと、圖中第一の針目のやうになります。次に針を表から裏へと通して、それを第一の針目から來た糸に向ふ側からくゞらして、其糸を表の方によこし、又前の如く親指て抑へて置いて同じ針目を圖の如く裏側か

第五十八圖
絲のかゝり方



ら表へと針を出して引締めますと、即ち第二の針目のやうになりますから、順に斯うして終り迄八等分した標の處を一針づゝ贈ッて行くのであります。次に向ふ側に移ります角の處では、終りの針を裏の同じ針目からずらゝッと縫目の縫分けのしてある留より二分下りし縫目の處に出し、更に其針と同じ縫目のすぐ隣りの向ふ側の裏に入れて、裏と表の間を通してやはり始めのやうに絲より一分下りし裏側に出し、其針を表から絲を一巻きして、同じ針目を裏に出し、裏に出た糸を表の方へと折り曲げて親指で抑へ、更に裏側から同じ針目を又表に出し、糸を引きますと始めの第一の針目と同様になります。次は第二、第三の針目の様に同じく終り迄贈り、終りの糸と始めの糸とを布の間を通して横の縫目へと出し、其處へ確乎と綴附て切ッて置きます。次に太い打紐を二ッに折り一本宛右からと左からと一ッ置きに通し端を結んで置きます。

第九章　紙ばさみ

紙挟みは鼻紙を挟んで置く袋でありまして、出來上り圖に示す如く二ッ折りになッてゐて兩横が細い打紐で贈ッてあり、紙を挟む處の手前に、もう一ッ一寸名刺くらゐを挟む口が附いてをりますから、名刺挟と兩方兼ねて誠に便利のものであります。

第五十九圖
紙はさみ出來上り



（一）材料

表用布、幅、四寸二分、丈、五寸八分。
裏用布、幅、四寸一分、丈、一尺五分。
廣判張子紙、一枚。外に心紙、少許。

（二）型紙裁方

表型から裁つ事に致します。用意してあります紙を幅四寸二分、丈五寸八分と正確に裁ち、例により縦二ッ折りになして、右の端からイロハの順

に切込みを入れて行きます。

（イ）右の端から三分。

（ロ）（イ）より二寸四分。

（ハ）（ロ）より四分。

（ニ）（ハ）より二寸四分。

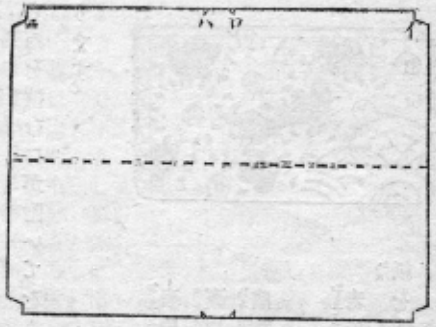
以上の切込みを入れますと、終りに三分殘る事になりますから、始めの三分と終りの三分とを鉤の手に裁ち落して置きます。それを擴げますと第六十圖の如くなります。

次に裏型紙を裁ちますが、やはり表と同じ廣判張子紙を幅四寸一分、丈五寸七分に正しく切り、それを縱二ツ折にして切込みを入れるのであります。

（イ）右の端から一分五厘。（ロ）、（イ）より二寸四分。

第六十圖

表型紙裁方



（以下次號）

（ロ）、（イ）より二寸四分。（ハ）、（ロ）より三分。（ニ）、（ハ）より二寸四分。

以上の切込みが入りましたならば、始めの一分五厘と終りに殘りし三分とを鉤の手に裁ち落すこと表と同樣であります。それを擴げますと表型紙と殆ど同樣でたゞ始めの鉤の手の裁込みの分が一分五厘少いのと、（ロ）から（ハ）迄の寸法が一分少いだけでありますから圖解は略すことに致します。

（三）貼り方

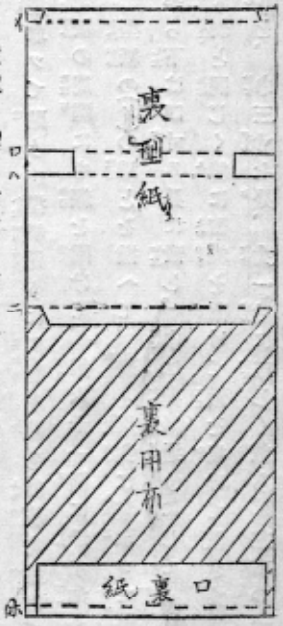
先づ例に依り型紙を裁ッ爲に二ツ折りにした中央の折山に薄糊を附けて上から鏝をかけて折りを消し、始め表型紙の通りに糊を附け布目を正して表用布に左右とも袋取ッて貼り、型紙通りに周圍を裁ち縁糊を附けて置きます。

次に裏型紙の周圍にも糊を附けて、第六十一圖に示す如く裏用布の一方の端の裁目と、型紙の（イ）の端とを揃へて、表と反對に袋取ッて貼り附け、型紙の（ニ）の切込みから下は四寸八分に致し、巾は型紙通りにして、周圍を正確に裁ち切り、やはり表と同じく縁に留糊を附けて鏝を掛けて置きます。

次に半紙を、巾三寸七分、丈一寸に正しく裁ち、左右の一寸の方を殘して、

第六十一圖

裏布に型紙の貼り方



をよく揃へて裏布の巾の中央に貼り附け、周圍に鑢をかけて置きます。

(四)　縫　方

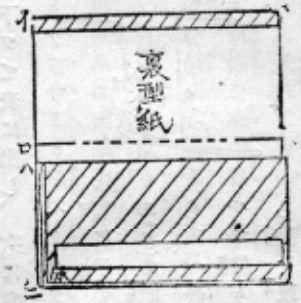
表裏共(イ)(ロ)(ハ)(ニ)の切込に筋を入れ、先づ裏型の(イ)の筋の處を裏に折り曲げて貼り附け、次に口裏紙の貼ッてある方を端から一分五厘と(ホ)印の處にも筋を入れ、やはり其筋から折り曲げて貼り附け置き、こんどは張子紙を三分巾五分の丈に四角に二枚裁ち、裏型紙の(ロ)と(ハ)との間に左右とも貼り附けて置きます。

次に(ハ)より(ニ)迄の間兩端とも裏側に淺く糊を附け、(ニ)の切込の筋から二ッに折り、裏型紙の貼ッてある方を袋取ッて(ハ)より(ニ)迄の間だけ貼り附け、更に同じく(ハ)より(ニ)迄の間、今折り曲げて來て貼ッた布の上に淺く糊を附け、殘りの裏を元へ戻して(ニ)の折山と(ホ)の折山とを合せ、やはり前と同じく、順に上に重なる分が巾がつれる様に袋取ッて貼り、左右とも貼ッた上から鑢をかけて置き、次に貼り上ッた裏と、表用布と中表に、表の(イ)と裏の(イ)と、表の(ニ)と裏の(ニ)と合せて四角をちよッと貼り附けますと、(ロ)と(ハ)の間で表が一分だけ弛む様になりますから、其弛みは、(ロ)と(ハ)の筋の處で縮ませ、左右共(イ)より(ニ)迄の間を一針抜の半返しに縫ひ、縫目は平鑢を表の方から掛け、左右とも表の方より縫目のそばに定木を當てゝ筋を入れ、縫込みを表側の方に折り縫込みを叩いて後ひッくり返して表を出し、兩横の縫目は毛抜合せにして上から輕く叩いて置きます。

次に、張子紙を、巾は縫上ッた袋に合せて丈は五寸二分と正しく裁ち、袋の

第六十二圖

裏の貼り方せ合

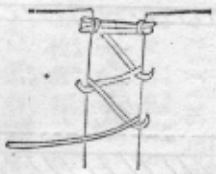


表の方と縫込との間に差入れ、筒の先で、今入れた心に當る方の縫込みに糊を附け、心紙の裁目と、表型の(イ)(ニ)の筋とが合ふ様に表を能く引ッ張ッて左右の縫込みを貼り附け、上から叩いて縫目をつぶし、表裏から鏝をかけて形を正し(ロ)(ハ)の筋の處を裏用布の方に折りて四角に二ッ折りになして置きます。

以上で紙挟みは箱形になりましたから、端から三分づゝに筋を附けた厚さ三分の臙板を挟み、能く叩いて折り癖を附け、三分づゝ板に附いている筋を目當に千鳥掛けに縢るのであります。其縢り方は始めに針を表と裏の間から(イ)の筋から五厘下ッて表に出し、次に向ふ側の(ニ)の筋からやはり五厘下ッて表から裏へぶつゝり通し、次は丁度常盤バッグの縁縢りの様に圖に示す如く裏側から表に出し固く糸を引きて再び元の(イ)の處に表から裏へとぶつゝり針を通し、次は裏から表へ針を入れ固く糸を引きて後は三分置きに交叉させて終り迄千鳥掛けに致し、終りは底の中央へと表から裏を取らずに縫目の間に針を出し、糸の上を廻して

第六十三圖

横の縢り方

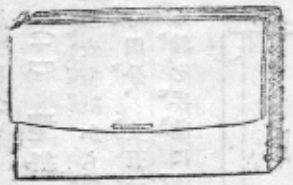


前と同じ處に入れて裏の三分許り奥に出し其處で玉結びをして留て置きます。斯様にして兩横を縢り終りましたなら、表の(イ)と(ニ)の折り込み三分の處に糊を附け、心紙を包んで貼り、更に裏の(イ)の一分五厘の折込みに糊をつけて表の(イ)の筋と裏の(イ)の筋と貼り合せ、(ロ)の方も同じ仕方にて貼ります。

以上で紙挟みは出来上りましたから丁度中に一ぱいに這る大きさに幾枚かの半紙を疊んでそつくり揃へ正しく中に差入れて真中へ帯紙を巻いて置きます。

第六十四圖

紙入出來上り



第十章　被せ附兩縢り紙入

被せ附兩縢り紙入は、兩横を細い打紐で縢り真中に被せつきの蓋しをつけた紙入でございます。

（一）材料

表用布、巾四寸四分、長さ八寸五分。

裏用布、巾四寸四分、長さ一尺二寸。

他に縢り紐四尺。六分の小鰐を一つ。生利紙と八番

張子紙とを少しづゝ。

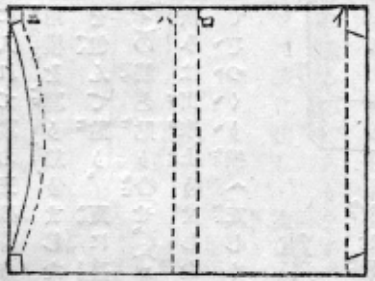
（二）型紙裁方

（一）先づ表型紙から裁つことに致します。用意してある生判紙を例に依りまして幅四寸四分、丈五寸六分五厘に正しく裁ち、それを中を表にして横を二ツ折りとなし輪を手前に両横の二枚重なつてる方を向ふ側にして裁ち板の上に置き、向ふ側の裁目の方て右の端から（イ×ロ×ハ）の順によつて切り込みを入れて置きます。

（イ）、端より三分。（ロ）、（イ）より二寸四分。（ハ）、（ロ）より四分。（ニ）、（ハ）より二寸四分の順に切り込みが這入りましたならば、始めの三分と終りの一分五厘とを鉤の手に裁ちますと、第六十五圖に示す矚り表型紙と同様に成ります。

第六十五圖

矚り表型

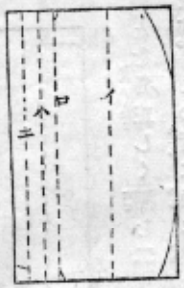


二、次きに被せ表の型紙を裁ちますには矢張り生判紙を幅四寸四分、丈二寸六分五厘に正しく裁つて中表に巾を二ツ折りとなし、矚り表型紙と同様に裁ち板の上に載せ右の端から前と同じに切込を入れます。（イ）端より一寸、（ロ）、（イ）より一寸、（ハ）、（ニ）より二分、（ニ）、（ハ）より三分の順に切り込みが這入りましたならば、始めの三分と殘りの一分五厘とを鉤の手に裁ち落して置きます。これを擴げますと第六十六圖の被せ表型紙と成ります。

三、次に矚り裏型紙を裁ちます。矢張り生判紙を幅四寸三分、丈五寸一分に裁ち、中表に幅を二ツ折となして裁ち板の上に載せて右の端から前と同じ様に切り込みを入れます。（イ）、端より一分五厘、（ロ）、（イ）より

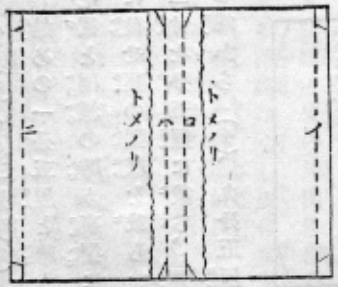
第六十六圖

被せ表型



第六十七圖

矚り裏型

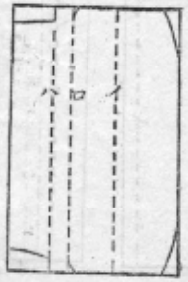


二寸一分。(ハ)、(ロ)より三分。(ニ)、(ハ)より二寸四分の順に切り込みが這入りましたならば。始めの一分五厘と終りの一分五厘とを鋏の手に裁ちて置きます。即ち第六十七圖と同樣の胴張り裏型になります。

四、次に被せ裏の型紙を裁ちますが幅は胴張り裏と同じでありますから裏りの判紙で丈二寸七分五厘に裁ち、例の如く中表に幅を二ツ折りとなし裁板の上に載せ、右の端から、(イ)、九分五厘。(ロ)、(イ)より一寸。(ハ)、(ロ)より一分。と切り込みが這入りますと殘りの七分を鋏の手に裁ちます。これを擴げますと第六十八圖と同樣な被せ裏型紙に成ります。但し楕型は表型に合せて裁ちます。

第六十八圖

被せ裏型



五、次に被せ表型第六十六圖と被せ裏型（第六十八圖）とを各正しく幅を二ツ折りにして裁目を揃へて重ね、一分五厘の楕型に裁ちます。この所は後に被せになるのであります。

六、次ぎに心紙を裁ちます。用意してありました八番張子紙を幅四寸一分丈一寸八分の被せの心紙と、幅四寸一分、丈五寸二分の胴の心紙とを一枚づゝ裁つて置きます。

(三) 貼り方

一、前に用意して置きました表用布丈五寸八分と、二寸七分との二ツに裁ち離して置きます。

二、次ぎに裏用布を丈五寸一分と六寸九分との二ツに裁ち切ッて置きます。

三、次ぎに胴張り表の周圍に糊をつけ丈五寸八分の用布の裏側に載せて兩横を平に貼り丈の兩端は少し表に袋取ッて貼ります。

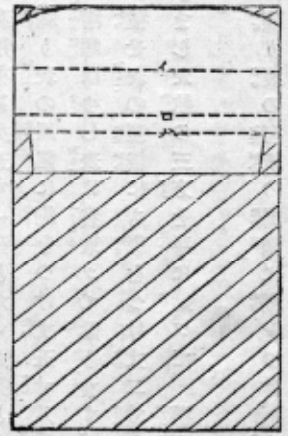
四、次ぎに被せ表の型紙にも糊をつけ丈二寸七分の表用布の上に載せ、被せの楕形を除きました他の三方を平に貼ッて、楕形の所は十分表に袋取つて貼ります。

五、次ぎに胴張り裏の型紙の周圍に糊をつけ、丈の中央に二本留糊を致し、丈五寸一分の裏用布に載せ、平に貼ります。

六、次ぎに被せ裏の型紙に線糊をつけ、第六十九圖の樣に丈六寸九分の裏用

布の上に載せて平に貼りつけます。而して(ハ)の切り込みより用布四寸八分殘して殘りを裁ち捨てます。

第六十九圖
裏型を用布に貼り被せ裏を込む



以上で全部貼り終りましたから、曝り表、被せ表と曝り裏とは型紙通りに、裁ち、被せ裏は襠と幅とを型紙の通りに各裁ち目のほつれを防ぐ爲めに、表から縫糊をかけて置きます。

(四)縫方

一、次ぎに曝り表の皿刳りの際から一寸一分這入つた所の中央に長さ八分の小馳かけを致しますが、この小馳を致します方法は先づ小馳の幅より二分廣く作りまして、此小馳掛けをつけ様と思ふ所に裏側の方から、其寸法より少し大き目な張子紙を貼り付けた所で小馳かけの寸法通りに直接に糸を三本渡して曝りの下糸を掛へます。而してその針を表の方に抜き出し左の手に袋を持ち、右の手に針を持ツて曝ります。その曝り方は今抜き出した針について居る糸を第七十圖の様にグルリと右方に半圓を描いて向ふへ廻したならば、自分の方に向せて下糸をくゞらせ半圓の中から抜き出し糸を堅く締めその締めが弛まぬ様に縮際から少しはなれた所で確かりと糸を拇指で抑へ、また糸を左の方からグルリと右の方に半圓を描いて向ふにまはし、次ぎに自分の方へ向かせて下糸をくゞらせ、半圓の中から抜き出して締めるといふ順序で下糸を悉く曝るのでございます。而してもう一つで終りと云ふ所で針を表から裏の方へ出して留め、その端を一寸程殘して切り綿で貼りつけて置くのでございます、この小馳かけの糸の色は裏用布と同じ色かそれによく似よつた色の少し濃いものを用ゐる様に致します。

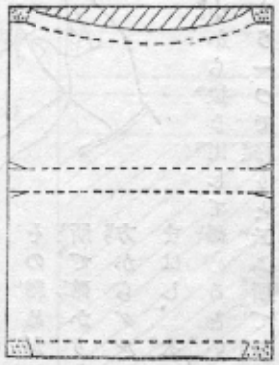
第七十圖
小馳かけの仕方



二、次ぎに縁り表の皿刳りの端と、被せ裏を第七十一圖の樣に中表に重ねて貼り、一分の縫代て縫ひます。而して被せ裏の用布の端を表型に慴つて皿形に裁ち、縫つた糸を切らない程度の深さて縫代に切込みを入れて、一分五厘の切込みに筋を入れて、その筋通りに縁り表の方へ折りつけて外表に返して、五厘表用布の方を袱かせて鍍を掛けて置きます。之は前口になるのてござゐます。

第七十一圖

表用布に被せ裏の端を中表に合せて貼込の圖



三、次ぎにその皿刳りの所を向ふ側に縁り、表を下に被せ裏を手前の上にして裁ち板の上に載せ、被せ裏を中表に向ふに折返して(ハ)の切り込みを皿刳りの上に重ねます。するとその間の用布が三重になりますから(表用布二枚と裏用布一枚)兩横を三枚ともに縁糊て貼ります。この時皿刳りの方の幅を少し弛ませて被せ裏の幅を少しつらせます。

四、次ぎに被せ表の(ニ)の端と縁り裏の(イ)の端とを中表に重ねて縁糊て貼り一分の縫代て縫つて(イ)の切り込みに筋を入れて裏用布の方へ返します。そして縁り裏の(ニ)の切り込みに筋を入れて筋通りに裏に折つて貼つて置きます。

五、次ぎに被せ表の楕形の端に縁糊をつけ、被せ裏の楕形と巾の中央に合せて中表にして貼ります。すると裏型は表型よりも一分幅を控へて裁つてありますから、兩横て五厘づゝ裏用布が引つ込み表用布が延び出して居ります。

六、次ぎに被せ表と被せ裏との(イ)の切り込みと(ロ)の切り込みとを各々正しく重ねて兩横を貼りますと、楕型の兩角て表用布の丈が五厘弛む樣になります。而して楕型の巾から延び出してゐる五厘と出合まして丈の方も、幅の方も各々五厘づゝ弛んて居りますから兩角てそれを縮せます。

七、次ぎに被せ表の(ハ)の切り込みと被せ裏の(ハ)の切り込みとを重ねますと(ロ)の切り込みとの間て表用布が一分弛みますからその弛みをそこて縮せます。

八、次ぎに縁り表と縁裏との(イ)(ロ)(ハ)の切り込みを各々正しく重ねて中表にして兩横を貼ります。この時(ロ)の切り込みと(ハ)の切り込みとの間て表用布が一分

弛みますからその弛みをそこで縮せます。

九、大體の形が出來ましたら、兩横と被せの橢型との三方を表用布の方から一分の縫代で縫ひます。而して裏用布の方から縫目のすぐ内側に定木をあてゝ筋を引き、其筋から縫目を裏型の方へ折ッて大黒槌で叩いてよく折り癖をつけ外表に返して被せの格好及び兩横の幅を仕上げ篦及目打で正して置きます。

十、次ぎに前に裁ッて置きました被せの心紙の丈の一方の端を被せの橢形と合せて裁ち、兩横と被せの三方に一分の幅で糊をつけ、糊のついた方が縫ひ目にあたる樣にして被せの表用布の方へ差し込みます。

十一、次ぎに胴の心紙の丈の兩端から各々二寸四分の所に筋を引きます。その兩横に一分の巾で糊をつけ張り表と、張り裏との間に入れます。この時胴の心紙が表側になるやうにして差し込みます。而して胴の心紙は表型紙の(イ)の切り込みから(ハ)の切り込み迄の間に入れます。

十二、次ぎに張り表の(イ)の切り込みに筋を入れて、心紙の端と兩横の縫目とを包んで貼ります。

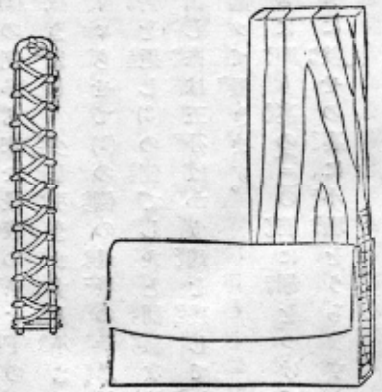
十三、次ぎに丁寧に仕上げを致しまして、小皺や凸凹を直して形を整へます。

十四、次ぎに(ロ)の切り込みと(ハ)の切り込みと裏用布の方へ折ッて箱型を作りその間に第七十二圖の樣に厚さ三分の張り板を挾んで、大黒槌で叩いてよく折癖をつけ、兩横を一分五厘の隔りの千鳥がけで張ります。その張り方は第七十二圖の(2)のやうに、始め針を(ロ)の切り込みと(ハ)の切り込みとの間に出し、次ぎに第二の針目は(ハ)の切り込みの上に出し、第三の針目は(ロ)の切り込みから一分五厘上ッた所に針を差します。第四の針目から一分五厘づゝはなして交叉させて千鳥がけを致します。而して丈の兩端まで張り(1)の筋の方の最終の標の所（端から一分五厘入つた所）になりましたならば糸を止めなければなりません。その止

第七十二圖

(1) 張り板を挾み込む

(2) 張り上り



め方は(1)の筋の方のその最後の標の所で千鳥がけを一つ致しまして、其針を直ちに(3)の筋の方の最後の千鳥がけから（五厘通入つた所）二分五厘離れ、即ち丈の端から一分通入つた所(1)の筋の側の最終の千鳥がけに向ひ合つた所）に千鳥をする様にして抜き出し、次ぎに(1)の側から来た最後の糸を下の方から上の方に跨らせてまた用布の裏から表に抜き出し、少し引きますと小さな輪が出来ます。次ぎにその輪に表側から針をくゞらせて(1)の側の最後の千鳥がけの糸と同じ穴に千鳥がけをする様な仕方で針を通し(3)の側でしたと同様な仕方で千鳥がけが止まります。而してその抜き出し糸は五分ばかり端を残して切り捨てその五分のさきに糊をつけ裏型の方に貼って置きます。

十五、次ぎに脇り裏の(ニ)の筋に糊をつけて脇り表の(ニ)の筋とを貼ります。

十六、次ぎに被せの裏に小馳をうちますと、すッかり出来上ッた事になります。

この小馳の打ち方は被せの端て表が裏側に五厘位になッてゐますから、その裏よりも二厘五毛中側、即ち被せの端から七厘五毛引かせて小馳を載せ、目打

（以下次號）

錐の尖て小馳の穴からぷッつり表に穴を明けて置きまして、それから被せの表側より今明けた穴に海鼠の足を通して、爪の雨端の穴に抜き出し、鐵臺の上に乗せて爪の雨端の布をぎゅッと力を入れて下に抑へながら、喰切りて其の二本の足を爪の裏と平に切り、用布に觸などよらぬやう元通りに平にして、足の切り口を豆鐵槌て叩き潰して平になし、海鼠と爪とが離れないやうにいたすのてあります。若し海鼠の足が爪の穴より小さいやうな場合には、眞直に切らずに少し長く稍〻斜めに曲げて切り、其の切り口を豆鐵槌てよく叩き潰しますと丁度釘の頭の様になり、よく留まります。

以上で全く被せ附雨覆り紙入は出來上りましたから、例により形を正し鏝をあて、小馳を伸ばしなどいたして後、脇りの中に丁度一ぱいに這入る大きさに幾枚かの半紙を疊んでぎッくり揃へ、正しく中に差入れ、被せ附の袋の中には極く薄つすりした心袋を作りて入れ、上よりいつものやうに帶封をして仕上げをいたすのであります。

第十一章　立太子式記念バッグ

立太子式記念バッグは上に大きな口金の付きました、下の方は口金より大きい角になつて居ります袋で、大變に實用な手提袋でございます。

（一）材料

表用布、巾七寸、長さ一尺二寸五分。

裏用布、巾七寸、長さ一尺二寸三分。

他に口金　一個。生半紙　二枚。

（二）型紙の裁方

一、先づ表型紙から裁ちます。用意してございました生半紙を、例に依りまして巾七寸、丈一尺一寸に正しく裁ち、それを中表に巾を二つ折と

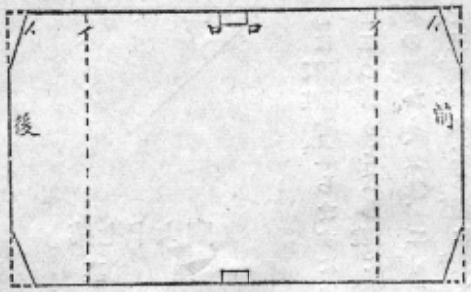
第七十三圖
バッグ出來上り



（八二）

なし、更に縦を二つに折つて輪の方を左に二枚重なつてる方を手前にして裁ち板の上に置き、向ふ側の右の端より、(イ)二寸二分。(ロ)、(イ)より二寸九分に切り込みを入れ殘りの三分を三分角になるやうに裁ち落して置きます。而して向ふ側の右の端より六分ト手前の方へ二寸とに標をつけ、その標から標の間を斜に裁ち落します。これを擴げますと第七十四圖の表型紙と同樣になるのでございます。

第七十四圖
表型

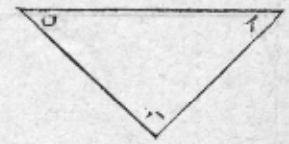


二、次ぎに表襠及裏襠を裁ちます。例の如く生半紙を巾二寸八分、丈一寸五分のもの四枚を正しく裁ちまして、その内の一枚を中表に巾を二つ折りとなし、輪を手前にして裁板の上に載せ、向ふ側の右の端から手前の左の端の間を斜に裁ち落します。これを擴げますと第七十五圖に示す襠

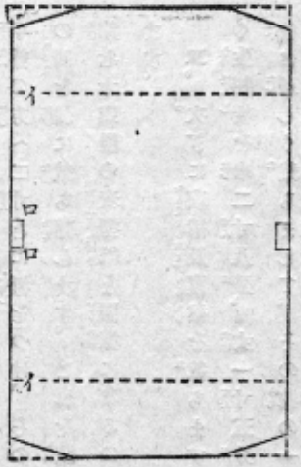
（八三）

型紙と同様になります。殘りの三枚も同様にして裁ちます。これは二枚は表襠二枚は裏襠になるのでございます。

第七十五圖
襠型



第七十六圖
裏型



三、次ぎに裏型を裁ちますには矢張り生判紙を巾七寸、丈一尺八分に正しく裁ち、巾を二つ折りとなし更に縦を二つに折り、表型と同様に裁板の上に載せ向ふ側の右の端から、(イ)、二寸二分、(ロ)、(イ)より二寸八分に切り込みを入れ殘りの三分を三分角になる様に裁ち落します。而して向ふ側の右の端から左へ六分と、手前の方へ二寸とに標をつけ、其標から標の間を斜に裁ち落します。こ

れを擴げますと第七十六圖の裏型になります。

（三）貼り方

一、表型紙の周圍に糊をつけ表用布の上に載せ、一方の端へ片寄せて平に貼ります。次ぎに表襠の周圍に糊をつけまして殘りの表用布に二枚貼ります。

二、次ぎに裏型紙の周圍に糊をつけ裏用布の上に載せ、一方の端に片寄せて平に貼ります。而して表襠の周圍に糊をつけまして殘りし裏用布に二枚貼ります。これて全部貼り終りましたから表用布と裏用布とを型紙通りに裁ちます。今裁ちました型紙の各々の裁ち目にほつれを防ぐ爲めに繰糊をかけて置きます。

（四）縫方

一、次ぎに表襠の表側の(イ)から(ハ)の間に糊をつけて、前の表型紙の(1)と(ロ)の間に貼り合せます。今貼り合せました所を一分の縫代で縫ひます。この縫ひ合せたところの表側に筋を入れて表の方へ折り返します。而して表襠の表側の(ロ)より(ハ)の間へ糊をつけて後の表型紙の(イ)と(ロ)との間に貼り付け、一分の縫代で縫ひ、表側に筋を入れて表の方へ返して置きます。次ぎに表型紙の表側に(ロ)よ

り(イ)の切り込みの間に糊をつけ、前の型紙の(ロ)より(イ)の切り込みと貼り合せ、一分の縫代で縫ひ前型紙の方へ筋を入れ折り返して置きます。今縫ひました縫ひ目と底の折り目とつき合せますと自然に三角形になりますから一分の縫代で縫ひ、縫ひ目の方へ返して置きます。片方の裾も同様に致します。次ぎに両方の裾がつきましたならば外表に返します。

二、次ぎに裏裾も表裾と全く同様につけまして表の袋の中に差し込み、表の裏側より口の周囲に糊をつけ裏と貼り合せて置きます。而して中央より両方へ一寸五分の間を一寸五分に縫ひ縮めます。片方も同様に致して置きます。

三、次ぎに口金をつけます。そのつけ方は第二裂の小型バッグのつけ方と同様でございます。

口金がつきましたならばこれで出来上りましたのですから、袋の中に心紙を入れまして格好よく形を直して置きます。

第十二章　二ッ折鏡入

第七十七圖
鏡入出來上り



(一)材料

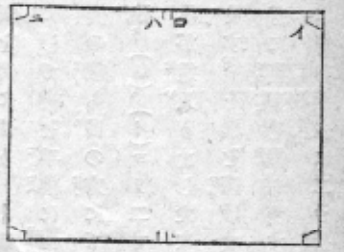
表用布、巾五ッ割、長さ四寸九分　一枚
裏用布、巾五ッ割、長さ一尺三寸五分一枚
生剥紙、二枚。八番張子紙、少し

(二)型紙の裁ち方

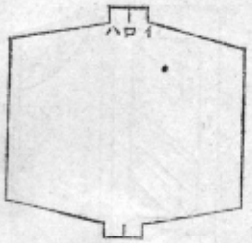
一、先づ表型紙から裁ちます。用意してある生剥紙を例に依り、巾四寸四分、丈四寸八分に正しく裁ち、それを中表に二ッ折りにして輪を手前に兩端の二枚重なつてる方を向ふ側にして裁ち板に載せ、向ふ側の裁ち目の方にて右の端より(イ)(ロ)(ハ)の順に切込を入れます。(イ)、端より三分、(ロ)、(イ)ヨリ二寸五厘、(ハ)、(ロ)より一分、(ニ)、(ハ)より二寸五厘。以上の切込みが這入りましたならば殘りの三分と始めの三分とを鋏の手に裁ち落として置きます。それを擴げますと第七十八圖の如く表型紙が出來ます。

二、次ぎに裏型を裁ちますが矢張り表と同じに生剥紙を巾四寸三分、丈三寸九分五厘に裁ち中表に二ッ折となし、表型と同様に(イ)、端より一寸七分五厘、

第七十八圖
表型紙裁方



第七十九圖
裏型紙裁方

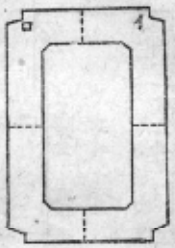


（ロ）、（イ）より二分五厘、（ハ）、（ロ）より二分五厘。以上の切込みが這入りましたならば殘りの一寸七分と始めの一寸七分五厘を鉤の手に裁ち落します。これを擴げますと第七十九圖の裏型紙に成るのであります。

三、次ぎに鏡裏を裁ちますが巾は裏型と同じでありますから裏型の型紙を取つた殘りの生判紙を丈二寸一分に正しく裁ち前と同じに切込みを入れます。（イ）、端より一分五厘、（ロ）、（イ）より一寸八分。以上の切込みを入れますと終りに一分五厘殘りますからこの一分五厘と始めの一分五厘とを鉤の手に裁ちます。次ぎに巾を二ツ折にしたまゝ更に一寸八分の丈を正しく二ツに折つて輪の方を左にし、輪の二つ重なつてる方を

手前にして、手前の右の角から向ふ側の方へ、一寸六分五厘の所に標をつけ、其の標から左の方へ四分の所に標をつけます。更に手前の右の角から左の方へ六分に標をつけ、其の標から上の方へ一寸四分五厘に標をつけ、其の標から標までの間を斜に裁ち落します。これを擴げますと第八十圖の鏡裏型紙と同樣になります。

第八十圖
鏡裏型裁方

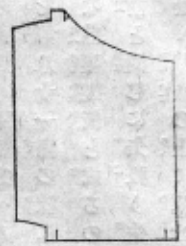


四、次ぎにまた同じ殘りの生判紙を持ちまして前裏型紙を裁ちます。巾は前と同じ寸法でありますから、そのまゝ丈を二寸五分五厘に裁ち二ツ折りにして矢張り右の端から、（イ）端より一寸一分五厘、（ロ）（イ）より一寸六分五厘、（ハ）（ロ）より一分五厘。以上の切込みが這入りましたならば殘り六分を鉤の手に裁ちます。これを擴げまして鉤の

第八十一圖
前裏型の丸み刻方



第八十二圖
前裏型裁方



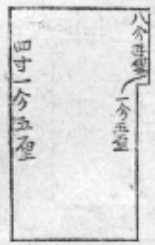
手に落した方を左にして向ふ側の右の端から下の方へ八分五厘の所即ち(二)に標をつけ、この標から(ロ)の切込みの間を第八十一圖の様に丸みをつけて裁ちます。これを擴げますと第八十二圖と同様な前裏型紙と成るのであります。

五、次ぎに中裏型紙を裁ちますが前と同じに矢張り生判紙を巾四寸一分五厘、丈一寸六分五厘に正しく裁ち、そのまゝ裁板の上に載せ向ふ側の右の端から左の方へ八分五厘の所に標をつけ、手前の方へ一寸五分に標をつけ、この標から標の間を前裏型に合せて裁ちますと、第八十三圖の如く中裏型紙が出來ます。

第八十三圖　中裏型裁方



第八十四圖　向裏型裁方



六、次ぎに向ふ裏型紙を裁ちます。巾は中裏型と同じでありますから殘りの生判紙を丈一寸九分に正しく裁ち、そのまゝ前と同じに向ふ側の右の端から下の方へ八分五厘の所に切り込みを入れ、次に一分五厘の所に二分の

深さで切込みを入れ、第八十四圖のやうに丈を裁ち落します。

七、次ぎに心紙を裁ちます。用意してありました八番張子紙で巾四寸一分、丈四寸二分に裁ちます。以上て型紙は全部裁ち終りました。

（三）貼方

一、表型紙の周圍に糊をつけ表用布の裏側に載せ平に貼つて置きます。

第八十五圖　裏用型紙に布を貼る



二、次ぎに裏用布を丈七寸六分に切り裏型紙の周圍に糊をつけ、用布の裏側に今切りました用布の一方の端に片寄せて貼ります。

三、前裏型紙の周圍に糊をつけ裏型の貼りました殘りの一方の端に第八十五圖のやうに貼ります。

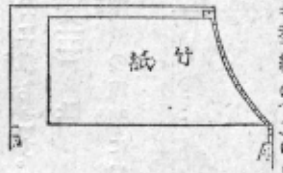
四、鏡裏型紙の周圍に糊をつけ裏用布に貼ります。

五、中裏型紙及び向裏型紙の周圍に糊をつけ、縁りの用布に貼ります。以上て全部貼り終りましたから表型紙及び鏡裏中裏型向ふ裏丈け周圍を型通りに裁ちます。裏型及び前裏型は兩端と巾とを型紙通りに裁ち各々裁ち目のほつれを防ぐ爲めに縁糊をかけて置きます。

（四）縫方

一、前裏型紙の(イ)の切込みから(ハ)の切り込みの間型紙通りの丸みに做つて筋を入れます。この一分五厘の張代に一分置き位に切り込みを入れ裏の方に返して貼ります。次ぎに中裏型の(イ)の切込みと(イ)の切込みとの間前裏型と同じに筋を入れ、また切り込みを入れて裏の方に返して張ります。そして中裏型の(イ)の切込から(ハ)の切込みの間と兩横とを糊をつけて前裏型の(イ)の切込と(ハ)の切込みとを付合せ前裏型の方を五厘徙かせて下の方に平に貼り合せます。

第八十六圖



二、次ぎに前裏型の(イ)の切込みから(ロ)の切込みの間とが合ふやうに兩横を貼ります。これは後で第八十六圖のやうに櫛入の口となります。

三、次ぎに前裏型の(ロ)の切込みから裏型の方へ一寸七分の間兩横へ糊をつけ前裏型の(イ)の筋通り外表に二ツ折にして裏型の(イ)の切込みに重なるやうに兩横を貼りますと櫛入の裏側に隙が出來ます。この兩横を貼ります時に隙の布を少し鈎も加減に致します。

四、次ぎに鏡裏型には鏡型の穴が現いて居りますので、そこへ裏用布が現いて居りますから、その穴の周圍の型紙に糊がつかない様に現いて居る用布に薄糊を一面につけて乾かして置きます。この乾かした鏡裏の型紙より二分廻り廣く切り取ります。次ぎに今殘して置きました用布に第八十七圖のやうに切込みを入れて其周圍に糊をつけ型通りに貼ります。そして(イ)から(イ)、(ロ)から(ロ)へ筋を入れまして(イ)から(イ)の間を縁糊をつけて筋通りに貼ります。

五、次ぎに裏型の(ハ)の切込みから下の方の兩横に縁糊をつけて鏡裏の(イ)の切込みから(ロ)の切込みの間とが合ふやうに兩横を貼ります。

第八十七圖
科裏の貼り方



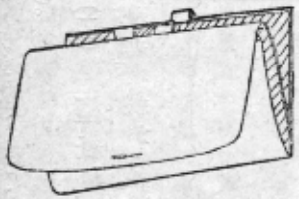
六、次ぎに以上て裏の形は全部貼り上りましたから表用布の兩横に糊をつけ裏と中表に重ねて表型の(イ)から(ロ)の切込みと裏型の鏡の方の(イ)から(ロ)の間に付合せて兩横を平に貼ります。そして表型の(ハ)から(ニ)の間と裏型の(イ)から(ロ)の間と貼り合せます。この時(ロ)と(ハ)との間て表型が一分弛みますからそれをその間て細せます。そして兩横を一分縫ひます。その時兩端を五分はなれたところから縫ひます。次ぎに縫ひ目の方に裏型の方から筋を入れてよく折くせをつけて外表に返します。

七、次ぎに兩横の折り目を直しく巾を正しく致し前に裁つて置きました心紙を差込みます。その仕方は心紙の中央より兩方へ五厘置きに三本づゝ筋を入れて兩横の縫ひ目につくやうに表型の方に入れます。そして心紙の兩端が表型の(イ)から(ロ)の間に落ちつくやうに致します。

八、次ぎに裏型の鏡のついた方の(ロ)から(ロ)の間に筋を入れて兩角を小さき丸

みにして裏の方に返して貼ります。他の一方も今と同じに致して置きます。次ぎに表型の(イ)から(ロ)の間に筋を入れて兩角を裏型の丸みに合せ裏の方に返して貼ります。片方も同様に致し裏型の(ロ)から(ロ)の間の裏の方に糊をつけて表型と貼り合せ他の一方も同様に致します。これで全く出來上りましたから丁寧に仕上げを致し形をよく直して置きます。

第八十八圖
ノート付紙入出來上り



第十三章　ノート付紙入

ノート付紙入は襠のつきました前口が一ッと裏側の中央に細い打紐がつきましてノートを挟むやうにし一方の襠には鉛筆差のついた實用的な紙入てございます。

（一）材料

表用布、巾五ッ割、長さ、七寸四分　一枚。
裏用布、巾五ッ割、長さ、一尺五寸　一枚。

一尺一錢位の打紐、五寸。生判紙、二枚。八番張子紙少し。六分の爪一ッ。經木、少し。

（二）型紙裁ち方

一、先づ被表型紙から裁ちます。用意してある生判紙を例により巾四寸三分、丈二寸六分に正しく裁ち、それを中表に二ッ折となし輪を手前に兩端の二枚重なつてる方を向ふ側にして裁ち板の上に載せ、向ふ側の裁ち目の方から右の端より、（イ）（ロ）の順に切り込みを入れます。（イ）端より二寸三分、（ロ）（イ）より一分五厘。以上の切込みが這入りましたならば殘りの一分五厘を鈎の手に裁ち、他の一方の端を一分の橢型に裁ちます。これを擴げますと第八十九圖の被せ表型紙となるのであります。

第八十九圖

被表型紙裁方

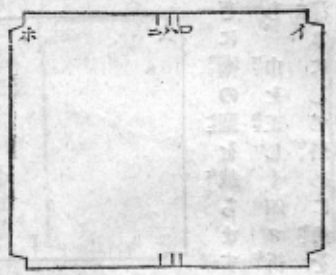


二、次ぎに表型紙を裁ちますが被せ表と同じ巾でありますから被せ表型紙を取つた殘りで丈五寸五厘と正しく裁ち前と同じに切込みを入れます。（イ）端より

（以下次號）

第九十圖

表型紙裁方



二分五厘、（ロ）、（イ）より二寸二分。（ハ）、（ロ）より一分五厘。（ニ）、（ハ）より一分。（ホ）、（ニ）より二寸三分。以上の切り込みを入れまして殘りの二分五厘と、始めの二分五厘を鈎の手に裁ち、これを擴げますと第九十圖と同樣な表型紙となるのであります。

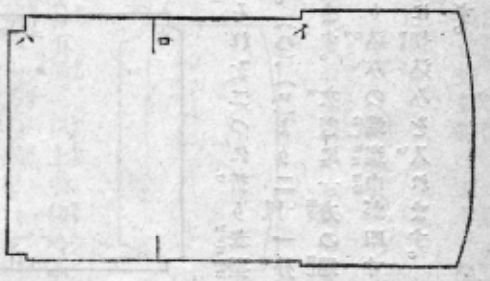
三、次ぎに被せ裏を裁ちますが前と同じに矢張り生判紙を巾四寸二分、丈六寸四分に正しく裁ちそれを二つに折り表型と同樣に（イ）、端より二寸一分五厘。（ロ）、（イ）より二寸一分。（ハ）、（ロ）より二寸一分。以上の切り込みを入れ殘りの一分五厘を鈎の手に裁ちます。次ぎに一方の端を表型に合せ橢型に裁ち落し、（イ）の切り込みから（ハ）の切り込みの端迄巾が四寸一分五厘になるやうに裁ち（ロ）の切込みの所は五分の深さに切込みを入れます。而して擴げますと第九十一圖の被裏となるのでございます。

四、次ぎに裏型を裁ちますには生半紙を巾四寸三分、丈四寸六分に正しく裁ちて、中表に二ツ折りにして前のと同様に、(イ)、端より一分五厘。(ロ)、(イ)より二寸。(ハ)、(ロ)より一分五厘。(ニ)、(ハ)より二寸一分五厘。と切り込みを入れ廻りの一分五厘と初めの一分五厘とを鉤の手に裁ちます。

そして(ハ)の切り込みから(ニ)の切り込みの間は巾を四寸二分五厘になるやうに裁ちます。之を擴げますと第九十二圖の裏型となるのであります。

第九十一圖

彼裏型紙の裁方



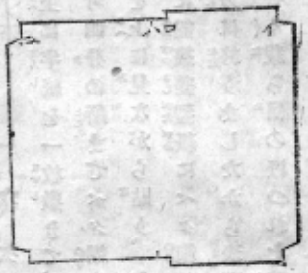
五、次ぎに襠の型を裁ちます。矢張生半紙を巾一寸八分、丈二寸一分五厘に正しく裁ち、巾を正しく四ツ折りにして、丈の端の兩角で縦の方にも横の方にも五厘の深さにして斜めに角を裁ち落します。

六、次ぎに經木。（鉋屑よりも厚く薄い板又もも猶一層薄い厚さ二分位の板に削ッたもの）を巾一分五厘、丈二寸一分五厘の長方形に四本裁ッて置きます。

七、次ぎに鉛筆差型を裁ちます。矢張り生半紙を巾三寸三分、丈一寸三分に裁ッて置きます。

第九十二圖

裏型の裁方



八、次ぎに心紙を裁ちます。前に用意してありました八番張子紙で、被せ心紙巾四寸、丈一寸八分、襠中の心紙巾四寸、丈二寸一分五厘、胴の心紙巾四寸、丈四寸六分、一枚宛裁ッて置きます。以上で裁ち方はすッかり終りましたのでございます。

(三)　貼　方

一、表型紙の周圍に糊をつけ、表用布の一方の端に片寄せて手に貼ります。

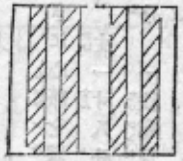
二、被表型の周圍に糊をつけ、襠型を除いた他の三方を廻りの表用布に手に

貼り、櫛型の方は表用布に袋取ッて貼ります。

三、被裏型の周圍に糊をつけ(ロ)の切込みから上下五分離れた所に留糊を致し、表用布の方の端に片寄せて平に貼ります。

四、裏型の周圍に糊をつけて殘りの裏用布に平に貼ります。

第九十三圖　襠型の貼り方



五、襠型を貼りますが前に裁ッて置きました四本の經木の裏にベタ糊をつけて第九十三圖の樣に切り込みから五厘離れた所に貼りつけます。

六、次に襠の用布を巾二寸、丈四寸四分に裁ち切り、裁ち板の上に半紙を一枚敷きて、その上に用布を上にして横に置き、丈の右の端から二寸四分の所までベタ糊をつけて、ベタ糊をつけた方の丈の端を二分殘して經木を上に見ながら貼り、その上を良くはけで叩いて自然に乾します。

七、次に鉛筆差型紙にベタ糊をつけて殘りの裏用布に貼ります。之で貼り方は終りましたから表型紙及び裏型紙、被表、被裏、鉛筆差は型通りに裁ッて各々裁ち目のほつれを防ぐために縁糊をかけて置きます、襠型は縦に二つに切り、二分殘して貼りました所に型通りに筋を入れ、裏の方に返して貼ります。次に兩横に糊をつけ他の一方の用布も裏の方に折り、兩横を貼ります、それを表を中にして二ッに折り良く打擦をつけて置き、一方の襠もそれを同樣に貼るのでございます。

八、次に鉛筆差型を巾を三ッ割に切りまして、それを三ッ折りに致し縁糊で貼ッて置きます。

(四)縫方

一、鉛筆差の兩横を一分の縫代で飾ミシンをかけます、そして被表の中央から二分五厘離れた所に標をつけて置き、鉛筆差の縦を二ッ折になし、被表型の表の方に(ロ)の切込みの端と揃へて貼り合せます。次に(ロ)の切込みから(ロ)の切込みの間に縁糊をつけて裏型の(イ)から(イ)の間とを貼り合せ、一分の縫代で縫ひ、裏の方から切込み通りに筋を入れて、裏型の方に返して糊をつけて貼つて置きます。次ぎに裏型の(ニ)から(ニ)の間筋を入れて裏の方に返し縁糊をつけて貼りまして、そして被表型の(ハ)から(ハ)の間筋を入れて裏の方に縁糊を付けて貼つて置き

ます。

二、次に被表型の(イ)の切込から、裏型の(ロ)の切り込の間、表の方に縁糊をつけて、襠型紙の(イ)の端から端の間を中表にして貼り合せます。次に表型の被せた縁糊をつけて、被裏と中表に巾の中央を合せて貼りますと、雨端て表用布の端が五厘宛殘ります。次に被表型の櫛型の端から裏型の(ロ)の切込みの表の雨横に縁糊をつけて被裏の(ロ)の切込みから(イ)切込みと、裏型の(ロ)切込みから表被の(イ)切込みの間とに襠を拔んで雨横を貼ります。

三、次に表型の櫛型角て五厘弛ませて、(イ)の切込の上に二分の間て一分弛ませて雨横を貼り、櫛型の兩角を、丈及び巾から五厘宛殘ッて居ますから、その角て縮ませます、そして被表の(イ)の切込みの上にも一分弛んて居ますから、その二分の間で縮ませます。

四、次に今貼り合せました所を一分の縫代てねひ、裏型の方から筋を入れ裏に折り、よく折癖をつけて置きます。

五、次に前に用意してありました打紐を、表型の(ロ)から(ハ)の間に横につけ、雨端を裏の方に返して貼って置きます。

六、次に表型の(イ)から(ハ)の表の雨横を縁糊をつけて、裏型の(ロ)から(ニ)の間と、雨横を平に貼ります、今貼りました所を、一分の縫代て縫ひ、裏の方から筋を入れ、裏に折り、よく折癖を付けて、被及び胴の方を外表に返します。

七、次に櫛型及び雨横の縫目を直して、巾を正しく致し、襠を二ッに折ッて良く打癖をつけて置きます。

八、次に襠の(ロ)の横に縁糊をつけて、被裏型の(ロ)から(ハ)の間と合ふ様に、雨横を貼ります、その時被裏の(ハ)の端が、襠の丈の端より三厘下る様にして、致します。

九、次に襠の(ロ)から(ロ)の横の端より、一分五厘這入ッた所に、筋を入れて横の端に糊を付けて、筋通りに、裏の方に雨横を貼ります。

十、次に被の心紙を、被せに重ねて、櫛型に裁ち、雨横と被せの心紙とに、縁糊を付けて、縫代に糊が付くやうにして表側の方へ差し入れます。

十一、次に襠中の心紙の雨横に糊を付け、襠中に入れ、襠丈の間て落ちつか

せます。

十二、次に胴の心紙の一方の端から二寸二分と筋を入れ、他の一方から二寸二分五厘に筋を入れ、両横に糊をつけ表型の(イ)から(ホ)の間にも筋を入れるのであります、その時心紙の二寸二分五厘の方が、表型の(イ)から(ロ)の間に入れ表型紙の両横を心紙通りに折ッて貼りつけます、こゝは袋の前表となるのでございます。

十三、次に表型の(ニ)の筋から六分這入ッた所に巾の中央に八分の小馳かけを掛へます。

十四、次に襠の(ロ)から(ロ)の間の両横に糊をつけて表型の(ニ)から(ホ)の間とつき合せ両横を貼ります、次に表型の(ホ)の端で襠の上の縫ひを包んで襠と同じ丈で(ホ)の筋通りに折ッて貼りますと、裏よりは三厘視くことになります。

十五、次ぎに表型の(イ)の横の中央に鉛筆差を縦に二ッ折にして(イ)筋よりも四分五厘出して表の方につけます。そして表型の(イ)の端の裏に糊をつけ両横の縫代と心紙とを包んで貼ります。次に裏型の(ニ)横の端の裏側に糊をつけ表型の(イ)の端と貼り合せます。

十六、次にこれで袋は出来上りましたから良く形を直して仕上を致し、襠中に心袋を作つて入れます。

十七、次に被裏の裏へ何時もの方法て、小馳を打ッて置きます。

第十四章　利久形煙草入

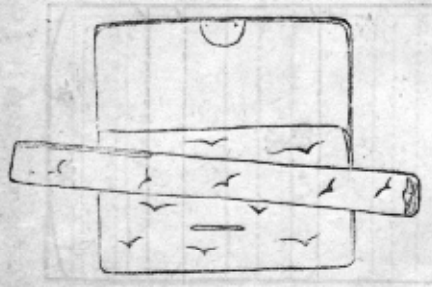
利久形煙草入は、刻み煙草を入れる極めて簡単な被せつきの袋でございまして煙草の出し入れを容易にするために口の右の端に馬乗をつけてございます。而して筒は煙管の長さに應じて作られた細長い袋でございます。

(一)　材　料

表用布　巾七寸五分、長さ七寸五分。或は、巾四寸五分、長さ七寸五分と、別に巾二寸、

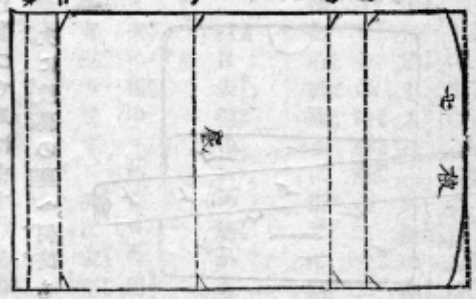
第九十四圖

利久形煙草入出来上り



第九十五圖

表型紙裁方



長さ七寸五分。

裏用布　表用布と同じ。

他に生判紙一枚と六番張子少し、六分の小馳一個。

(二)　型紙の裁ち方

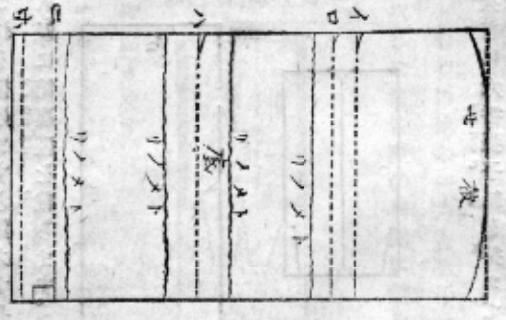
一、先づ表型紙から裁ちます。用意してある生判紙を例により巾四寸四分丈七寸二分に正しく裁ち、それを中表に二ツ折となし輪を手前に兩端の二枚重なってる方を向ふ側にして裁ち板の上に載せ、向ふ側の裁ち目の方から右の端より、(イ)、(ロ)の順に切込みを入れます。(イ)端より一寸六分五厘。(ロ)、(イ)より五分五厘。(ハ)、(ロ)より二寸二分。(ニ)、(ハ)より二寸二分。(ホ)、(ニ)より四分五厘。以上の切込が這入りましたならば殘りの一分五厘を鉤の手に裁ち、他の一方の端を一分の楕型に裁ち捨て兩端の角を二分の丸に裁って置きます。これを擴げますと第九十五圖の表型紙となるのでございます。

二、次きに裏型を裁ちますが矢張り表と同じに生判紙を巾四寸三分、丈六寸九分五厘に裁ち中表に二ツ折となし表型と同樣に(イ)、端より一寸六分。(ロ)、(イ)より四分五厘。(ハ)、(ロ)より二寸一分五厘。(ニ)、(ハ)より二寸一分五厘。(ホ)、(ニ)より四分五厘。以上の切込みが這入りましたならば殘りの一分五厘を鉤の手に裁ち他の一方を表袋に合せて楕型に裁ち、丸みも同樣に裁ちますと第九十六圖の裏型となるのでございます。

三、次きに綺表型紙を裁ちます。生判紙を巾二寸丈七寸二分に正しく裁ち前と同じに切込みを入れます。(イ)、端より二寸

第九十六圖

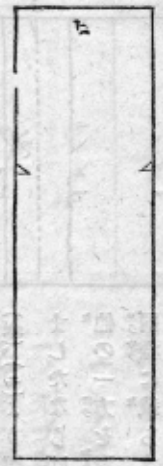
裏型紙裁方



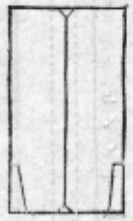
五分。と切込みが這入りましたならば手前の輪の兩角に小さき切り込みを入れます。これを擴げますと第九十七圖の樣な筒表型紙となるのでございます。

（四）、次ぎに筒裏型を裁ちます。巾一寸八分、丈三寸三分に正しく裁ち表を中に折ッて輪の方の兩端に小さき切込みを入れ、右の端から例の通りに（イ）、二寸五分と切り込みを入れますと、八分殘りますからこれを鉤の手に裁ちなしてそれを擴げますと、第九十八圖の筒裏型紙が出來るのでございます。そして二寸五分の丈の端を表型と同じく（上）といたして置きます。

第九十七圖
筒表型裁方



第九十八圖
筒裏型裁方



五、次ぎに六番硯子紙を持ッて、巾一寸五分、丈一寸の心紙を一枚裁ッて置きます。

（三）貼り方

一、表型紙の周圍に糊をつけ表用布の巾の一方に片寄せて用布の裏の方に裁ち兩横と縦型の他の一方とを平に貼り殘の縦型は表の方に袋取ッて置きます。

二、次ぎに筒表型の周圍に糊をつけ、表用布の細長く殘ッて居る所に載せ平に貼りまする。

第九十九圖
筒型裏貼り込み



三、次ぎに裏型の周圍に糊をつけ、（二）の切込みから谷々五分離れた所に留糊を施し、裏用布の巾の一方の端に片寄せて平に貼ります。

そして殘りの用布を、巾二寸、丈七寸二分だけ裁ッて置きます。

四、次ぎに筒裏型の周圍に糊をつけ、前に裁ちました巾二寸、丈七寸二分の用布に、第九十九圖の樣に丈の一方の端と型紙の上の端とを重ねて巾の中央に貼ります、すると兩横には等しく一分づゝ用布が殘り、八分の鉤の手の端の下

には三寸九分宛ッて居ます。

五、次ぎにこれですッかり貼り終りましたから煙草入と、筒袋と、煙草入袋との三枚は各々型紙通りに裁ちます。次ぎに筒袋は型紙の両横の一分を一寸五分の切り込みの所で（第九十九圖き所）裁ち捨てます。そして各々用布の裁ち目のほつれを防ぐために縁糊を施して置きます。

（四）縫方

一、煙草入表型の(ホ)の切込みに筋を入れて置き、そして煙草入の袋の方から折へることにいたします。

二、先づ裏型の(ホ)の切り込みに筋を入れます。

三、次ぎに馬乗りを折へるために、表型紙の(ホ)の切込みから(ニ)の切込みまでの間圓の右横に縁糊をつけ、裏型紙の圓の左横の(ホ)の切込みから(ニ)の切込みまでの間と中表に重ねて貼り、一分の縫代で縫ひ置き、そして(ニ)の切込みの所で其の横から一分の深さで裁ち込みを入れます。次ぎに縫ひ目の直ぐ内側に裏型の方から筋を入れ、打ッてよく折り癖をつけ、外表に返すのでございます。

四、次ぎに表型の(ホ)の筋の端に縁糊をつけ裏に折ッて馬乗りの縫ひ込みを包んで貼りますと表と裏との口は別々に貼ッたことになります。

五、次ぎに馬乗りの横の一分の裁ち込みから(ハ)の切込みまでと、もう一方の横の(ホ)の切込みから(ハ)の切込みまでとの表型に縁糊をつけ、裏型と外表に重ねて本に貼りますと、(ハ)の切込みの所で表用布の丈が五厘長くなッて居ります。

六、次ぎに表用布の(ハ)の切込みを中表に折り返しますと(ニ)の切込と(ロ)の切込みとが重りますから、その両横を縁糊で貼ります。

七、次ぎに裏用布も表用布と同様にして折り返してその両横を縁糊で貼ります。かうして裏表の用布を各々貼り合せますと、表と裏との(ロ)の切込みが、表と裏との(ニ)の切込を挟んで重り合ひ、その底の所では表の(ハ)の切込みが裏の(ハ)の切込みより五厘長くなッて四枚重ッて居ります。次ぎに表型と裏型との(ハ)の切込を重ねますと、(ロ)の切込みと(ハ)の切込みとの間で表用布が一分弛みますから、その弛みを(ロ)の切込み二分の間で縮せます。この縮せの所は出来上りの袋の山に當りまして、被せの折れる所になるのであります。

八、次ぎに被せの端の摘型の所を、表用布と裏用布との巾の中央を合せて中表に貼り合せます、雨横で表用布が五厘づつ殺ります。

九、次ぎに表型紙の(イ)の切込みから被せの端までの雨横に糊をつけ、裏と貼り合せますと、被せの端の所で表用布の丈が五厘弛みますから、巾の五厘の弛みと一緒に縮せます。

一〇、次ぎにかうして表と裏との貼り合せが終りましたから、雨横の被せの摘型との三方を表型の方を見ながら一分の縫代で縫ひます。而して縫ひ目の直ぐ内側に裏型の方から筋を入れ、その筋から雨横の縫代を裏型の方に折ッて、次ぎに被せの摘型の方もまた折ッて癖をつけ、丸みの方には丸み型を當て、縫ひ代だけを少し濕して根ひよくし日打鉗でよく丸ミを作り鏝をかけて格好を定め底の間から外表に返しますと被せの方のみ外表になり、(ホ)の切込から(ロ×ハ)の切込の間は未だ中表のまゝで居りますから、そのまゝにして仕上筺で被せの中に入れ、摘型の丸や縫ひ目の凸凹を直して型を整へて置きます、

一一、次ぎに表型の小馳かけの所に前に裁ッてある心紙に、ベタ糊をつけて貼ッて鏝をかけます。而して(ロ)の切込みから(ロ×ハ)の切込みまでを外表に(ホ)筋の口から返しますと、煙草入の袋の形が出來上ッたことになります。そこで仕上げ筺を口から入れて底の角や雨横の形を整へます。

一二、次ぎに口の裏表の間から手を入れて、小馳かけの標の所即ち底から五分五厘上ッた所の巾の中央に八分の巾の小馳かけを作るのでございます。作り方は第五號の被せ付雨縢り紙入と同じ。

一三、次ぎに表と裏との(ホ)の筋を表を少し欹かせて貼ッて鏝をかけます。被せの折り癖をつけ、且つ馬乗りの所に一分の巾で間抜き止めを致します。而して丁寧に仕上を致しましてから、被せ裏の端の巾の中央に小馳を打ちます。小馳の打ち方は第五號の被せ付雨縢り紙入と同じ。

かうして袋は全く出來上りましたから、心袋を入れて置くのであります。

一四、次ぎに煙管差の筒を作ります。先づ煙管を出し入れする口から作ることに致し、表型の口明とした所の(上)から二寸五分の切込みの所までの雨横に縁綢をつけ中表に裏型と重ねて貼りますと表用布が巾で二分弛みます。これは出

表上りの表の弛みになるのでございます。

一五、次ぎにその雨横を一分の縫ひ代で縫ひ、その内側に裏型の方から筋を入れ、その筋から裏型の方に折ッて折り癖をつけて置きます。而して口明の切込みの所に表と裏と共に、一分五厘の深さで裁ち込みを入れます。且つ裏用布の型紙を貼らない丈の端の巾の中央に、五分の裁ち込みを入れて置きます。

一六、次ぎに表と裏との巾の中央を第百圖の様に正しく中表に折り、その折りが雨横になるやうにして、表用布を右に、裏用布を左にしますと、口明の縫ひ目が巾の中央で正しく重りますから、表の(上)の端を一分餘りの縫ひ代で真直ぐに細かに縫ひ、その針で續けて裏の(上)の端は左横て少し多く縫ひ込む様に縫ひまして雨横端を三角に切り捨てます。

第百圖

口て縫三た明縫ひ角る。を合に圖表更せ切裏に雨り合上端捨せをて

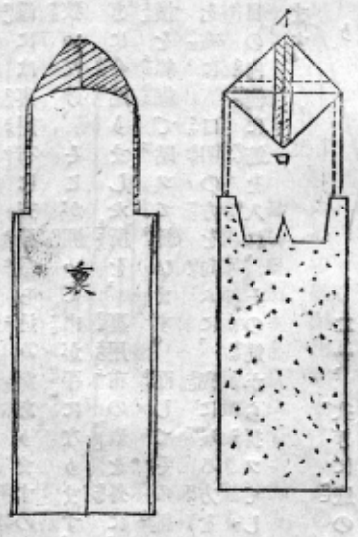


一七、次ぎに口明の縫ひ目を元の通りに雨横に致しますと、(上)が縫ひ合してありますので、自然と第百〇一圖の様な格好になりますから、(上)の縫ひ目を両方に割ッてしッかと鏝をかけます。

一八、次ぎに裏の角(ロ)を表の角の(イ)に重ね、角から一分位の深さにして縫ひ込みに三角が出来る様に真直ぐに縫ッて、裏型の方から縫ひ目の直く内側に筋を入れて置きます。そして外表に返して口明の所で表を五厘程かせて鏝をかけ次ぎに今縫ッた所を一分だけ真直ぐにして雨方に角を立てゝ叩いて置きます。

第百〇一圖

(1)上の縫目を割る　(2)上のる角の縫ひ代をよる處叩き割り角



一九、次ぎに口明の下の一分五厘の裁ち込みの所から、表型の兩横に糊をつけ、裏用布と横を揃へて外表に貼りますと、表用布の巾が五厘程弛みます。併し丈の下の端には裏用布に五分裁ち込みがありますので、兩横を貼りますと裏用布の巾の狹いだけ、そこが開いて巾が手になります。

二〇、次ぎに今貼りました所を、裏用布の表を外に、表用布を中にして二ツに折り、兩横を縁綳て貼ッて縫ひます。而してその縫ひ目を左に、巾の中央の折れ目の輪を右に、口明の方を向ふに、底になる方を手前にして裁ち板の上に置き、縫ひ目の內側に筋を入れ、その筋から折ッていッかりと折り癖をつけるのでございます。

第百〇二圖

底の端を巾着嚢に折り疊み上げたる圖



二一、次ぎに底の端て縫ひ目から嘴までの間を三等分して目標をつけ、その目標が外側になる樣にして第百〇二圖の樣に巾着嚢に折り疊みます。全體の巾を六等分したものが一つの嚢巾になる譯でございます。そして巾着嚢の中に向ッて折れた折り目が中

（以下次號）

央て、第百〇三圖の樣に一分の巾て一針縫ひ、そこを二度ばかり返ぢて絲の端をしつかり結んて止めて置きます。

次に筒の中に返し棒を入れ、底にしつかりと當て、巾着嚢の折り目を縫ひ目にならつて第百四圖の樣に一方に向けて折りますと六つの嚢が出來ます。其の風車形になつた六つの嚢をしつかりと折つて、折り嚢をつけてから、返し棒を抜き取り、更に返し竹を筒の中に入れ、底を上に向けて、左の手て立てゝ持ち、右の手て底の中央を箸の如き細い竹て（返し棒の附屬品）上から押し、左の手て用布を上に押し上げる樣に致しますと底が次第に內側に入り込んて外表に返ります。

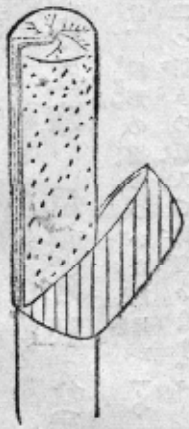
第百三圖

底端を縫ひ止めた處



第百四圖

底に返し棒を入れて返し片を折れる



次に筒の中に返し棒を入れ、底の形を風車形に正しく日打錐の先て直して六

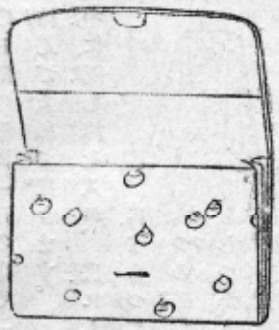
角になし、縫目や形を直して裸を抜き、口明の形を正して門止めを致します。かうして筒は出來上りましたから、煙草入の袋に筒を挟んで帯紙をして置くのて御座います。

第十五章　扇襟附紙入（婦人持）

扇襟附紙入は、扇形の襟のついた前口が一つと、外に深口の一つ附いた袋せをつけました二つ折りの紙入て御座います。

第百五圖

出來上り



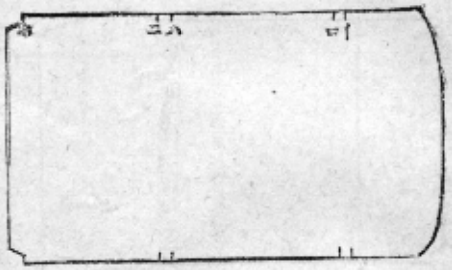
（一）材料

表用布、巾四寸三分、長さ七寸七分。
裏用布、巾四寸三分、長さ一尺九寸八分。
生判紙　二枚。　八番張子紙、少し。
六分の爪、一つ。

（二）裁方

第百六圖

表型紙



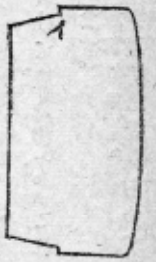
一、表型紙から裁ちます。用意してある生判紙を例に依り巾四寸三分、丈七寸七分に正しく裁ち、それを中袋に二つ折りとなし、輪を手前に兩端の二枚重なつてる方を向ふにして裁板の上に載せ、向ふ側の裁目の方にて右の端から、（イ×ロ）の順に切り込みを入れます。（イ）、端より二寸三分。（ロ）、（イ）より三分。（ハ）、（ロ）より二寸三分。（ニ）、（ハ）より二分。（ホ）、（ニ）より二寸三分。以上の切込みが這入りましたならば殘の三分を釣の手に裁ち落します。他の一方の端は一分の楕形に落し兩横の角を二分の丸味をつけて置きます。これを擴げますと、第百六圖と同様の表型紙となるのて御座います。

二、次に裏裏型紙を裁ちます。やはり表と同じに生判紙を巾四寸二分、丈二

寸二分に正しく裁ち、中表に二つ折りにして表型と同様に、(イ)、端より一寸四分と切込みを入れ、殘りの八分を釣の手に裁ち他の一方の端は、表型紙の殘せの端と合せて重ね、一分の櫛形に裁ち、更に兩横に二分の丸味を附けます。之を擴げますと第百七圖の殘せ裏形紙となります。

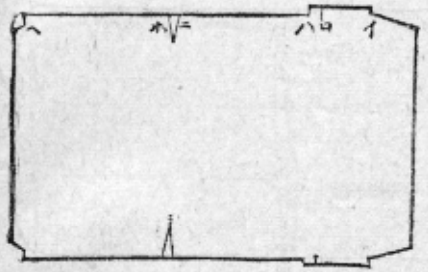
第百七圖

殘裏型



第百八圖

前裏型



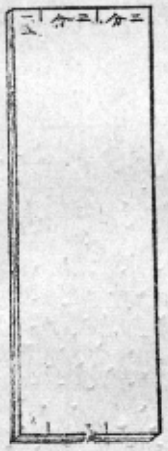
三、次に深口裏型を裁ちますが、前と同じく、生剝紙を巾四寸二分、丈六寸七分に正しく裁ち、前と同じく切り込みを入れます。

(イ)、端より八分。(ロ)、(イ)より八分五厘。(ハ)(ロ)より二分。(ニ)、(ハ)より二寸三分、(ホ)、(ニ)より一分。(ヘ)、(ホ)より二寸三分。以上の切込が這入りましたならば始めの八分と殘りの一分

五厘とを釣の手に裁ち落し、そして(ニ)より(ホ)の間を第百八圖の樣に切込みを入れて置きます。これを擴げますと第百八圖の型紙となるので御座います。

第百九圖

(1)襠型實物大　(2)襠型





四、次に襠型の型紙は、巾三寸、丈二寸三分に生剝紙を裁ち中表にして巾を正しく四つに折り、(始めに二つに折つて、四つ折りに致します。)紙の輪になつて居る方から三分這入つた處に切込を入れ、其切込みから殘りの五分五厘の方へ、三分の處に切込みを入ますと一分五厘殘ります。其一分五厘は襠の縫代になるので御座います。これを擴げますと、第百九圖(2)の樣になります。

五、次に經木(鉋屑よりも厚く、薄い板よりも猶一層薄い、厚さ二厘位の板に削つたもの)を巾二分、丈二寸三分の長方形に八本裁つて置きます。

六、次に六番張子紙で、巾四寸、丈一寸八分の殘せの心紙を裁つて置きます。

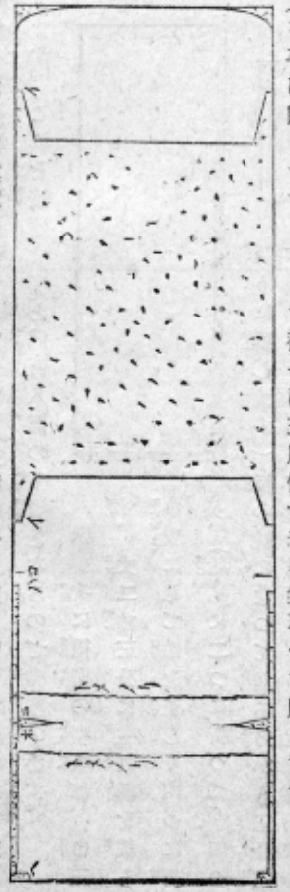
七、次に八番硬子紙で、巾四寸、丈四寸八分の胴の心紙を裁つて置きます。以上で裁ち方はすつかり終りましたから次にこれを用布に貼るので御座います。

(三)貼り方

一、先づ丈一尺九寸八分の裏用布を、丈四寸七分と、一尺五寸一分の二つに裁つて置きます。

二、次きに表型の周圍に糊を附け、表用布の上に載せて兩横と横型を除いた他の一方を平に貼ります。そして被せは五厘位て表に袋取つて貼ります。

第百十圖
裏の貼り方



三、次きに被せ裏型紙の周圍に糊を附け、丈一尺五寸一分の裏用布の一端に

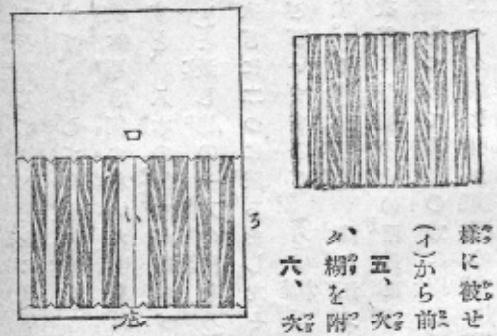
被せの横型を揃へて重ね、平に貼ります。すると(イ)の切込みから下に一尺三寸七分用布が殘つて居ります。

四、次に前裏型の周圍に糊を附け、そして波線の處に留糊を施し、百十圖の様に被せ裏を貼りました殘りの用布に被せ、裏型紙の(イ)から前裏型の(イ)の間用布が六寸八分殘してあります。

五、次に前に裁つて置きました八本の經木の裏にべタ〳〵糊を附けて第百十一圖の様に切込みの間に貼ります。

六、次に襠の用布を丈四寸七分、巾三寸二分に裁ち切り、裁ち板の上に刺紙を一枚敷いて、其上に布裏を上にして横に置き、丈の右の端から二寸五分の所まで引き糊を施し、更に下に敷いて御座います刺紙の端を持つてこれを縦に置き換へ、第百十一圖の(2)の底の所の様に、引き糊をした方の丈の端を、襠

第百十一圖
(1)襠型に經木貼る方　(2)裏用布に襠型を貼る方



型より二分殘して經木を上に見ながら、用布の巾を中央に貼り、其上をよく刷毛で叩いて、そして自然に乾く迄放つて置きます。

七、次に引き糊の乾いた頃を見計ひまして、巾の方の中央を縦に二つに裁ち切りますと、八本の經木が四本づゝに分るゝ事になります。そうして其裁ち目の横を(い)と致し他の一方の横を(ろ)と致して置きます。

八、次きに二つに裁ちましたその襠の、襠型紙は巾が一寸五分、用布は一寸六分でございますので、(ろ)の横て型紙の外に用布が一分食み出して居る譯でございます。これを型紙の縁に添ふて二寸五分の間だけ裁ち落します。

九、次きに型紙の丈の兩端に筋を入れ、底に用布二分殘してございます裏の方に縁糊をつけて裏型の方に返して貼ります。他の一方の二寸二分の方にも用布の裏にベタ糊を引き裏型の方に折りその先をつき合せ、重なる所を裁ち捨てます。そして(イ)の横及び(ロ)の横を平に貼り、裏用布の上から刷毛で叩いて置きます。その兩横の殘り布を型通りに裁ち、そして一方の襠もこれと同じ仕方て貼るのてございます。

十、次きにこれて貼り方は終りましたから、表用布は型通りに裁ち、被せ裏及び前裏は丈の兩端と巾の兩横は巾通りに裁ちます。そして各々に縁糊をして置きます。

(四)縫ひ方

一、先づ裏型の(イ)、(ハ)の切り込みに筋を入れます。

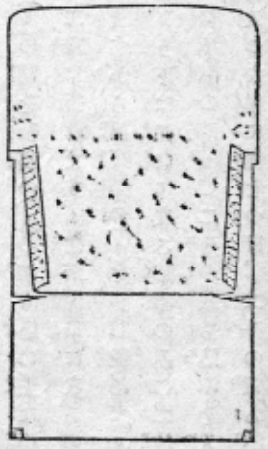
二、次きに前裏型の(ハ)の筋の端に糊をつけ裏の方に返して貼ります。

三、次きに前裏型の(イ)の筋を外表に折をつけ、(此折は後に深口の口になります。)そして(イ)の筋を被裏の(イ)の切り込の上に中表にして折り重ねますと六寸八分の用布が二重に折れます。之が深口になるのてございます。それて前裏とて三重になりますから前裏型の(イ)を少し弛めて(ロ)の切込み迄の兩横を三枚宛ねて貼り、それより下は深口になる用布のみの二枚の兩横を貼り、且つその二枚の用布の(ロ)の切込みの兩横て二分の裁ち込みを入れ、そして深口の底の兩横から各々(三分這入つた處に標をつけ、二分の裁ち込みからその標に向つて斜に折つて兩横を貼り、鍍をかけ、その折つた山を第百十二圖の樣に一分五厘の隔たり

で巻き縫ひを致しますと、深口が出來上ります。

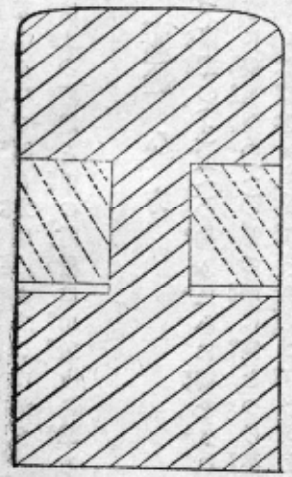
第百十二圖

深口を裏より見る



第百十三圖

表型に襠を貼り合す



そして深口の底に糊を附けて前裏型に貼つて置きます。

四、次に前に貼つて御座います襠を、表型の(ハ)と(ニ)との切込みの間へ襠の(い)の横を中表に當て、襠の口先が(ハ)の中込みと、底の(ニ)の切込みとが重り、且つ襠布の貼り合せ目を前に裏の布の表に向かせて五厘の糊代で第百十二圖の樣に貼り附けます。

五、次に表型の被せに縁糊を附けて被せ裏と中表に貼り合せて貼りますと、雨横の端

で表用布が五厘づゝ殘ります。

六、次に表型の(ハ)、(ニ)と前口裏型の(ハ)、(ニ)の切り込みを中表に貼り合せますと、前に裏に貼り合せてある襠が、其間に挾まりますから、それを挾んだまゝ雨横を貼つて鍛をかけます。

七、次に表被せ型の橢型の縁から(ロ)の切り込みの間表の方に線糊をつけて被せ裏の橢型の縁から(ハ)の切り込みとを合せ雨横を貼りますと、表型の(イ)、の切り込みと前裏型の(ロ)と合せます。すると表型(イ)から(ロ)の間で表が一分強みますから、それをその間で縮ませます。そして橢型の兩角で丈及び巾から五厘づゝ殘つて居りますからその角でも縫ひ縮めるのであります。

八、次ぎに今貼り合せましたところを一分の縫ひ代で縫ひ、裏の方から筋を入れ裏に折り、よく折癖をつけて置きます。

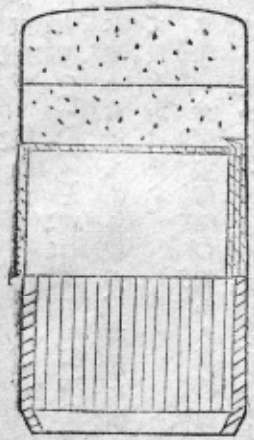
九、次ぎに被せの丸みの所には丸み型を當て、縫代だけを少し濕して扱ひよくし、目打錐でよく丸みを作り鍛をかけて格好を定め、外表に返して仕上げ簞で被せや襠などの形を正して置きます。

十、次に左右の襠は正しく巾の中央の筋を外表にして二つに折り、次ぎに切込みを中表に折り、(ろ)の縫ひ代に一分五厘這入つたところに筋を入れてよく折りをつけて置きます。

十一、次ぎに前裏型の(ホ)から(へ)の間の表の方の雨横の端に絲綢をつけ、扇形に折つてある襠の(ろ)の横を(い)の時と同じに(ホ)の筋が襠の底に、(へ)の筋が襠の口に、そして襠の裏を、前裏型につけて、口のところで前裏型の方が襠より三厘下る様にして貼ります。そして襠のたゝんである厚味は前裏型の底の五分斜に裁ち込んである所で落ちつかせます。

第百十四圖

前表に心紙を貼り込む



十二、次に幅四寸、丈一寸八分の被せの心紙を被せに重ねて櫛型に裁ち、雨横の角を二分の丸味をつけて置きます。

十三、次ぎに被せの心紙に櫛型を除いた他の一方の端に

一分の巾に糊を附け、被の中に表側の方につく様にして表側の方へ差し込みます。

十四、次に巾四寸、丈四寸八分の心紙の雨横に糊を附け、表型の(ロ)の切込みから(ホ)の切込みの間に入れます。そして被せ及び胴の心紙をよく縫ひに落ちつかせ型をよく直して置きます。

十五、次ぎに表型紙の雨横を第百十四圖の様に心紙通りに折つて貼り付けます。こゝは前表になるのでございます。

十六、次ぎに表型の(ホ)の切り込みから一寸六分這入つた巾の中央に、巾八分の小駈かけを捨へます。小駈かけの作り方は第十三章のノート付紙入と同じでございます

十七、次ぎにその表を前裏型の上に折り重ねますと、下の方では表の(ニ)の切り込みと襠の底と、前裏型の(ホ)の切り込みとが重りまして、上の方では表の(ホ)の切り込みと襠の上の口とが重なり、裏の(へ)の切り込みはそれより三厘下つて居ります。この表の雨横に裏から糊をつけて襠の上に貼りつけます。

十八、次きに表の端て袷の上の縫ひ代を包んて裾と同じ丈、(ホ)の切り込みに筋を入れ、其筋から折つて貼り合せますと、裏よりは三厘位く事になるので御座います。

以上て袋は出來上りましたから、いつもの樣に被せの樞形の處や、深口の處やらに鍛をかけて、角櫓のあたりもかつきりとよく疊みて正しきくせを附け全體の形をよく直して調へ、仕上を致すのであります。

さうして被せ裏へはいつもの樣に被せの端から、七厘五毛引かせて小鞜を截せ日打錐の先て小鞜の穴から通して表に穴を明け、被せの表側より穴に海鼠の足を通し、爪の兩端の穴にぬき出し、爪の兩端の布を力を入れて下におさへながら喰ひ切りて二本の足を爪の表と平に切り、足の切り口を豆金槌でたゝきつぶして平に致すのであります。

これて全く扇形附紙入は出來上りましたから、巾三寸三分、丈二寸三分厚さ三分位ひの心袋を入れて裾紙を致して置くのて御座います。

（以下次號）

第十六章　三ツ巻財布

三ツ巻財布は、前に段口があり、深口が付きまして金貨や銀貨や銅貨など入れて置きますのに便利な、三ツに巻いた簡單な財布てございます。

（一）材料

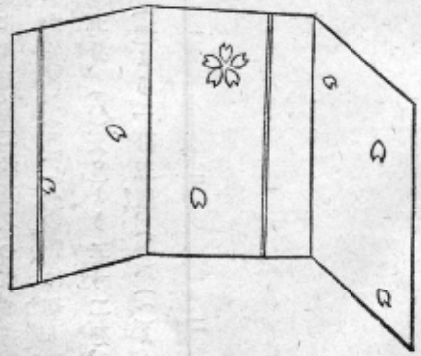
表用布、巾四寸五分、丈一尺四寸三分。
裏用布、巾四寸四分、丈二尺。
生判紙、二枚。

（二）型紙裁方

一、先づ表型紙から裁つことに致します。用意してある生判紙を例により巾四寸四分丈一尺〇五厘、に正しく裁ち、それを中表に二ツ折になし

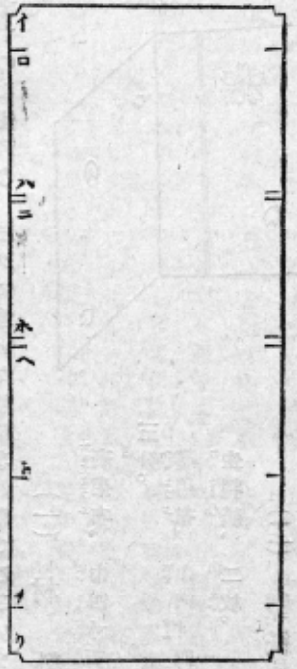
第百十五圖

出來上り



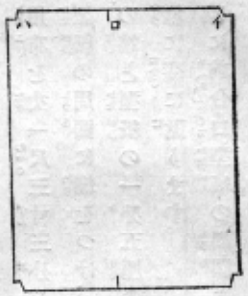
し輪を手前に兩端の二枚重なつてる方を向ふ側にして裁ち板の上に載せ、向ふ側の裁ち目から(イ)、(ロ)、(ハ)の順に切り込みを入れます。(イ)端より一分五厘、(ロ)、(イ)より五分、(ハ)、(ロ)より二寸二分、(ニ)、(ハ)より一分五厘、(ホ)、(ニ)より二寸二分、(ヘ)、(ホ)より一分五厘、(ト)、(ヘ)より二寸一分(チ)、(ト)より二寸一分(リ)、(チ)より七分。以上の切込みが這入りましたならば始めの一分五厘と殘りの一分五厘を鉤の手に裁ち落します。これを擴げますと第百十六圖の様な表型紙となるのでございます。

第百十六圖
表型紙裁方

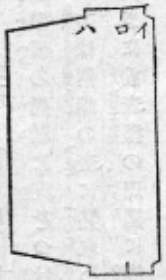


二、次ぎに前表型紙を裁ちます。矢張り生判紙を巾四寸四分丈三寸七分五厘に正しく裁ちまして中表に二ツ折となし前と同じに(イ)端より一分五厘、(ロ)、(イ)より一寸八分、(ハ)、(ロ)より一寸五分五厘。以上の切り込みが這入りましたならば始めの一分五厘と殘りの一分五厘とを鉤の手に裁ち落して置きます。これを擴げますと第百十七圖の前表型紙となります。

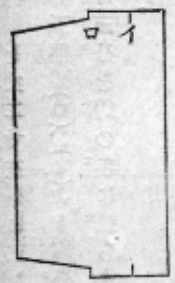
第百十七圖
前表型の裁方



第百十八圖
深口裏型の裁方



第百十九圖
前合口裏型の裁方



三、次ぎに深口裏型を裁ちます。矢張り前と同じに生判紙を巾四寸三分丈二寸三分に正しく裁ち、中表に二ツ折となし前と同じに切り込みを入れます。(イ)端より一分五厘。(ロ)(イ)より四分。(ハ)、(ロ)より四分五厘。以上の切り込みが這入りましたならば始めの一分五厘と殘りの一寸三分を鉤の手に裁ち落します。

四、次ぎに前合口裏型を裁ちますには巾は深口裏型と同じでございますから、取つた殘

りの生判紙を丈二寸三分に正しく裁ち前と同じに切り込みを入れます。(イ)、端より五分五厘。(ロ)、(イ)より四分五厘。以上の切り込みが這入りましたならば殘りの一寸三分を鈎の手に裁ちます。これを擴げますと前合口裏型になるのでございます。

(三) 貼り方

一、表型紙の周圍に糊をつけ表用布の一方の端に片寄せて兩横を平に貼ります。丈の方は兩端の表に袋取つて貼ります。

二、次ぎに前表型の周圍に糊をつけ表型紙の貼りました殘りの用布に平に貼ります。

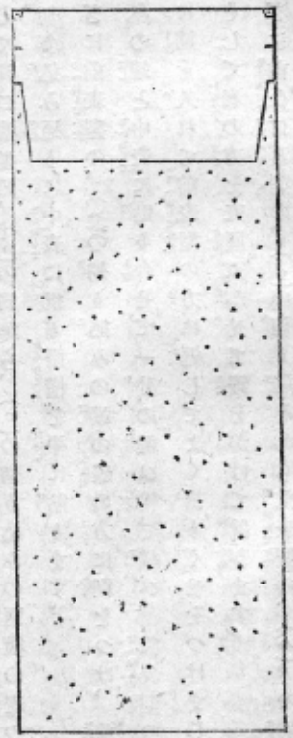
三、裏用布を丈一尺三寸三分と六寸六分の二つに裁ち切つて置きます。次ぎに深口裏型紙の周圍に糊をつけ、今裁ち切りました丈一尺三寸三分の裏用布の丈の一方の端と型紙の一分五厘の鈎の手の端とを揃へて用布の上に載せ、第百二十圖の樣に平に貼ります。

四、次ぎに前合口型紙の周圍に糊をつけ丈六寸六分の裏用布に一方の端と型

紙の(イ)の切り込みの端を、第百二十一圖の樣に平らに貼ります。

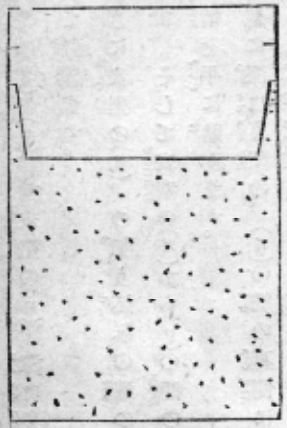
第百二十圖

裏用布に深口裏型を貼る



第百二十一圖

裏用布に前合裏型を貼る



以上で型紙全部貼り終りましたから表型紙及び前表型紙は型紙通りに裁ち落し、深口裏型及び前合口裏型は丈をその儘にして巾を型紙の兩横に五厘づゝ殘して裁ち、裁目の方はほつれを防ぐために各々縁糊を附けて置きます。

(四) 縫方

一、表型の(イ)、(ロ)、前表型の(ロ)、深口裏型の(イ)、(ロ)、前合口裏型の(イ)に各々筋を入れて置きます。

二、次ぎに表型の(イ)、の切り込みの端の裏側に糊をつけ、(イ)の筋通りに返して貼ります。そして表型の(イ)から(ロ)の間の兩横に糊をつけ、(ロ)の筋通りに中表に折り兩横を平に貼ります。

三、次ぎに深口裏型の、(イ)の筋の裏側に糊をつけ、(イ)の筋通りに返して貼ります。そして深口裏型の、(イ)の筋から、(ロ)の切り込みの兩横の表の方に糊をつけ、(ロ)の切り込み通りに中表に折り兩横を平に貼ります。

四、次ぎに前表型の、(ハ)の切り込みの端の表の方に糊をつけ、前合口型の(イ)の切り込みの端と中表に貼り合せて一分の縫ひ代て縫ひ、前表型の方から切り込み通りに筋を入れて前表型の方に返してよく折りくせをつけまして外表に返します。そして表の方を五厘ふかせて鍛をかけて置きます。

五、次ぎに前合口裏型の、(イ)の切り込みから前表型の、(ハ)、の切り込みの間の裏の方に、兩横へ糊をつけ、前表型と外表に貼ります。そして前合口裏型の

(イ)の切り込みから、(ロ)の切り込みの兩横の表の方へ糊をつけ、(ロ)の切り込み通りに中表に折りまして、(イ)の切り込みが(ハ)の切り込みと重なるやうに、兩横を前表の方が少しゆるむやうに貼ります。こゝはあとで前段の金留となるのでございます。

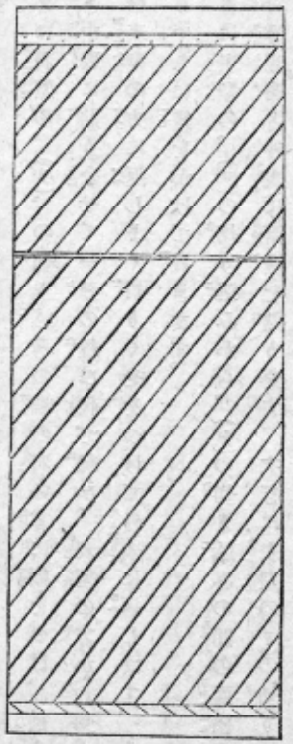
六、次ぎに表型の、(リ)、の切り込みの端の表の方に糊をつけ、前合口裏型の一方の端と中表に貼り合せて一分の縫ひ代て縫ひ、表型の方から切り込み通りに筋を入れ表型の方に返しよく折りくせをつけて外表に返します、そして表の方五厘ふくやうに鍛をかけて置きます。

七、次ぎに表型の、(リ)の切り込みから、(ト)の切り込みの間の兩横の裏の方に糊をつけ、裏用布と外表に兩横を貼ります。次ぎに表型の(リ)の切り込みから前合口裏型の、(ハ)の切り込みの間の表の方に糊をつけ表型の、(リ)の切り込みが前表型の、(ハ)の切り込みとが付き合ふやうにして表型の、(リ)の切り込みが少しゆるむやうに兩横を貼りますと、表型の、(リ)の切り込みから、(ト)の切り込みの間が用布が三枚になります。こゝは後で段口になるのでございます。

八、次ぎに前表型の、(イ)の切り込みの表の方の端に糊をつけて、深口裏型の一方の端と中表に貼り合せて一分の縫ひ代で縫ひ、表型の方から切り込み通りに筋を入れ表型の方に折りくせをつけて外表に返します。そして表の方が五厘ふくやうに鏝をかけて置きます。

第百二十二圖

深口及び前口の貼り上り



九、次ぎに前表型の、(ト)の切り込みから、表型の(ト)の切り込みの間兩横の裏の方に糊をつけ、深口裏用布と外表に兩横を貼ります。次ぎに深口裏型の型紙のない一方の端から深口裏型の、(ハ)の切り込みの兩横の表の方に糊をつけ、前表型の(イ)の切り込みが深口裏型の(ハ)の切り込みとが付き合ふよ

うに兩横を表が少しゆるむやうに貼ります。こゝは後で第百十五圖のやうに深口の口が出來るのでございます。

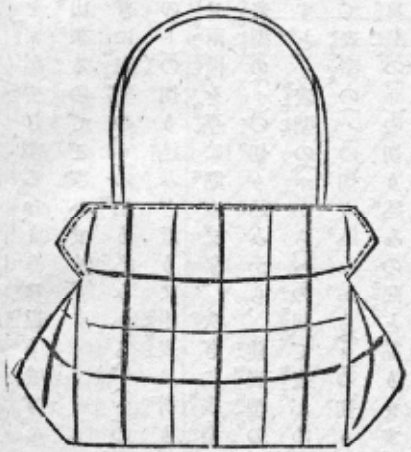
十、次ぎに表型の(ロ)の切り込みから、(ト)の切り込みの間、表側の兩横に糊をつけ表型の(ト)の切り込みどほりに中表に折り、(ヘ)、の切り込みと、(チ)の切り込みとを合せ兩横を平に貼ります。次ぎに表型の、(ホ)の切り込みから(ニ)の切り込みの間と表型の(チ)の切り込みから、前表型の、(ロ)の切り込みの間とを中表にして貼りますと、表型の(ホ)から(ヘ)の間で表がゆるみますから、そこの所で縮せます。そして表型の(ハ)の切り込みから(ロ)の切り込みの間と、前表の(ロ)の切り込みから深口裏型の(ロ)の切り込みの間と貼ります、と表型の、(ニ)の切り込みから、(ハ)の切り込みの間で表型がゆるみますからそこの所で縮せます。これで兩横がすつかり貼れましたから一分の縫ひ代で縫ひ裏の方から筋を入れて裏の方によく折りくせをつけて外表に返します。

十一、次ぎに今返しました袋をよく縫ひ目をなほし深口裏の(イ)から(イ)の間裏側の方に糊をつけ、表型の(イ)から(イ)の間を貼り合せます。

十二、これで袋が出來上りましたから丁寧に仕上げを致しまして袋の形を正しますと、三ツ巻財布はすつかり出來上りますから、三ツに巻いて置きます。

第十七章　アンテラバッグ

第百二十三圖
出來上り



アンテラバッグは長方形の袋でございまして、口から一寸程這つた所の中に口金が附きまして、雨襠に襠が附き、口元に平紐が附いて、なか〳〵面白い手提袋でございます。

（一）材料

表用布、巾一尺、丈八寸五分。
裏用布、巾一尺、丈一尺五寸。
（入〇）

生判紙、二枚。七番張子紙、二枚。口金、角四寸五分、一個。

（二）型紙の裁方

一、型紙は總て元型を現して置きます。始め判紙にて元型を敷き寫しになして裁ち切ります。

二、次に元型通りの表型紙を、七番張子て一枚。生判紙にて、裏型紙一枚。口金表型紙一枚。七番張子紙にて、中裏型紙一枚。表襠型紙二枚。裏襠型紙二枚。襠中の心紙二枚。口裏の心紙二枚。口金表の心紙二枚。別に紐型巾五分、丈八寸五分二本。以上で全部型紙が裁ち終りましたから各々用布に貼ります。

（三）貼り方

一、表用布を巾五寸五分、丈八寸五分に一枚裁つて置きます

二、表型紙の周圍に糊を附け、第百二十四圖の(イ)、(ロ)、の切り込みの間、上下に用布が殘る樣に貼ります。

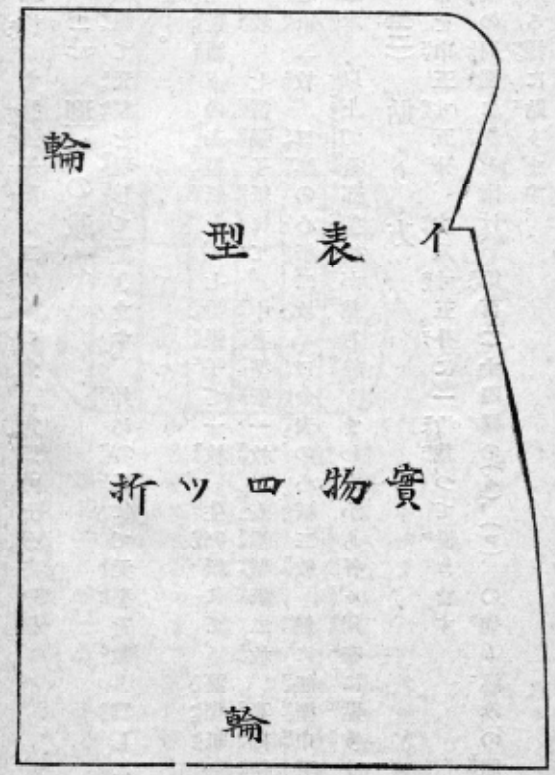
三、紐型の周圍に糊をつけ、前に切り殘りの用布の一方の端に揃へて型紙より周圍一分五厘殘る樣に二本共貼ります。

四、表襠型紙の周圍に糊をつけ、紐を貼りて殘りし用布に平に貼ります。

五、裏型の周圍に糊を附け、裏用布の一方の端に片寄せて平に貼ります。

第百二十四圖

表型（實物四ツ折）

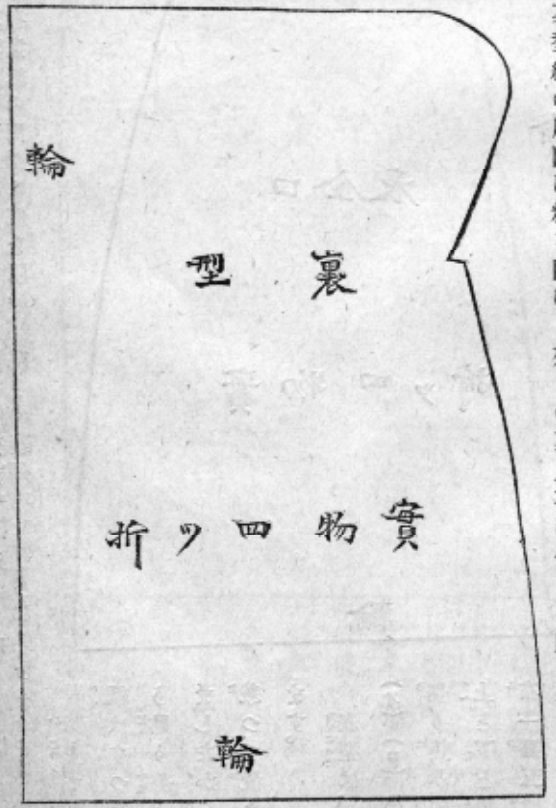


六、口金型紙の周圍に糊をつけ、殘りの用布に平らに貼ります。

七、次に中裏型紙の周圍に糊を附け、殘りの裏用布に平らに貼ります。

第二十五圖

裏型（實物四ツ折）



八、次に裏襠型紙の周圍に糊を附け、殘りの裏用布に平らに貼ります。

以上で型紙はすつかり貼り終りましたから裁つて置きます。

表型は、(イ)、(ロ)、の切り込みの上と下と用布一分五厘殘りますに、後は型通りに裁ち落し、襠型は型通り、紐型は丈は型通り横は兩横共一分五厘殘して裁ち落します。

裏型、及び口金表型、中裏型、は型通りに裁ちます、各々裁目のほつれぬ樣に縁縢をかけて置きます。

(四)縫方

一、表型の、(イ)(ロ)、の切り込みの、上下に殘してございます裏

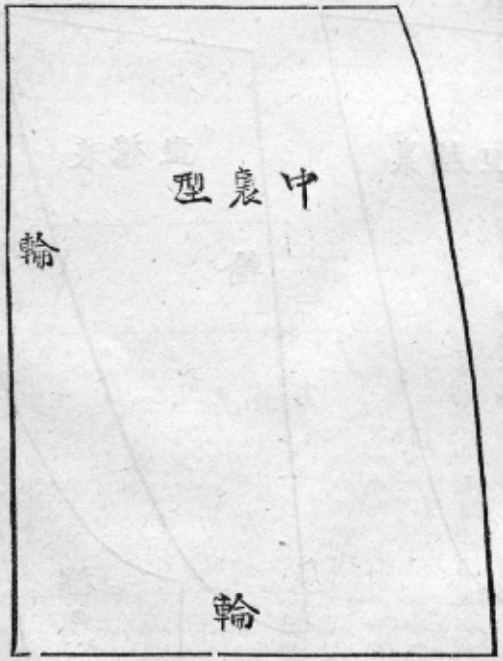
第二十六圖

口金表（實物四ッ折）



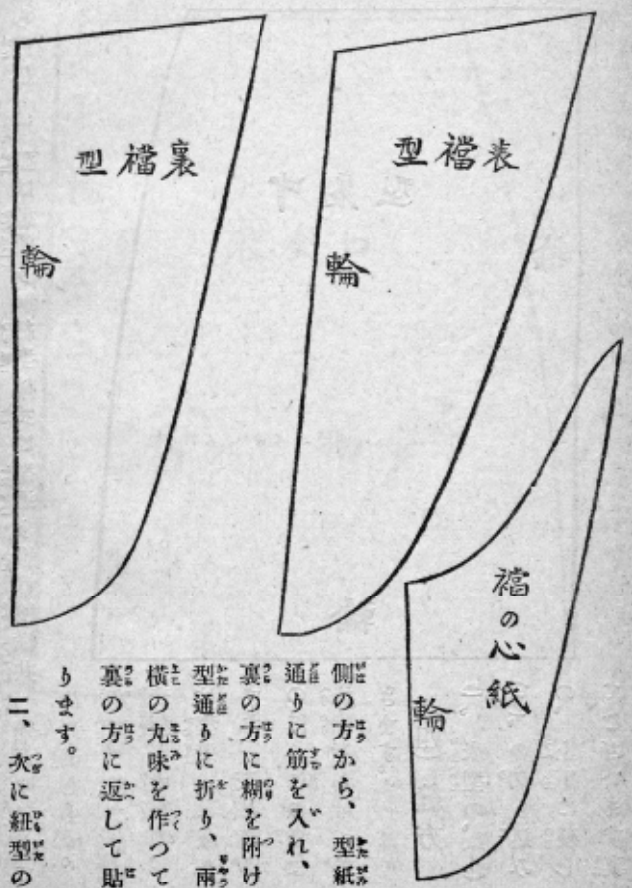
第百二十七圖

中裏型（實物四ッ折）



第百二十八圖

襠型（實物大二ッ折）



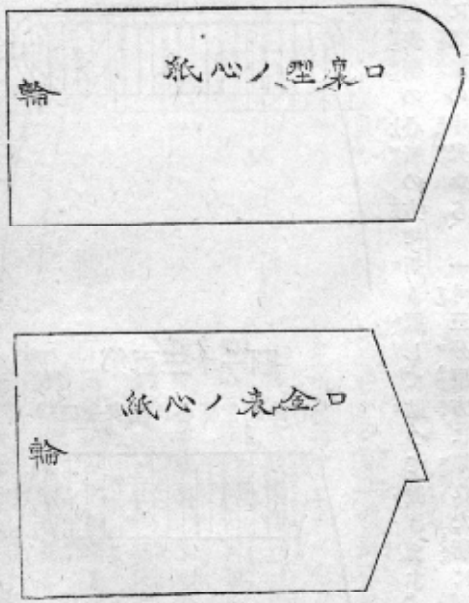
側の方から、型紙通りに筋を入れ、裏の方に糊を附け型通りに折り、兩横の丸味を作つて裏の方に返して貼ります。

二、次に紐型の

（以下次號）

第百二十九圖

心紙（實物大二分ノ一）



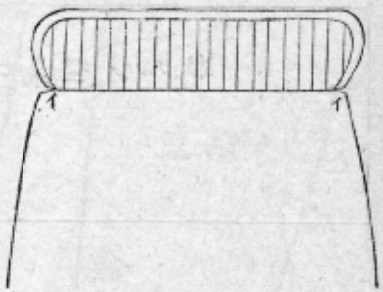
兩横に筋を入れ、用布の裏側の方に糊を附け、型通りに返して貼ります。次に今貼りました紐の中央に、筋を入れ二つ折りに折り、兩端を五厘餘り這入つた所に飾りミシンを掛けて置きます。もう一本の紐も同じ様に致して置きます。

三、次に口裏心紙の周圍に糊を附け、裏型の兩端に第百三十圖の様に貼ります、そして裏型の、（イ）の切込みの横の方に心紙のある所まで切込みを入れて表型の兩角の丸を合せ、表型と同様に貼ります。

四、次に口金表型

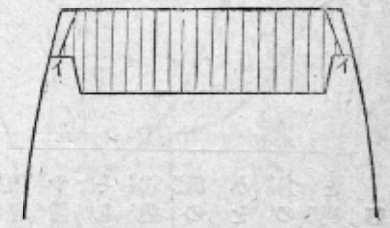
第百三十圖

口裏型に心紙を貼込む



第百三十一圖

口金表型に心紙を貼込む

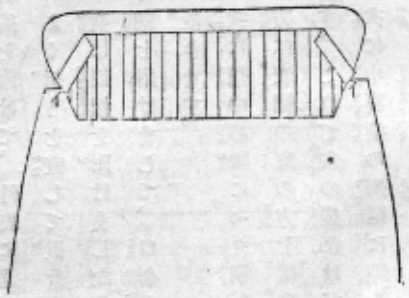


紙の周圍に糊を附け、口金表型の兩横の心紙のある所迄切込みを入れ、端から(イ)の切込み迄、口金表型の裏側の方に糊を附け、口金表型の心紙の方に折り返して貼つて置きます。

五、次に表型の中央から、一寸三分兩方に離れた所に、紐の兩端に糊を附け輪の方を中にしてミシンの表側の方を、表型の表側に見える樣に紐の兩端を輪にして、三分程を表型の端より中に入れて貼ります。そしてもう一本の紐も今と同じ樣に致して置きます。

第百三十二圖

口裏型に口金表型の貼り合



六、次に裏側の周圍に糊を附けて表型と裏型とが三厘、(イ)の切込みから他の横の(イ)の切込みの間が三厘ふかせて、兩横は表型通りに貼ります。

七、次に表型の(イ)と、(イ)の切込みの間五厘餘りの深さで飾りミシンを掛けて置きます。

八、次に表型の(イ)から、他の一方の(イ)の切込みの裏側の兩横に糊を附けて口金表型と第百三十一圖の樣に貼ります。

九、次に表型の(イ)から、他の一方の(イ)の切込み迄の間と表襠とを附けますが、襠を附けますには、表型の中央と裏型の中央とを合せ、一分の縫代で表襠型なりに表型の、(イ)の切込み迄兩横を縫ひます。そして他の一方の襠も同じ樣に致して置きます。

十、次に表襠を附けました中の方に襠な

りに出來ました木型が御座いますから、襠の中に入れて、その木型通りに表型の方に折癖を附けて、外表に返します、そして又木型を中に入れまして、表の方から、よく折りを直して置きます。

十一、 次に表襠を附けました殘りの切込みから、表襠の繰返表の方に一分五厘の巾で糊を附けまして、口金表型と四つ角共貼り合せ、一つの輪が出來る樣に致して置きます。

十二、 次に襠の心紙にベタ糊を附けて、表襠型の中に縫代一ぱいに入れます。その入れ方は表襠の底の方を襠型心紙を襠の型にならつて貼り、よく鏝をかけて置きます。これで表の袋だけが出來上りました。

十三、 次に中裏型の周圍に糊を附け、表型の袋に入れて口元を貼ります。

十四、 次に磐石糊を水につけてよく練り、目打錐の尖端で、口金の鋲の所になる樣にして入れます。その入れ方は立太子式紀念バッグと同じて御座います。

十五、 次に口金が這入りましたならば、袋の中に心紙を入れて型をよく直して出來上り圖の樣に致して置きます。

第十八章　男持紙入

男持紙入は、扇形の襠の附いた、前段ある前口が附きまして、背にも口が御座いますので、外に深口の附いた被せを附けました二つ折の紙入で御座います

第百三十三圖

出來上り



（一）材料

表用布、 巾五寸三分、丈一尺四寸

裏用布、 巾五寸三分、丈二尺五寸六分。

生半紙、 三枚。

紙木、 少し。

六番張子紙、 と**八番張子紙、** とを少しづゝ、

小鳶、 八分の一個。

（二）型紙の裁方

一、 先づ被せ表の型紙から裁つことに致します。用意して御座います生半紙を例により、巾五寸三分、丈三寸七分、に正しく裁ち、それを中表に二

つ折りになし、輪を手前になし、兩端の二枚重なつてゐる方を向ふ側にして裁ち板の上に載せ、向ふ側の裁目の方から、(イ)、(ロ)、(ハ)の順に切込みを入れます。(イ)、端より二寸七分、(ロ)、(イ)より二分、以上の切込みが這入りましたならば、殘りの八分を鈎の手に裁ち落します。次に他の一方を櫛型の定木をあてゝ裁ち兩角で二分の丸味を附けて置きます。これを廣げますと、第百三十四圖の樣な被せ表型紙となるので御座います。

第百三十四圖

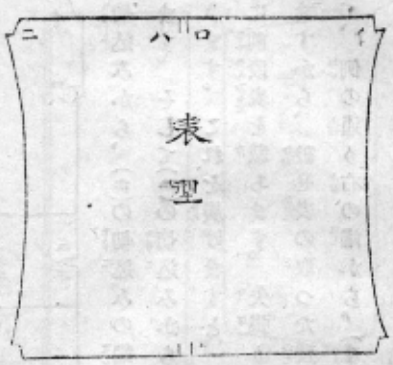
被表型



二、次に表型紙を裁ちます。矢張り生半紙を巾五寸三分、丈五寸五分、に正しく裁ちまして、中表に二つ折となし、前と同じに、(イ)、端より一分五厘、(ロ)(イ)より二寸六分、(ハ)、(ロ)より二分、(ニ)(ハ)より二寸四分、以上切込みが這入りましたならば、殘りの一分五厘と始めの一分五厘とを鈎の手に裁ちます。次に今一分五厘に裁ちました所を二分五厘皿形に裁ち落して置きます。これを

第百三十五圖

表型



第百三十六圖

深口裏型

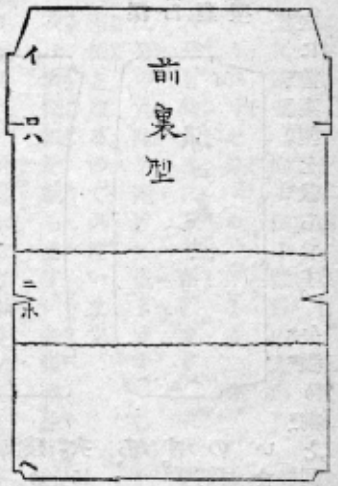


廣げますと、第百三十五圖の樣な型紙になるので御座います。

三、次に深口裏型を裁ちます。矢張り前と同じに生半紙を巾五寸二分、丈二寸三分五厘に正しく裁ち、前と同じに切込みを入れます。(イ)、端より一寸六分五厘と切込みが這入りましたならば殘りの七分は鈎の手に裁ち落します。次に他の一方を櫛型の定木をあてゝ裁ち、兩角て二分の丸味を附けて置きます。これを廣げますと、第百三十六圖の樣な被せ裏型の型紙になるので御座います。

ロ、次に前裏型を裁ちます。矢張り前と同じに生半紙を巾五寸二分、丈七寸

第百三十七圖
前裏型



三分五厘に正しく裁ち、例の通り切込みを入れます。(イ)、端より七分。(ロ)、(イ)より一寸。(ハ)、(ロ)より一分五厘。(ニ)、(ハ)より二寸六分。(ホ)、(ニ)より一分五厘。(ヘ)、(ホ)より二寸六分、以上の切込が這入りましたならば殘りの一分五厘と始めの七分とを鉤の手に裁ち落します。

次に(ハ)の切込みから、(ホ)の切込みの端迄、巾が五寸一分五厘になる様に裁ち落して置きます。そして(ニ)の切込みから(ホ)の切込みの間、五分の深さで切込みを入れて置きます。これを廣げますと、第百三十七圖の裏型紙となります。

五、次に前段表を裁ちます。矢張り生半紙を裁ちますが、巾は被せ表と同じて御座いますから、被せ表の取つた殘りて、丈を二寸四分に、正しく裁ち二つ折りにして、例の通り右の端から、(イ)、端より三分、(ロ)、(イ)より四分、以上の

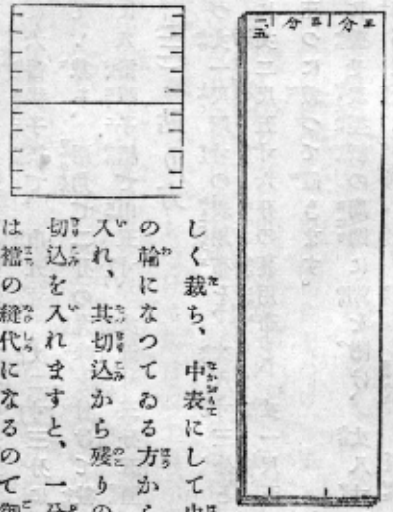
第百三十八圖
前段表型



切込みが這入りましたならば、殘りの一寸七分と始めの三分とを鉤の手に裁ち落し、之を廣げますと、第百三十八圖の様な、前段表型紙となるので御座います。

六、次に襠型紙を裁ちます。矢張り生半紙を例により巾三寸、丈二寸六分に正しく裁ち、巾表にして巾を正しく四つ折りに致し紙の輪になつてゐる方から、三分這入つた所に切込を入れ、其切込から殘りの五分五厘の方へ三分の所に切込を入れますと、一分五厘殘ります。其一分五厘は襠の縫代になるので御座います。之を廣けますと

第百三十九圖
(1)襠型紙　(2)同上廣げたる處



百三十九圖(2)の様になります。

七、次に経木（鉋屑よりも厚く、薄い板よりも尚一層薄い厚さ二厘位ひの板に削つたもの）を、巾一分五厘、丈二寸六分の長方形に八本裁つて置きます。

八、次に六番張子紙で、巾五寸、丈二寸三分に正しく裁ち、丈の一方で櫛型定木をあてゝ裁ち、兩角て二分の丸味を付けて被せの心紙を裁つて置きます。

九、次に八番張子紙て巾五寸、丈五寸三分五厘の胴の心紙を裁つて置きます。

(三)　貼り方

一、先づ丈一尺四寸の表用布を、丈八寸三分と、五寸七分の二つに裁ちます。

二、次に丈二尺五寸六分の裏用布を、丈一尺五寸二分と、五寸一分と、五寸三分との三つに裁つて置きます。

三、次に被せ表型紙の周圍に糊を附け、丈八寸三分の表用布に、(ロ)の切込みから表用布が五寸二分下に殘る様に、兩横と櫛型を除いた他の一方を平に貼ります。そして被せは五厘位ひ、表に袋取つて置きます。

四、表型紙の周圍に糊を附け丈五寸七分の表用布の上に載せて平に貼ります

五、次ぎに深口裏型紙の周圍に糊をつけ、丈一尺五寸二分の裏用布の一端に

移せる櫛型を揃へて重ね、平に貼ります、すると、(イ)の切り込みから下に一尺三寸五分五厘殘ります。

六、次ぎに前裏型の周圍に糊をつけ、そして波線のところに留糊を施して深口裏型の、(イ)の切り込から、前裏型の(イ)の切り込み迄用布が七寸五分殘るように第八號の百十圖の様にして平に貼ります。

七、次ぎに前段表型紙の周圍に糊をつけ、五寸一分の裏用布の一方の端へ片寄せて、(ロ)の切り込みから用布が四寸四分下に殘るように貼ります。

八、丈五寸三分の裏用布を巾三寸二分に裁ち落し置き、前に裁つて置きました八本の經木の裏にベタ糊をつけて第百四十圖の様に切込の間に貼ります。

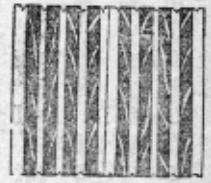
九、次ぎに巾三寸の裏用布を裁ち板の上に半紙を一枚敷いて、其上に布裏を上にして横に置き、丈の右の端から三寸八分の所まで引き糊を施し、更に下に敷いて御座います半紙の端を持つてこれを縦に置き換へ、第百四十一圖の底の所の様に引き糊をしたる方の丈の端を、櫛型より二分殘して經木を上に見ながら用布の巾を中央に貼り、其の上をよく刷毛て叩いて、そして自然に乾くまで

放り置きます。

十、次に引き糊の乾いた頃を見計ひまして、巾の方の中央を縦に二ツに裁切りまして、八本の経木が四本づゝに分るゝ事になります。そして其裁目の横を（い）と致し、他の一方の横を（ろ）と致します。

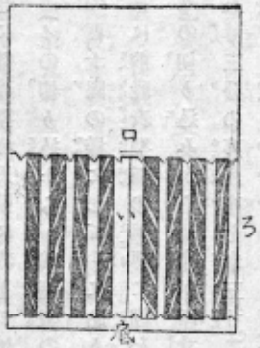
第百四十圖

檜型紙に経木の貼り方



第百四十一圖

用布に檜型の貼り方



十一、二ツに裁ちました其檜の檜型紙は、巾一寸五分、用布は一寸六分ありますから（ろ）の横で型紙の外に用布が一分食み出して居る譯で、これを型紙の線に添ふて二寸八分の間丈裁落します。

十二、次ぎに型紙の丈の両端に筋を入れ、底に用布二分殘してございます。裏の方に縁糊をつけて裏型の方に返して貼ります。他の一方の二寸五分の方にも用布の裏にベタ糊を引き裏型の方に折り、其先をつき合せ重なる所を裁ち捨て

ます。そして（イ）の横及（ロ）の横を平に貼り、裏用布の上から刷毛で叩いて置きます。其両横の殘りの布を型通りに裁ち、一方の檜も同様に貼るのであります。

十三、次ぎにこれで貼り方は終りましたから、表型紙は型通りに裁ち、被せ表型及び深口裏型、前裏型、前段表型、は丈の両端と巾の両横は巾通りに裁ちます。これで全部裁ち切りましたから各々裁ち目の方に縁糊を掛て置きます。

（四）縫ひ方

一、先づ表型の（イ）の切り込みと（ハ）の切り込みとに皿刺のなかに筋を入れます。

二、次ぎに前裏型の（イ）の切り込みと（ヘ）の切り込みとに筋を入れます。

三、次ぎに前裏型の（ヘ）の筋の端に糊をつけ裏の方に返して貼ります。

四、次ぎに表型の（イ）の切り込みの表の端に糊をつけ被せ表型の型紙の貼ッてない方と巾を揃へて中表に貼ります。そして被せ表型の方を矢張り表型にならッて裁ち落します。今裁落しましたところを一分の縫代で縫ひ、縫ひ代に一分おき位に切り込みを入れます。そして表の方に折くせをつけて置きます。

五、次ぎに今縫ひましたところを外表に返して、（イ）の切り込みが被せ表型の

（ロ）の切り込の上に中表にして折り重ねますと五寸二分の用布が二重に折れます、これが背口の口になるのでございます。それで表型とで三重になりますから表型の（イ）の切り込みが少し弛む様に（ロ）の切り込み迄の雨横を貼ります。

六、次ぎに表型紙（ニ）の切り込みの表の端に糊をつけ前段表型の型紙の貼ッてない一方の端と巾を揃へて中表に貼ります。そして前段表型を矢張り表型にならッて裁ち落し、一分の縫代て縫ひ、縫代に一分ゐき位に切り込みを入れてよく表型の方に折をつけて外表に返します。

七、今縫ひし所を前段表型（ロ）の切込みの上に中表にして折り重ねますと四寸四分の用布が二重に折れます、之が前段の口になります、それて表型とて三重になりますから表型の（ニ）の切込みが少し弛む様に雨横を（ハ）の切込み迄貼る。

八、次ぎに前裏型の（イ）の筋を外表に折りつけ、（此の折は後に深口の口になります。）そして（イ）の筋を深口裏の（イ）の切り込みの上に中表にして折り重ねますと七寸五分の用布が二重に折れます。これが深口になるのでございます。

それて前裏とて三重になりますから前裏型（イ）を少し弛めて（ロ）の切り込み迄の

雨横を三枚重ねて貼り、夫より下は深口になる用布のみの二枚の雨横を貼り、且つ其二枚の用布の（ロ）の切り込みの雨横で二分の裁ち込みを入れ、そして深口の底の雨横から各々三分遣入つたところに標をつけ、二分の裁ち込みからその標に向つて斜に折つて雨横を貼り、鰻をかけ、その折つたのを第八號の百十二圖の様に一分五厘の隔たりで巻き縫ひ致しますと、深口が出來上ります。そして深口の底に糊をつけて前裏型に貼つて置きます。

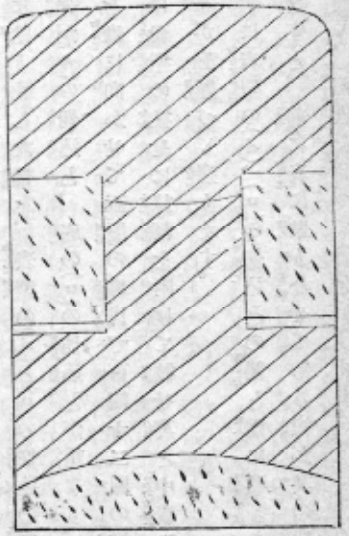
九、前に貼りました襠を、表型の（イ）と（ロ）の切込の間へ襠の（ハ）の横を中表に當て襠の口先が（イ）の切込と、底の（ロ）の切込とが重なり、且つ襠布の貼合せ目を前に裏の布を表に向かせて五厘の縫代て百四十二圖の様に貼り附けます。

十、次に表型の被せに縁糊を附けて被せ裏と中表に貼り合せますと、雨横の端て表用布が五厘づゝ殘ります。

十一、次に表型の（イ）、（ロ）の切込みの間と前に裏型の（ハ）、（ニ）の切込みを中表に張り合せますと、前に表に貼り合せてある襠が其の間に挟まりますから、それを挟んだまゝ、雨横を貼つて綴をかけます。

第百四十二圖

表型に襠の貼り合せ方



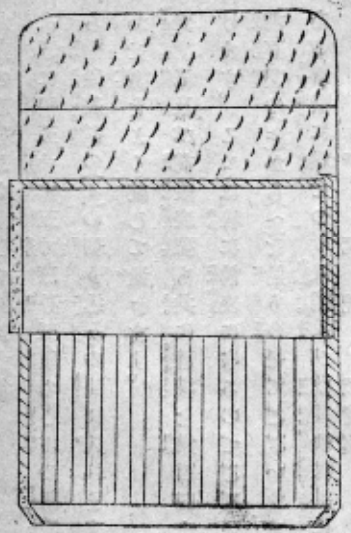
十二、次に表被せ型の端から、(ロ)の切込み迄の間、表の方に縁綢を附けて深口の楕型の端から(ニ)の切込みとを合せ兩横を貼りますと、被せ表の(イ)の切込みと前裏型の(ロ)と合せます。すると被せ表型の(イ)から、(ロ)の間で表が一分弛みますからそれを其間で縮めます。そして楕型の兩角で、丈及び巾から五厘づゝ殘つて居りますから、其角でも縫ひ縮め、次に今貼りました所を、一分の縫代で縫ひ、裏の方から筋を入れて裏に折り、すぐ折りを附けて置きます。

十三、次に被せの丸味の所には丸味型をあて、縫代だけを少し温して扱ひよくし、目打錐でよく丸味を作り、錐をかけて格好を定め、外表に返して仕上げ

（以下次號）

第百四十三圖

前表に心紙を貼り込む



十四、前裏型の(ホ)から(ヘ)の間に表の方の兩横の端に縁綢をつけ、扇形に折つてある襠の(ろ)の横を(い)の時と同じに(ホ)の筋が襠の底に、(ニ)の筋が襠の口に、そして襠の裏を、前裏型につけて口のところで前裏型の方が襠より三厘下る樣にして貼ります。そして襠のたゝんである厚味は前裏型の底の五分斜に裁ち込んであります所で落ちつかせます。

十五、次きに幅五寸丈二寸三分の被せの心紙を被せに重ねて楕型に裁ち、兩横の角を二分の丸味をつけて置きます。

十六、被せの心紙に楕型を除いた他の一方の端に一分の幅に綢をつけ、被せの中に表側の方につく樣にして表側の方へ差し込みます。そして縫ひ

目や角の丸味の形をよく直して置きます。

十六、次ぎに幅五寸丈五寸三分五厘の心紙の兩横に糊をつけ、表型の(イ)の切り込みから前段表型の(イ)の切り込みの間に入れます。そして心紙をよく縫ひ目に落ちつかせ型をよく直して置きます。

十七、表型紙及び前段表型も共に兩横を第百四十三圖の様に心紙通りに折つて貼り付けます。こゝは後に前表になるのでございます。

十八、前裏型の(ホ)から(ヘ)を貼り合せてございます襠の(ろ)の横を一分五厘返して貼つてある兩横に糊をつけ表型及び前段表型共に上に折り重ねますと、下の方てに表の(ハ)の切り込みと襠の底と、前裏型の(ホ)の切り込みとが重りまして、上の方では前段表型の(イ)の切り込みと襠の上の口とが重なり、裏の(ニ)の切り込みはそれより三厘下つて居ります。そして襠上に貼りつけます。

十九、次ぎに表の嬶て襠の上の縫ひ代を包んて襠と同じ丈(イ)の切り込みに筋を入れ其の筋から折つて貼りますと、裏よりは三厘程く事になるのでございます。

二十、終りに前の口元を貼りますが裏型の方に糊をつけ表型と貼り合せて置きます。

以上て袋は出來上りましたから、いつもの様に被せの橢型のところや、深口のところやらに縫ひ目をよく正して鏝をかけて、尚襠のあたりもかつきりとよく疊みて正しくくせをつけ全體の形をよく直して調へ仕上を致して置きます。

二十一、次に被せを折つて見て被せの嬶より一分ばかり上つた表型の巾の中央に一寸の小馳かけを捧へます。小馳かけの作り方は第十三章のノート附紙入の時と同じて御座います。それから小馳をつけますが小馳の付け方はいつもの様に被せの嬶から七厘五毛引かせて小馳を截せ目打錐の先て小馳の穴を明け、被せの表側より穴に海鼠の足を通し、爪の兩端の穴にぬき出し、爪の兩端の布を力を入れて下におさへながら喰ひ切りて二本の足を爪の表と平に切り足の切り口を豆金槌てたゝきつぶして平に致すのてございます。

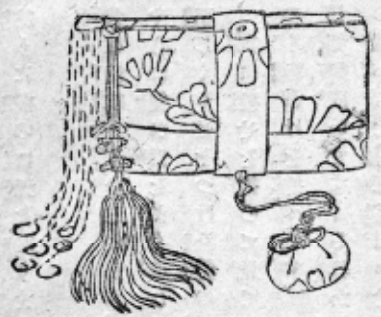
これて全く屬襠付紙入は出來上りましたから巾三寸三分、丈二寸三分、厚さ二分、位の心袋を入れて襠紙を致して置きます。

第十九章　折襠附大人持箱迫

箱迫にはその種類が非常に澤山ありまして、この折襠附大人持箱迫もその中の一種でございます。それを開いて平に置きますと、中央に鍼入がございまして袋附の他の一方に名刺入が附けてございまして袋を三ツ折にして横から見ますと殺せ附の雨縢り紙入の形をして居ります。そしてその正面からの形は、袋の上に簪を差した美しい房附の簪差しを挟んで、巾の中央に七分巾の帶をしめ、その帶の端に匂ひ袋の紐を結び附けました優美な、高尚なものでございます。

第百四十四圖

出來上り



これはもと、婦人が身だしなみや護身用に持つた物でございますが、近頃は儀式の時の裝飾品の一種に用ゐられます。表用布は好みによつて種々なものを用ゐますが、裏用布には白と赤との二色の中の一つを選び、兩横を縢る打紐も、赤と、白との二色の中の何れかを用ひます。

（一）材料

表用布　巾七寸五分、長さ九寸。
裏用布　巾四寸四分、長さ三尺。
他に生判紙　二枚。西の内　一枚。九番張子紙。厚板目紙。薄板目紙。經木等を少々づゝ。巾一寸八分、丈三寸八分の鏡を一面。簪を一本。房を一つ。赤玉を二個。縢り糸五尺。

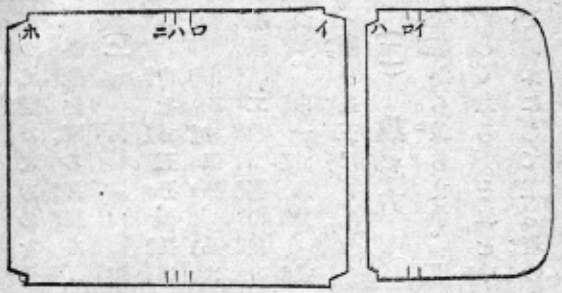
（二）裁ち方

一、表型紙から裁ちます。用意してある生判紙を例に依り巾四寸四分、丈三寸四分に正しく裁ち、それを中表に二ツ折となし、鉛を手前に兩端の二枚重なつてる方を向ふにして裁ち板の上に載せ、向ふ側の裁ち目の方から右の端より（イ）（ロ）の順に切り込みを入れます。（イ）、端より二寸三分五厘、（ロ）、（イ）より二分。（ハ）、（ロ）より六分。以上の切り込みが這入りましたならば殘りの一分五厘を鈎の

手に裁ち落します。他の一方の端は一分の櫛型に落し雨横の角は二分の丸味をつけて置きます。これを擴げますと第百四十五圖の樣な被せ表型となるのでございます。

第百四十五圖

被表型紙



第百四十六圖

表型紙

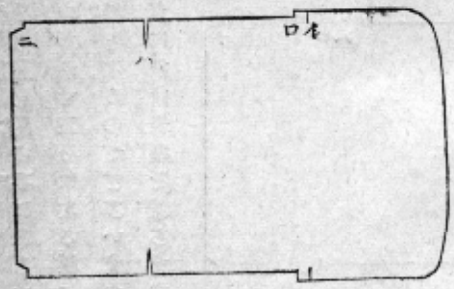
二、表型を裁ちますが前と同じく生判紙を巾四寸四分丈五寸五分五厘に正しく裁ち前と同じく切り込みを入れます。(イ)端より三分。(ロ)、(イ)より二寸三分五厘。(ハ)(ロ)より二分五厘。(ニ)(ハ)より一分。(ホ)(ニ)より二寸二分五厘。以上の切り込みが這入りましたならば始の三分と殘りの三分とを鉤の手に裁ち落します。之を擴げますと第百四十六圖のやうに表型紙となるのでございます。

三、被せ裏型を裁ちますが前と同じく生

判紙を巾四寸三分丈七寸に正しく裁ち、前と同じに切り込みを入れます。(イ)端より二寸二分。(ロ)(イ)より二分。(ハ)(ロ)より二寸二分五厘。(ニ)(ハ)より二寸二分。以上の切り込みを入れ殘りの一分五厘を鉤の手に裁ちます。次ぎに一方の端を表型に合せ櫛型に裁ち落し(ロ)の切り込みから、(ニ)の切り込みの端迄巾が四寸二分になる樣に裁ち(ハ)の切り込みの所は五分の深さに切り込みを入れます。これを擴げますと第百四十七圖の被せ裏となるのでございます。

第百四十七圖

被せ裏型

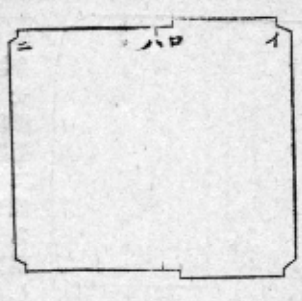


四、次ぎに朧り裏の型紙を裁ちます。前と同じに生判紙を巾四寸丈四寸四分に正しく裁ち、切込みを入れます。(イ)端より一分(ロ)(イ)より一寸六分五厘。(ハ)(ロ)より二分五厘。(ニ)(ハ)より二寸二分五厘。以上の切り込みが這入りましたならば始めの一分と

殘りの一分五厘を鉤の手に裁ちます。そして(ハ)の切り込みから(ニ)の切り込みの端迄巾が四寸三分になる様に裁ちます。これを擴げますと第百四十八圖の様な裏型紙となるのでございます。

五、次きに前段表型を裁ちます矢張り前と同じに生列紙を巾四寸三分五厘丈一寸七分に正しく裁ち、切込みを入れます。(イ)端より二分。(ロ)(イ)より三分。以上の切り込みが這入りましたならば始めの二分と殘りの一寸二分とを鉤の手に裁ちます。これを擴げますと第百四十九圖の様な前段表型紙となるのでございます。

第百四十八圖　裏型



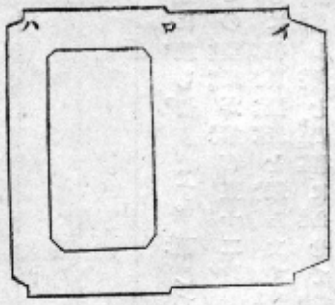
第百四十九圖　前段表型



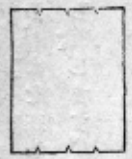
六、次きに鏡裏型を裁ちますが前に用意して置きました西の内を前と同じに巾四寸四分丈五寸一分に正しく裁ち、切込みを入れます。(イ)端より六分。(ロ)(イ)より一寸

九分五厘、(ハ)(ロ)より二寸二分五厘。以上の切り込みが這入りましたならば始めの六分と殘りの三分とを鉤の手に裁ち、(イ)の切り込みの端から(ロ)の切込みの間を巾が四寸三分になる様に裁つて置きます。次きに巾二ツ折にしたまゝ更に丈二寸二分五厘の方を正しく二ツに折り、輪の方を手前にして二枚重なつた方を左にし、手前の左の角から向ふ側の方へ八分の所に標をつけ、其の標から右の方へ一寸四分の所に標をつけ筋を入れて置きます。更に手前の左の角から右の方へ一寸五分五厘の所に標をつけ、其の標から向側の方へ六分五厘の所に標をつけ、其の標から標の間を斜に筋を入れ、筋通りに裁ち落します。これを擴げますと第百五十圖の様に鏡裏型となるのでございます。

第百五十圖　鏡裏型紙



第百五十一圖　襟型紙



七、次ぎに襠型紙を裁ちます。矢張り生地紙を巾一寸八分、丈二寸二分五厘に正しく裁ち、巾を正しく四ツ折りにして、丈の端の両角て五厘の深さて切り込みを入れ裁ち落します。これを擴げますと第百五十一圖の襠型紙となるのてございます。

第百五十二圖

(1)襠表型(2)同裏型



八、次ぎに附屬品の方は先づ襠表の型紙から裁ちます。前に用意して置いた厚い板目紙て巾七分丈六寸三分に裁ち切ります。面して丈の両端の角を一分の丸味にして落して置きます。この型紙が第百五十二圖(1)の襠表型紙となるのてございます。

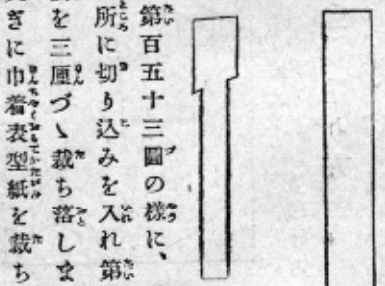
九、次ぎに襠裏型紙を裁ちます薄い板目紙て巾六分五厘丈六寸一分五厘に裁ち、丈の両端の角を表型に合せて裁ち落して置きます。この型紙は第百五十二圖(2)の襠裏型紙となるのてございます。

十、それかち襠表型として厚板目紙て巾六分丈七寸三分に裁ち紙の表を裁板

の面につけて横に正しく置き、右の向ふの端から左の方へ二分の所に標をつけ手前の右の端から斜に渡して定木を當て第百五十三圖の様に裁ち落します。

第百五十三圖

襠表型紙及裏型紙



十一、次ぎに襠差裏型として薄板目紙て巾五分五厘丈三寸八分に裁ち、紙の表を裁ち板の面につけ縦に正しく置き、右の向ふの端から八分の所に切り込みを入れ、左横に、左の向ふの端から一寸の所に切り込みを入れ第百五十三圖の様に、其切り込みから丈の手前の端迄両横を三厘づゝ裁ち落します。

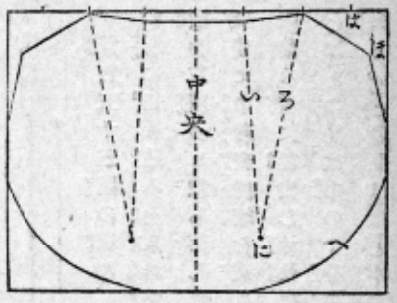
十二、次ぎに巾着表型紙を裁ちます。西の内で巾二寸、丈一寸五分に裁ち、第百五十四圖の様に割出し寸法によつて裁ちます。

一、横とは)との間は巾の十分の一。(二分)

一、中央とい)との間は(はゞと中央との間の三分の一。(三分)

第百五十四圖

巾着表型紙（實物大）



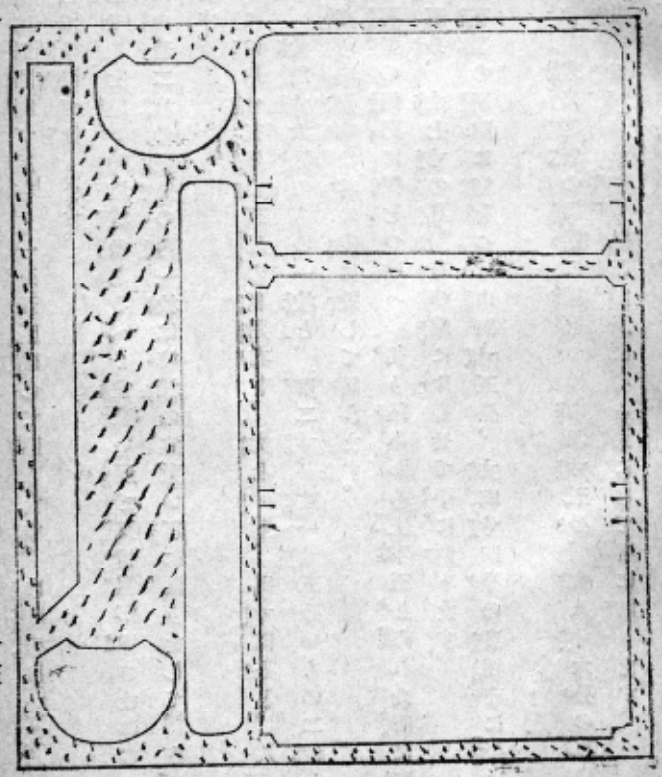
一、（い）と（ろ）との間も同樣。（三分）
一、（ろ）と（は）との間も同樣。（三分）
一、底と（に）との間は丈の四分の一。（三分七厘五毛）
一、（ほ）と横との間は一分。
一、中央と（に）との間は巾の六分の一。（三分三厘餘）
一、（へ）と角との間は丈の二倍强。（三分餘）
以上て全部裁ち終りましたから各々の型紙を、それ〳〵用布に貼り附けるのであります。

（二）貼り方

一、巾七寸五分、丈九寸の表用布に第百五十五圖の樣に貼りますが、其貼り方は被せ表型は縁糊て被せの櫛型を除きました他の三方を平に貼り、櫛型の所は十分表に袋取つて置きます。次ぎに表型は周圍に糊をつけ平に貼ります。

第百五十五圖

表用布に型紙を貼り込む



型と管差型は周圍糊て用布を一分五厘殘して貼ります。巾着型は（いとろ）の點線に留糊をして縁糊て貼ります。

注意　被せ表を貼る時模様のなるべく宜敷い所て又模様が逆さまにならない様に、また巾着二枚の型紙の内一枚は模様の宜敷い所に貼りまして、それを表側に致します。

二、次ぎに巾四寸五分丈三尺の裏用布を、丈七寸と、四寸四分と、八寸六分と、巾二寸、丈四寸六分のもの一枚と、巾二寸、丈一寸五分のもの二枚との六枚に裁ち、殘りの用布は其の儘に致して置きます。

三、被せ裏型の周圍に糊をつけ（ハ）の切り込みから上下五分離れた所に留糊を致し巾四寸五分、丈七寸の裏用布の端に片寄せて平に貼ります。

四、據り裏型の周圍に糊をつけ巾四寸五分、丈四寸四分の裏用布に平に貼ります。

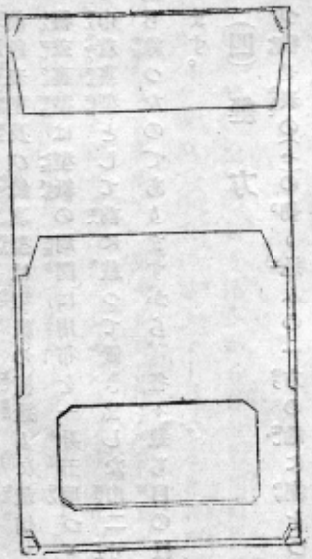
五、次ぎに前段表型紙の周圍に糊をつけ巾四寸五分、丈八寸六分の裏用布に一方の端へ片寄せて（イ）の切り込みが上になる様にして平に貼ります。

（以下次號）

六、次ぎに鏡裏型紙の周圍に糊をつけ、前段表型紙の貼り殘りました他の一方に第百五十六圖の様に貼ります。

七、襠型紙を貼りますには、前と同じに經木を巾一分五厘、丈二寸二分五厘に四本裁ち、貼り方は第七號のノート附紙入の第九十三圖の様に貼ります。而して用布に貼りますのも同様でございます。

第百五十六圖
裏及び鏡裏型の前段表型に貼り込み



八、帶裏型にベタ糊をつけ殘りの裏用布に一方の端へ片寄せて型紙の周圍に一分五厘づゝ用布を殘して貼ります。

九、次ぎに管裏型紙にベタ糊をつけて貼ります。其貼り方は殘りの裏用布の一方の横に片寄せて切込みのある方を上にして八分の切込みが向つて右になる様に型紙の周圍に一分五厘づゝ殘して貼ります。

これて全部貼り終りましたから、それ〳〵用布を裁切るのであります。

先づ被せ表型及び表型、巾着表型、被せ裏型、脇り裏型の用布は型紙通りに裁切り、前段表型及び鏡裏型は型紙の横通りに裁切り、帯表型及び晉差表型、帯裏型、晉差裏型は型紙の周圍に用布を一分五厘づゝ殘して裁落します。

而して巾着裏型として前に裁つて置きました巾二寸、丈一寸五分の物二枚共て全部裁ち終つたのてありますから、各々裁ち目のほつれを防ぐ爲に縁糊を施して置きます。

（四）縫方

一、先づ被せ表の（ハ）の切り込みの一方の端に糊をつけて、脇り裏の（イ）の切り込みの端と中表に重ねて貼合せ、一分の縫ひ代て縫ひ、脇り裏の（イ）の切り込みから切り込みの間に筋を入れその縫ひ代に縁糊をつけ脇り裏の方に返して貼ります。そして外表に返して布裏の方から鏡をかけて置きます。

二、脇り裏の（ニ）の切り込みから切り込みの間に筋を入れ裏の端の方に縁糊をつけて折り返して貼つて置きます。

三、被せ裏の（ニ）の切り込みから切り込みの間に筋を入れ裏の端の方に縁糊をつけて折り返して貼つて置きます。

四、被せ表の（ロ）の切り込みから脇り裏の（ロ）の切り込みの間の兩横に縁糊をつけ、襠の（ハ）の横と中表に重ね、襠の口被せ表の（ロ）の切り込みに重なり、襠用布の貼り目の近い底が脇り裏の（ロ）の切り込みに重なるやう、他の一方の襠も同様にいたします。

五、次ぎに被せ表の（ロ）の切り込みから被せの周圍に糊をつけ、被せの楕形の中の中央を正しく重ねて中表に貼ります。すると表用布は裏用布よりも巾が一分廣く裁つてありますので、被せの兩横て巾が五厘づゝ殘ります。そして被せ表の（ロ）の切り込みと被せ裏の（ロ）の切り込みとを正しく重ね兩横を貼りますと、表用布のたけが一分五厘長くなつて居りますから、その内五厘は楕形の兩横の角て巾の五厘と共に、殘りの一分は襠の口、即ち（ロ）の切込みから（イ）の切込みの間て縮せて置きます。

六、被せ表の（ロ）の切り込みから脇り裏の（ロ）の切り込みまての兩横に糊をつけ、

襠の(ハ)の横を挟んで被せ裏の(ロ)の切り込みから(ハ)の切り込みの間と正しく貼り合はせます。

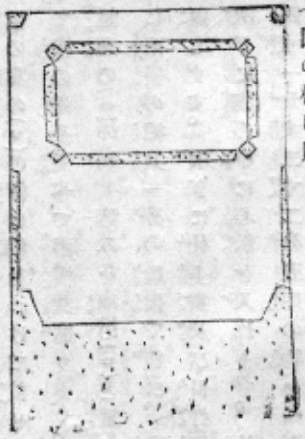
七、次に今貼り合せました縮り裏の(ロ)の切り込みから、被せの周圍を一分の縫ひ代で縫ひ、被せ裏の型紙の方から縫ひ目の直ぐ内側に筋を入れ、その筋から先づ兩横を裏型の方に折つて折目を打ち、よく折癖をつけ、次きに被せの櫛形を折つて兩角の丸味の所には丸味の型を當て、縫ひ代だけを少し濕して扱ひよくし、目打錐でよく丸味を作り鏝をかけて格好を定めて置きます。

八、表型の(イ)の切り込みから、(ハ)の切り込みの間と、縮り裏の(ニ)の切り込みから(ロ)の切り込みと中表に合せます、すると表型の方が一分長くなつて居りますから、表形の(ロ)の切り込みから(ハ)の切り込みの間で縮せます。この所を一分の縫ひ代で縫ひ、其縫つた處を縮り裏の方から縫ひ目の直ぐ内側に筋を入れ、その筋通りに裏の方に折り返してよく癖をつけて置きます。

九、次に鏡裏型の穴の中に薄い糊で引糊をいたして自然に乾いた頃に鏡型の穴の周圍の用布を一分五厘殘して剪り抜きます。そして型紙の穴通りに用布の

方に筋を入れ、その筋の側さて穴の四隅の角に裁ち込みを入れ、裁ち殘した布裏に糊をつけ、前につけた筋卽ち型紙通りに裏に折つて型紙の穴の縁を包んで第百五十七圖の様に貼ります。

第百五十七圖
鏡穴の周圍の用布を裏に折り返して貼る



十、鏡裏型の(イ)の切込みに筋を入れ外表に折り、よく折癖をつけて(イ)の切り込みの折山を前段表型の(ロ)の切り込みに重ねますと、三寸九分の用布が二重に折れます。これが前段の口になるのでございます。

それで鏡裏とて三重になりますから、鏡裏型の(イ)を少し弛めて兩横を三枚重ねて貼ります。而して前段の底に糊をつけて鏡裏に貼つて置きます。

十一、次に表型の(ニ)の切込みから(ホ)の切込みの間と、鏡裏型の(ロ)の切込みが前段表の(イ)の切込みの間を中表に合せ一分の縫代で縫ひ、裏の方から縫目の直

ぐ内側に筋を入れ、裏の方に折つてよく折癖をつけて置きます。

十二、 次ぎに前に縫ひ置きました被せだけを外表に返して仕上げ篦で被せの端及び両角の丸味両横の折り目を正しく致して置きます。これで襠の一方の横は袋についた譯でございます。

十三、 襠の裏の(ロ)の横に糊をつけて被せ裏の(ニ)の切り込みが襠の(ロ)よりも三厘程下げて横の端を揃へて両横共貼ります。

十四、 鏡裏の(ハ)の切り込みを襠の(ロ)と重ね、鏡裏の(ロ)の切り込みと襠の底の重なる様に両横の襠共一分の縫代で縫ひ、裏の方に筋を入れ折癖をつけ袋全體を外表に返します。次ぎに仕上篦及び目打錐の尖で折り目を正して置きます。

十五、 次ぎに袋の中に心紙を入れます。始めに鏡中の方から致します、厚板目紙で横四寸一分丈二寸二分五厘の物を裁ち両横に糊をつけ、糊のついた方が縫ひ目につくやうに差し込み、目打錐や仕上篦で形を直して置きます。

十六、 次ぎに被せの心紙を入ます、九番張子紙、横四寸一分丈二寸の物一枚裁ち、丈の一方で楕形に合せて裁ち、両角で二分の丸味をつけて、もう一方の

端て一分の巾に糊をつけ、前と同じに被せの中に入れてよく形を正して置きます。

十七、 襠の中に入れる厚板目紙を横四寸一分、丈二寸三分に裁ち両横に糊をつけて、襠の(ロ)から底を一ぱいに入れてよく形を正して置きます。

十八、 胴に心紙を入れるのでありますが先づ厚板目紙を横四寸一分丈五寸に裁ち丈の一方から二寸三分に紙の裏の方へ筋を入れ、他の一方から二寸二分五厘に筋を入れ、そして両横に一分の巾に糊をつけ糊のついた方が両横の縫ひ目につくやうにして、二寸三分の方が表型の(イ)の切り込みから(ロ)の切り込みの間に這入る様に、殘りの丈が表型の(ホ)の切り込み迄に落ちつく様にして差し込みます。そして形を整へて置きます。

十九、 次ぎに鏡裏型の穴の裏の周圍に一分の巾で糊をつけ、巾一寸八分、丈三寸八分の鏡の裏の方に糊をつけ、鏡の中央と鏡型の穴の中央に外が表に見える様に入れてよく貼つて置きます。

二十、 次ぎに鏡裏の(ハ)の切り込みから切り込みの間に筋を入れ、裏の方に折

り目と貼り合せ裏の方からよく鏝をかけて置きます。

二十一、表形の(ロ)の切り込みから(ハ)の切り込みの間に二分五厘の厚さの驒り板を挟て箱形に折り癖をつけて置きます。

二十二、表型の(ホ)の切り込みに筋を入れ、裏の方に返して心紙と兩横の縫ひ込みとを包んで貼り、(ホ)の切り込みの方のみ五厘ふかせて更に前段表形の(イ)の切り込みと貼り合せます。

二十三、次ぎに表型の(イ)の切り込みから切り込みの間に筋を入れ、裏の方に折つて心紙と兩横の縫込みとを包んで貼り、(イ)の切り込みが七厘ふかせて更に驒り裏型の(ニ)の切り込みと貼り合せます。

二十四、次ぎに表型の(ロ)の切り込みと(ハ)の切り込みを裏用布の方に折つて箱型の中に二分五厘の厚さの驒り板を挟んで驒りを致します、前に用意して置ました驒り糸を半分に切り、驒り針に通して被せ付兩驒り紙入と同様の方法て、一分の隔りにして兩横に千鳥かけを致します。

二十五、剣紙を、巾四寸一分丈はそのまゝ七枚程別々に折りまして丈の一方

（入）

の端から四寸四分五厘のところに標をつけ、その標通りに折り、殘りを又四寸四分五厘丈の方に返して折り、それを更に二つにいづれも別々に折ります。この折りました一つの輪の方を七枚共重ね、驒り中に一つの輪の方が上に見える様に入れて置きます。

二十六、鏡型の前口には巾三寸二分丈二寸二分丈の心を作り前口の中に入れて、さうして丁寧に仕上げをして凸凹や小皺を取り、形を正しく整へて置きます。これて袋の方はすつかり出來上つた事になります。

二十七、附屬品を拵へますが、先づ巾着表の口の端に糊をつけ、裏用布の丈の一方の端と中表に貼り一分の縫ひ代て縫ひます。そして裏用布を表型通りに裁ち切り、縫ひ目の直ぐ内側に裏型の方から筋を入れ、縫ひ代に裁ち込みを入れて裏の方へ折つてよく折り癖をつけて外表に二枚共返します。

二十八、次ぎに口を除いた他の三方の表型に五厘の巾で糊をつけ、裏用布と外表にして、底の方を袋取つて貼ります。そして裏用布を表側に合せて裁ち捨てるのであります。

二十九、表用布の方を中表にして二枚重ねて口を除いた他の三方を縁縢して貼り一分の縫ひ代で縫ひまして縫ひ目の直ぐ内側に筋を入れ、縫ひ代に裁ち込みを入れて一方の方へ片返しにしてよく折り癖をつけて外表に返し、丁寧に仕上げを致しまして、格好がよくなるやうに木綿を入れて置きます。

三十、次ぎに雨横の(い)の筋を外に折り(ろ)の筋を中に折り、巾着袋を取りまして(第百五十四圖の巾着の型紙の圖を參照)そして第百五十八圖の樣に巾の中央から雨横に向つて上の口から二分、裏山から一分のところに表用布と同じ色の糸を通してしつかりと結んで置きます。

第百五十八圖　巾着の口の方



三十一、次ぎに模樣の勝れた方を選んで巾着の表側と致し、二尺の打ち紐を内八分に切り殘りの打ち紐を通して紐の兩端を共色の糸で膠りつけて巾着の紐結びを致します。

三十二、次ぎに帶を作ります。帶表の用布に型通りに筋を入れ、用布の周圍に縢をつけて、型紙の方へ折つて貼ります。この時兩端の丸味を角立たぬ樣に形よく貼らねばなりません。

三十三、次ぎに今貼りました帶表型に兩端共二分遣入つた所に筋を入れ、中の方へ五厘おきに三本筋を入れまして、帶の中央に七分明けまして筋を入れ、七分より外の方へ五厘おきに三本筋を入れて置きます。

三十四　次ぎに帶裏の用布に型通りに筋を入れ、用布の周圍に縢をつけてその筋から折つて表にならつて、型紙に貼りつけます。そして帶裏の裏の方に縁をつけて外表にして帶表を貼り合せます、その貼り方は初め丈の一方の端から二分の所に入れてある筋と筋とを貼りながら鋏をかけて筋から折り、次に中央の

第百五十六圖　紐結びの方

(イ)



(ロ)



(ハ)



(ニ)



(ホ)



(ヘ)



(ト)



(チ)



（出來上り）

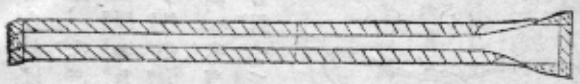
七分の所を鍛をかけながら箱形に折つて裏表を過不足なく貼るのであります。

三十五、次に丈の両端から各々一分づつ這入つたところに巾の中央に鳩目抜きの小の方で穴を明け、その周囲にボタンの穴縢りを致して置きます。而して巾着の紐の輪に用意してあります赤の玉を二個通し、その輪を更に第百六十二圖の様にして帯の両端の二つの穴に通し、輪の中に巾着を外れない様に致してから、赤い二つの玉を一つは巾着の紐の弛まぬ様に巾着の紐止めに、一つは帯の紐が弛まぬ様、帯の紐の止めに帯の所に置くのであります。

三十六、次に簪差を作りますが、先づ簪差表の用布に型紙通りに筋を

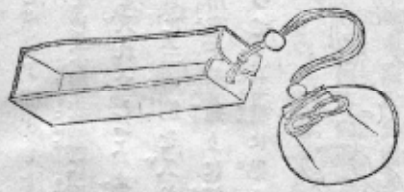
第百六十一圖

簪差し表に裏を貼り込む



第百六十二圖

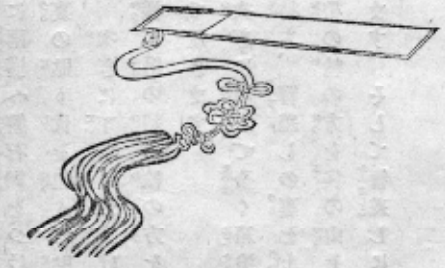
帯と巾着との出来上り



入れ、簪差表型の二分斜めになつてゐる丈の方をその筋から折つて用布に糊をつけて貼りつけ、簪差の裏の用布に型通りに筋を入れ、左右の鉤の手から下の用布を型通りに切捨てます。そして巾の広い所の丈の端を筋から折つて貼り、第百六十三圖の様に簪差表型の斜の端に裏型の鉤の手を重ねて、型紙の外に出てゐる二分の裏用布と表用布とを接ぎ合せて長いものと致しましてから、簪差表と裏の用布の両横に糊をつけて筋から折つて型紙に貼りつけます。

第百六十三圖

簪差しに房をつける



三十七、次ぎに簪差し表型の斜てない一方の端から向つて裏の方を見て右の方に、前に巾着の紐を入分切つて置きましたのを二つに折り、端から一分這入つた所に紐の輪の方を一分出して糊でよく付けて置きます。

三十八、次ぎに簪差し表型及び筋差し裏型

の裏の方に兩横へ磐石劑をつけて二つに折り、貼りつけ表型の丈の壁の縫ひ代て管差の裏の貼り代を包んで貼つて置きます。

三十九　次ぎに丁寧に仕上げを致しまして、前に紐てつけました輪に第百六十三圖の様に房の紐の輪の方を通して、更にその輪の中に房をくゞらせてしつかり締めて置きます。

四十、次ぎに以上て全く箱迫が出來上りましたから、蔽せを向ふに向かせて左の手に持ち、管差しの裏を上に向かせて、房が右になる様に蔽せの山の中央に載せ、帶の輪の方を袋の山を跨らせて袋を挟ませたまゝ紐を締めて、玉て止めて置きます。そして管差しに管を差して置きます。（完）

袋物講義　參

